三橋材木店

三橋　育　歳

明治三十九年生
營業所　東京市板橋區板橋一〇ノ二六八七

氏は神奈川縣人で、鎌倉町に生れた人である。年少にして既に實業を以て身を立てんと欲し、材木商に特殊の興味を持つたのであつた。夙に上京して、深川區木場の井芳材木店に投じて身を寄せて、斯業の習得に專念し、後、武昇材木店に轉じて業界の研究に、實地業務の習得に精勵したのであつた。其の結果、年來の希望實現の第一歩を踏むべく、地を現在の場所に選んで、內外材木一般の經營を獨立開始したのであつた。時に昭和四年である。而して、氏は草創の難關打開の時に當り、家弟を呼んでその指導下に置ら、他日の獨立を準備せしめたのであつた。かくして十餘年の奮鬪は、よく今日の盛況を贏得たるのみならず、家弟亦獨立して、現に同區內美津屋材木店主となつた、氏の重厚なる風格は、四隣の人望を嘆めて、現に推されて町會役員である。

清美津屋材木店

三橋　清　歳

明治四十三年二月廿六日生
營業所　東京市板橋區上板橋七ノ四四七三

氏は神奈川縣出身者である。即ち、鎌倉町に生れた。家兄は、板橋區志村の三橋材木店である。氏は少壯にして、家兄の後を逐うて材木商たるべく志し、上京して中野の勝又材木店に入り、刻苦精勵、斯業の修得に專念し、更に、家兄の下に身を寄せて、業務を援くるの一方、斯業の研鑽に努力したかくて、業界の巨細を把握し會得するや、念願を成就すべく現地を卜して店舗を設け、獨立して營業を開始した。昭和十一年、氏二十六歳の時である。爾來、氏の潑剌たる意氣は、家兄の指導宜しきと相俟つて、顧客の獲得に成功し、加ふるに當方面の開發日に著しきが故に、開業日尙ほ淺きに拘らず逐次業績を擧げて、今日に及んで居る。

丸山材木店

丸山　信　雄

大正元年九月十三日生
營業所　東京市板橋區板橋町九ノ二三三〇

氏は東京市の出身で、木所區に生れた人である。高等小學校卒業後、材木業を以て身を立てんと志し、神田區柳原町の高藤材木店に入つて、斯業の實習に專念する事、實に十年餘の長期に亘り、具に辛酸を嘗めて斯業の巨細に練達し得たので、昭和十二年八月、多年の宿望たる獨立自營の店舗を創めて、內外材木一般の取扱を開始したのであつた。氏時に二十五歳。少壯氣鋭の氏は、勇躍業域の擴張、業基の强化に精進した結果、開業以來日尙ほ淺きに拘らず、業績大いに擧つて今日に及んで居る。氏は春秋に富む。當方面の開發日に加はると相俟つて、その前途、正に刮目に價するものありと云はれて居る。

大阪屋支店

松本又五郎

明治四十四年生
營業所　東京市板橋區板橋一〇ノ二四九八

氏は埼玉縣の出身で、浦和市に生れた人である。少年の頃既に實業家を志望し、東京に出でゝ、材木業修業の爲、淺草區の大阪屋材木店に入り、夙夜懈らず、忠實業に服したるがため、上は店主の信頼を蒙り、下は同輩の好模範となつた。かくして、永年に亘つて業務研鑽の結果、業界の事情、掌を指すが如く明となつたので、多年の念願を成就して、地を現在の場所に選び、暖簾を分つて大阪屋支店を稱し、內外材木一般の販賣營業を、獨立開始するに至つた。時に昭和十二年氏は二十六歳の七月である。爾來、未だ年虐を經ず、草創の時代であるが、氏の圓熟せる手腕を以つてすれば、その將來は期して俟つべきものありとは、業界の齊しく認むる所である。

栃木屋材木店

寶示戸要助

明治四十五年生
營業所　東京市板橋區板橋町九ノ二二六八

氏の父君は栃木縣野木村の出身であるが、氏は、東京市下谷區車坂町に生れた。年少の折から、材木商たらんと希望し深川區木場の前光材木店に勤めて、斯業習練の一歩を踏んだ乃ち、永年に亘つて、忠實に自己の實務を果す一方、窮屈斯業の研究を忘れず精勵した甲斐あつて、業務練達の士として同輩に拔んづるを得たのであつた。かくて多年の希望を實現すべく、現地に店舗を設け、內外材木一般を取扱つて、獨立開業したのであつた。時に昭和十二年、氏二十五歳の五月である。爾來、氏の奮鬪は、草創の難關を突破すべく傾倒せられ、著々業績を擧げ今日に及んで居る。尙ほ氏の重厚なる風格は頗る町內の信望を嘆め、この地に住して期年ならずして町會役員、隣組々長等に推されて居る。

福芳材木店

福田芳彌

明治四十四年生
營業所　東京市板橋區志村町一八八七

氏は栃木縣の出身である。同縣河內郡豐岡村に生れた。高等小學校を卒業するや、材木商を志して上京し、斯業修練のため本所區龜戸の萬富材木店に勤め、夙に起き夜に寢て、業を懈らず、具に斯業の辛酸を嘗むる事、十年に餘る長期に亘つた。かくして、斯業の事大小となく通曉し得たので、多年の宿望を達すべく、地を現在の所に選んで店舗を張り、內外材木の販賣に獨立したのであつた。時に昭和十年三月、氏二十四歳の折である。爾來、氏は、堅實主義を營業方針として孜々として業務に精勵した結果、恭年ならずして、業礎先づ堅く、逐年其の業績を擧げて今日に及んだ。氏は資性重厚、頗る衆の重んずる所となり、選ばれて現に町會評議員である因に氏の取引銀行は、武州銀行及び安田銀行である。

山。林材木店

林　仙　助

明治二十七年生
營業所　東京市板橋區志村清水町四六二

氏は栃木縣の出身である。少壯、志を抱いて上京し、具に世の辛酸を嘗みて奮鬪努力、遂に獨立するに成功して王子區内に新古材木商を經營する事多年であつたが、昭和十一年、現地の發展性あるに着目し、永年の地盤を去るの一大決斷を敢てして、志村第一小學校際に新に店舗を設けこゝに移轉すると共に、新古建具、古材瓦石等販賣の外、建築請負等を開始したのであつた。爾來、氏は老練の才腕を振つて、工場方面の顧客層を獲得して、業基の强化に努め、以て、業績見る可きものがある。しかも、氏の活眼遂に氏を欺かず、逐年當方面の發展著しきを以て、氏の特殊なる營業方針の飛躍的成功は期して俟つべきであらう。

十　中村材木店

中　村　好　次

明治四十三年生
營業所　東京市板橋區上板橋二ノ六五六九

氏は埼玉縣の出身者で、同縣吾野に生れた人である。少年の頃、材木商たらんと欲して上京し、池袋の竹内材木店に入り、夙に起き夜に寢ねて業務に精勵し、一切の欲望を克服して偏に斯業の實地習得を心懸けたのであつた。かくして少年の日を經過し去つたものゝ、決して徒爾ではなかつたのである。即ち、氏は斯業に靈く通曉し得た昭和十二年の八月、現地に店舗を設けて、内外材木一般の販賣を開始し、獨立自營以て、年來の志望を達成したのである。爾來、氏は、堅實主義の下に奮勵又奮勵。未だ草創の期を脫せずと雖、已に業礎堅からしめ、大に業績を擧げて今日に至つた。尙ほ春秋に富める、氏の練達せる手腕を以てすれば、氏の將來は正に嘱目するに足るものがある。

中　中村材木店

中　村　明

明治三十六年生
營業所　東京市板橋區板橋町四ノ一一二七

氏は東京出身で、本郷區駒込千駄木町に生れた人である。年少、材木商を志して同じく本郷區春木町の遠民材木店に勤め具さに斯業習得の辛酸を嘗めつゝ、克己勉勵、遂に業務に精通せる確信を得たのであつた。そこで、現地の將來發展すべきを洞察し、店舗を設けて、内外材木は素より、床柱、天井板、ベニヤ板等の販賣營業獨立を開始して、年來の希望を達し得たのであつた。時に昭和五年、氏二十七歳。爾來積極的經營方針の下に、奮鬪努力、業域の擴張、顧客の吸收に專念し、遂に、十年の星霜を閲して、今日の確固たる業基を築き上ぐるに成功したのであつた。氏の醇朴なる資性は、大に德望を篤め得て、現に町會幹事として、警防團副班長として町内自治の爲に盡瘁して居る。因に氏の取引銀行は、日本畫夜銀行池袋支店である。

中里材木店

中　里　德　二

明治三十七年六月十五日生
營業所　東京市板橋區板橋町三ノ四六

氏は栃木縣人であつて、同縣芳賀郡益子町に生れた。年少青雲の志を抱いて上京し、具に行路の險難を踏んで、尙ほ志を捨てず、遂に馬力運搬業を營んで、獨立獨歩の第一段階に上つたのであつた。素より斯業は氏の甘心する所ではない。氏の望む所は材木商たらんとする一念に燃えて居つたのである。されば、本郷區吉祥寺町粕屋材木店の專屬馬力となつて材木運搬をなす傍、暇あれば該商の業務を研究し修習する事多年。業界に通ずるを得て、遂に宿望を達し、現地に馬力業と兼ねて材木販賣を開始した。時に昭和八年二月。後、馬力運送は時世の推移に隨つて廢業し、薪炭の營業種目を擴張し業務に眼勉精勵、以て今日に及んで居る。

松橋屋松幸材木店

高　橋　幸　藏

明治三十九年生
營業所　東京市板橋區板橋町八ノ二一〇五

氏は埼玉縣人である。即ち同縣北足立郡戸塚村に生れた。小學校を卒へると同時に、實業を以て身を立つるべく決意して上京し、材木商を擇んで斯道習得の爲に淺草區厩橋の松銀材木店に身を寄せ、刻苦精勵、業務の實習にいそしむ事、實に十有七年餘の永きに亘つた。かくして、業界の巨細に通曉し得たので、宿望たる獨立自營の店舗を開始すべく、現地を相して居を定め、松字を許されて商號とし、内外木材一般、ベニヤ板等の販賣に從事したのは昭和十一年九月、氏三十の時である。爾來、氏の圓熟せる手腕と、業務に對する熱意はよく草創の苦難を打開し得て、其の業績逐年見る可き者あつて、將來當方面の發展を豫想する時、氏の前途、又、洋々と云はざるを得ない。因に氏の取引銀行は、第一銀行である。

治　清水材木店

清　水　政　治

明治二十七年三月二十日生
營業所　東京市板橋區板橋町三ノ四八四

氏は埼玉縣出身で、同縣南埼玉郡鷲ノ宮村に生れた。年少にして實業家を志し、材木業を擇んで、其の道修業の爲め上京し、下谷區なる小森材木店に入り、眼勉業務を執つて、習得に研鑽に、倦まず撓まざる幾年の後、遂に斯業に精通し得て、大正八年、淺草區北清島町に店舗を設け、内外木材を販賣して、獨立經營、以て多年の念願を果したのであつた。然るに草創幾何ならずして大正十二年の大震災に遭遇し、影響甚深なる者があつたが、氏は不屈の精神を奮つて、店舗を現地に新設し練達の手腕よく帝都復興の氣運に乘じて、現在の大をなすに成功したのであつた。氏の篤實にして果斷なる風格は、四隣の德望を篤め、現に推されて町會役員、衛生委員であり、且つ、選れて在郷軍人會の理事である。因に氏の取引銀行は、日本畫夜銀行である。

椎橋材木店

椎橋　丑松

明治三十四年生
營業所　東京市板橋區志村本蹟町二八一

氏は埼玉縣人である。即ち入間郡高麗村に生れたのである年少、實業に從事すべく志し、材木商を選んで斯業の修業を欲し、上京して池袋の新井材木店に入つて、辛水の勞を厭はず、精勵刻苦、斯業實地の習得に努めた後、業界の亘細に通曉し得たので、昭和二年、地を現在の所に選んで建具商を獨立經營し、少年當時の理想を實現し得たのであつた。時に氏二十六歳、かくして、氏は欣然として業務に精進したのであつたが、商機に敏なる氏は、現地の發展日に日に著しさに着目して、昭和四年、建築用材一般の取扱販賣を開始して、業務の擴張を計り、爾來、逐年業績を擧ぐるに成功して、業礎の强化を招來し、以て現在に及んで居る。

柴田材木店

柴田　幸作

明治三十七年生
營業所　東京市板橋區板橋町四ノ一一四八

氏は栃木縣の出身で、同縣上都賀郡落合村に生れた。年少材木商を志して上京し、深川區木場の宮銀木材店に身を寄せ具に斯業習練の苦難を嘗め、しかも寸時も斯道修業の目的を捨てず、拮据精勵、爲めに、店主の信頼を蒙ると共に、同輩の好模範であつた。かくして、斯界の事亘細となく通曉し得るや、宿望を達し得て、現地に店舗を設け、材木一般の營業を、獨立經營する事となつた。時に昭和六年一月、氏二十七年の春である。爾來、氏は欣然として業務に精勵し、業基の强化を計り、業域の擴張を努め、遂に業績大に擧がつて今日に及び、店員一名を置いて、店勢頗る順調である。

勝山材木店

勝山　正秋

大正元年生
營業所　東京市板橋區志村前野町一〇六八

氏は千葉縣の出身で、山武郡土氣本郷町に生れた。年少、材木商たる斯業の修練を志し、上京して本所區小梅町なる島根材木店に身を寄せた。そして刻苦精勵、業務の習得に專念した結果、業界の事大小となく掌を指すが如く明になつたので、地を選んで現地に店舗を設け、內外材木一般、床柱、天井板等の販賣を獨立經營し、以て多年の念願を達し得たのは昭和十一年、氏二十四歳の時である。爾來氏は、少壯の意氣と練達の手腕を以てし、加ふるに實弟二名店務に協力するあつて、逐年業績を擧げ、草創日尙ほ淺きに拘らず既に業礎の堅きを得て、業界に新進の氣を吐いて現在に及んで居る。なほ氏は陸軍工兵伍長であり、昭和十二年九月應召して日支事變に出征し、同十三年三月末凱旋した勇士である。因に氏は武州銀行を取引銀行として居る。

乙津材木店

乙津　末廣

營業所　明治三十五年十一月六日生
東京市板橋區板橋町八ノ二〇六六
電話板橋二六三番

氏は東京府下西多摩郡小宮村に生れた。年少にして實業を以て立つべく決意し、上京して、深川區木場の柏木材木店に身を寄せた。蓋し、材木商を志して斯業習得の爲である。されば、曉役業より厭ふ所に非ず、惟だ忠實業に服して、斯業の通達に努めた結果、遂に業界の機微に通じ得たので、年來の志望を果すべく、現在の地に店舗を設け、內外材木一般を取扱つて、獨立した。時に昭和六年、氏二十九歳。爾來、氏の奮鬪努力は、現地逐年の開發と相俟つて、顯著なる業績を擧ぐるに成功して今日に及んで居る。氏資性淳厚にして頗る衆望を獲て居り、現に町會の役員に推されて居る。因に氏の取引銀行は、日本貴夜銀行である。

內田材木店

合資會社　代表社員　內田鐵太郎

明治二十四年十二月三十日生
營業所　東京市板橋區練馬南五ノ七〇六五
電話練馬七六番

當店は、元來、鐵太郎氏先代の創業に係り、五十年來の老舗にして、業界に著聞する店舗である。氏が箕裘を襲いで後時世の推移に從つて昭和十一年組織を合資會社に改めたが、依然として實際に於いて、氏の個人經營に屬し、其の營業種目の如き、一般材木の外、昭和九年の頃より、或は腕木、船材等に用ゆる棒材を主とし取扱ひ、或は薪炭、煉炭等の販賣を行ふ等の擴張をなし、一に氏の積極的手腕に依つて、逐年業績を擧げつゝあつて、現に從業員十二名を置き、店勢頗る活潑である。而して、氏は、別に大島市場の代表社員たる外に、舊家の當主にして資性の篤實なるとに依つて、甚だ德望あり、現に推されて町會の役員である。因に氏の取引銀行は安田銀行及び八十五銀行である。

阿藤材木店

阿藤　武善

營業所　明治三十二年一月一日生
東京市板橋區板橋二ノ四四九
電話板橋一二五八番

氏は長野縣下高井郡瑞穗村の出身、十七歳の春單身上京して豐島區西巢鴨町鈴蟲材木店に於いて九ケ年間奉公、大正十三年創業、一般建築材を深川木場より仕入れ、これを一般建築業者及び、居職方面に販賣してゐるが、所謂軍需工場地帶として數年前よりの發展は著しきものあり、氏の力量と手腕が、遺憾なく發揮されて、遂に一流材木店として確固不拔の地位を築き上げ、大東京材木商業組合の板橋支部長を經て、現在は同組合理事の要職にあり、業界內に於ける信望も厚い從業員二名、取引銀行は日本貴夜銀行である。因みに實弟定雄氏は中野區野方町一ノ七〇五に同じく材木商を開いてゐる

株式會社 丸喜商店

社長 町田吉之助

明治三十四年四月十日生
營業所 東京市板橋區志村小豆澤町六六八
電話赤羽二一九一番

氏は、埼玉縣入間郡名栗村の出身で、年少、實業界に活躍するを念願とし、志を立てゝ鄉關を辭し横濱市に至り、神奈川區なる江戸重材木店に入り、斯道の修練に幾星霜を閲した後、業務錬達の域に達したので、一時、飯館町に、內外材木を取扱つて店舗を設けたが、志村清水町なる飯島材木店に聘され、店舗を閉鎖して同店に入り、忠實精勵、よく主家の興隆に資したのみならず、氏自らの手腕に一層の錬磨を致したかくて、昭和十二年二月現地に店舗を設け、合資會社に昭和十四年株式會社として自ら代表となり、獨自の手腕を振ふた創業、四年を經たに過ぎないが、老練圓熟の手腕よく基礎を堅くし、顧客を獲得し、業績を擧げ店員四名を置いて、當方面屈指の店舗として勢威を張る現況である。本年一月大東京木材商業組合板橋支部長に推さる。

西 西鐵材木店

西村鐵三郎

營業所 東京市板橋區板橋町七ノ三八三

氏は、年少にして實業に就いて身を立てんと志し、材木業の有利多望なるを知り、幾多の波瀾曲折を經て、斯業を修得し新宿に店舗を構へて、獨立の念願を果し得たのであつた。しかして氏の奮鬪努力は、よく草創の難局を克服して、逐年業績を擧ぐるに成功した。後、昭和三年、現地の他日有望なるに着目し、遂に移轉を敢行して、新なる試練に堪へ、活腕よく今日の業礎を築き、業域を廣め、着々業績を擧げつゝあるなほ、氏は移轉以來、製材を主として營んで顧客の需要に應じ、以て店勢を張るに利する所頗る多大である。氏は重厚の風格、甚だ四隣の信頼を贏得て、永年町會長に推されて、公共の爲盡す所鮮少でない。なほ氏の子息は今次の日支事變に應召して勇躍出征の途に就いた。

平 平健材木店

平松憲一

明治二十九年生
營業所 東京市板橋區板橋一〇ノ二六八七
電話板橋一四一〇番

氏は山梨縣の出身者である。夙に青雲の志を抱いて上京し具に人生の試練を經てしかも屈せず、遂に、巣鴨に材木業を獨立經營するに成功した。時に大正十年十二月、氏二十五歲而して、拮据業務に精勵して餘念なかつた際、偶々大震災に遭逢して甚大の影響を蒙つたのであつたが、氏の奮鬪的手腕は、よく店勢の挽回に成功した許りでなく、帝都復興の景況に乘じて、業域の擴張に、業基の强化に、最大の努力を傾倒し、逐年業績を擧げ潑剌たる店勢を持續して今日に及んで居る。當方面の發展は、更に將來性のある事とて、氏の將來も亦た嘱望に價する者ありと云はれて居る。

定 今川材木店

今川定一

明治三十三年九月生
營業所 東京市板橋區板橋町三ノ一九四
電話板橋九二七番

氏は江戸子である。深川區六間堀に生れた人である。環境の然らしむる所、年少にして既に材木商を志し、小學校を卒へると共に、同區平野町なる松永木材店に勤め、具に斯業の辛酸を嘗めて、修業する事十年に亘り、業界の事大小となく知る所となつたので、大正十三年、現地を選んで獨立開業して宿望を達し得たのであつた。即ち氏二十四歲の時である。爾來、氏の錬達せる手腕は、當方面の發展と相俟つて、逐年順調の業績を擧げ、十有六年の星霜を閲して今や樂觀的營業を續けつゝある。而して氏の四滿にしてしかも實直なる風格は、町內四隣の欽慕する所となり、推されて、町會會計警防團班長、板橋材木商組合會計、小學校保護者會評議員等々の責を負ひ、特に大東京木材商業組合評定員として、業界に重きをなして居る。因に氏の取引銀行は安田銀行である。

上 新井材木店

新井實藏

明治二十二年四月生
營業所 東京市板橋區板橋町一ノ一七三

氏は埼玉縣の出身で、同縣入間郡梅園村に生れた。年少、實業に就いて身を立つるべく、材木業を擇んで修業せんと志し、上京して具に人生の試練に堪へた後、大正三年、遂に鴨に獨立開業するの成功を見たのであつたが、大正十二年、偶々大震災に遭遇して甚大の影響を蒙つた。併し、不撓不屈の氏は、直ちに同年十二月、現地に店舗を新設し、老練圓熟せる手腕を振つて、引續く帝都復興の氣運に乘じ、大に挽回し得て、よく今日に及び、取扱ふ所、內外材木の外、建具一式に亘つて、營業活潑にして、業績顯著なるを得た。氏の精勵は、當方面今後の發達と相俟つて、將來に期し得て甚大である。

源 青柳材木店

青柳源次郎

明治三十八年生
營業所 東京市板橋區板橋町三ノ九〇

氏は東京府下西多摩郡三田村の出身である。高等小學校を優秀の成績で卒業した氏は、實業家たるべく青雲の志を抱いて父母の膝下を離れて上京、材木商の業道を修習せんとして深川區西町の山崎材木店に入り、鼎校脈ふ所に非ず、夙夜懈らずして、只だ斯業の錬達を望み、拮据旭勉十星霜の後、業界の事大小となく悉く通曉し得た氏は、勇躍宿願達成の日到れりとなして、地を現在の所に相し、店舗を設けて、獨立自營、內外材木一般、床柱、ベニヤ板等の種目を營業するに至つた。時に昭和六年、氏二十六歲。爾來、多年錬磨の手腕を縱橫に振つて顧客の吸收に努め、幾何ならずして業礎の强化に成功し、逐年、業績を擧げ得て、以て今日に及んで居る。

嬉野材木店

吉原淺太郎

明治四十一年生
營業所　東京市板橋區板橋町五ノ七五三

栃木縣上都賀郡今市町材木店吉原淺吉氏長男として生まれた氏は修行の爲十四歳にして上京、當店の前身たる同町六丁目にあつた嬉野材木店に入店したが、主家が都合に依り廢業する事となつたので、長年勤務の勞を報ひられ商號を其の儘に譲り受け昭和十四年九月現地に創業した。主家の得意先全部を繼承して内外建築材を取扱つて頗る殷賑を呈し、從業員七名(同區内同業者中最高數)を使用してゐる。當主の厳父も青年時代嬉野材木店に長年勤務し父子二代に亘つて主家に盡力せし所少からず、現在六十三歳の高齢に達し尚壯健、創業日淺き當店の隆盛の基礎を築くべく、當主を補導してゐる。

因みに取引銀行は、八十五銀行である。

森澤材木店

森澤益雄

大正二年七月二十日生
營業所　東京市板橋區板橋町十丁目

氏は栃木縣上都賀郡永野村農家の出身、十四歳にして上京して荒川區小平材木店に入店修行し昭和十四年六月、當地の最近の發展著しきに着目して獨立したもの從業員二名を使用し、居職材を主として建築材をも併せ取扱つてゐる。創業日淺く當主尚若年乍ら、當地に著目した事は時節柄場所柄として眞に當を得たものとして將來を期待せられてゐる。

鶴岡材木店

鶴岡一郎

大正十年生
營業所　東京市板橋區上板橋六ノ四八四一

當店は創業以來參代目の老舗である。内外材木、ベニヤ板造園材料、丸太等を取扱つて古くより名を知られてゐる店で大正六年現在の所に移轉し、先代より一般建築材をも取扱ひ殊に最近工場地帶として附近工場に得意が多い。仕入地は深川及本所市場、從業員二名である。先代敬藏氏は昭和十四年參月五十七歳を以つて病歿したので若年乍ら當主其の後を繼承し業務一切を管掌して今日に至つてゐる。最近は時局の關係から場所柄可成りの繁忙を呈してゐる模樣で先行有望店の一つであらう。

大山四ノ一〇九一
板橋町三ノ三二七　岡田軍郷
同　二ノ五〇〇　柏倉安雄
同　一ノ二四五五　松澤鈴吉
電話板橋〇五二一番
電話板橋一二六七番　鈴木助治郎

板橋町三ノ四六六　栗山鐵三郎
同　二ノ三八一　博田石太郎
同　四ノ一一七〇　荒井彌市郎
上板橋町一ノ三五二　深井監次郎
同　一ノ二四七　野口隆二
板橋町五ノ一〇六四　岩崎三代治
同　四ノ一四九五　勝又吉郎
同　八ノ五四七　笹川喜作
同　十ノ三一八〇　戸部知星
電話板橋一一〇二番
電話板橋〇八四八番
電話板橋一四四一番

瀧野川區

中村樫材店

中村吉五郎

明治二十二年四月三日生
營業所　東京市瀧野川區田端新町一ノ八三
電話下谷二一一七番

當店は宇都宮市塙田町二七八の森屋中村直吉氏（同市に於いては屈指の實業家とされ鐵道運送業を兼ねて木材業を營んでゐる）の支店と云ふべきものである。當主は栃木縣芳賀郡中川村馬門農家大森家の次男として生まれ、十一ヶ年間兵役に服し大正三年同七年の日獨戰爭に參加して勳七等を賜つた陸軍歩兵軍曹である。除隊後前記森屋に入店修行中主人中村直吉氏に望まれて養子となり、大正十三年震災後帝都の復興資材需要旺盛なるを見て事業擴張の好機なりと洞察し現地に携出して中村材店として開業したに始まる。現在は產地より樫材、樽材を仕入販賣し從業員五名あり、日本興業銀行動坂支店が取引銀行である。

早川材木店

早川林

明治四十一年三月十七日生
營業所　東京市瀧野川區田端新町一ノ一一一
電話下谷〇二七〇番

氏は愛知縣碧海郡富士松村の農家に生まれ、十三歳の折上

京下谷區入谷町富田屋本店に入店修行中、昭和九年現地に富田屋の寮場を新設する事になり日頃の忠誠を認められて、寮場主任に拔擢されたのが今日の成功を爲す第一歩で、昭和十三年一月より富田屋より離れて、氏の直營とし、早川材木店と名を變へ店主となつた。居職材を專門に取扱ひ、仕入地は深川木場市場である。氏は富田屋に勤務中二十一歳の時優良店員として東京材木商同業組合より表彰を受けた事あり、現在は町會役員、警防團役員を兼ねてゐる。因みに取引銀行は第百、第一兩行である。

杉江材木店

杉江繁太郎

明治二十四年生
營業所 東京市瀧野川區田端新町二ノ五三
電話下谷六五五四番

氏は愛知縣寶飯郡形原町の商家の三男に生まれた、十七歳の折上京、淺草區内に於いて一流店として著名の同區永住町前田商店に入り修行、日獨戰爭勃發するや、應召出征し勳七等に叙せられて歸還し、大正七年現地に獨立した、氏の主家たる前田商店が北海道材、南洋材、家具用材を扱つてゐた關係から同樣其れ等の商品を販賣し同方面に於いて特殊な販路を有してゐる。現在、町會役員であり往年在鄕軍人分會役員たりし事もあり、地元に貢獻してゐる所多い。因みに取引銀行は、日本勸業銀行尾久支店である。

山友材木店

山崎友吉

明治三十六年七月十六日生
營業所 東京市瀧野川區田端新町三ノ五四

埼玉縣北葛飾郡田宮村の農家に生まれた。氏は十四歳にして志す所あり、上京し神田區豐島町の小梅材木店に入り、斯業を實地に修業した、後、昭和五年、現在の所を選んで獨立創業し、爾來、店運益々隆盛を加へ、現在では從業員二名を擁し、地元よりも信望を得て町會役員に推されてゐる。取扱品は主として建築材で、深川木場市場より仕入、一般建築業者に販路を有してゐる。

三由材木店

大曾根懸

明治三十六年四月四日生
營業所 東京市瀧野川區田端新町二ノ五五

千葉縣五井町の農家に生まれた、氏は早くより材木商を望んで、十六歳より鄕里の材木店に入店し修業する事十ケ年、更に二十五歳にして上京、淺草區三久材木店に入りて四ケ年研鑽し、昭和六年一月十九日現在の所を卜して創業したものである。取扱品は建築材一般、仕入地は本所及深川、得意先は一般建築業者で相當廣範圍な販路を有してゐる。公職は町會役員、警防團役員、保護者會理事等歟任し地元の有力者としても、認められてゐる所である。

駿河屋

西島廣雄

明治三十八年生
營業所 東京市瀧野川區田端新町二ノ五七
電話下谷七五八四番

氏は靜岡市傳馬町の材木商の家に生まれた。昭和の紀文と迄謳歌された深川木場の武市木材株式會社へ十四歳の折上京入店した、同社は昭和五年の不況で閉店の餘儀なきに至つてゐるが、現在問屋業界の重鎭とされてゐる十數人の成功者を出し、氏も其の内の一人であるが特に唯一つの仲買商として特異な手腕と力量を有してゐる。武市木材會社閉店後、暫く深川木場の諏訪商店にゐたが、現地の發展性を目指して獨立今日に至つてゐる。建築材、居職材を販賣し仕入地は深川木場市場である。因みに取引銀行は、昭和銀行である。

幸村商店

幸村松藏

明治三十六年生
營業所 東京市瀧野川區田端新町二ノ七〇

氏は新潟縣直江津町在の出身である。大正八年上京して神田區三崎町原島材木店に於いて十ケ年間修行したが、奮鬪の功報ひられて昭和三年現在の所に獨立創業し建築材を深川市場より仕入販路は漸次擴大しつゝある。現在は從業員一名あり、日本勸業夜銀行に口座を開いてゐる。昭和十三年九月今事變に應召、同十四年六月赫々たる武勳を樹てゝ歸還せられた在鄕軍人で、現に在鄕軍人會田端分會第七班副班長であり、町會役員、警防團役員に推されてゐる。

小林商店

小林正一

明治三十五年三月三十一日生
營業所 東京市瀧野川區田端新町二〇一二

氏は埼玉縣比企郡唐子村農家島田熊七氏の三男に生まれたが、緣あつて十二歳の時小林家の養子となつた。二十三歳の春青年の意氣奔る儘に材木商を志して上京、豐島區巢鴨町にあつた早川材木店に入つて、刻苦七ケ年の修業を經て現在の所に昭和五年獨立したものである。爾來、足掛け十年家運彌々盛大に向ひ、今日では深川、本所兩市場より建築材一般を仕入れ販賣してゐる。取引銀行は、日本勸業夜銀行、從業員は一名使用してゐる。

村上材木店

村上靖一

明治三十三年生
營業所 東京市瀧野川區瀧野川町一八四一
電話大塚六三〇八、板橋六五番

當店は、先代靖一氏の創業に係り、三十五年を閲せる當方面相當の老舗として、業界に重きをなして居る。當代靖一氏は、四五歳の頃より、斯業の環境に育成し、嚴父の手足となつて、家業の輔佐に力むる所があつたが、爲めに、年少、已に練達の手腕を以て稱せられた。箕裘を繼いで襲名するに及

び、層一層の奮勵を以て、家業にいそしみ、業礎をより强固にし、業績をより顯著にし、顧客の獲得に力めて、遂に、第一流店の店勢を張るに成功した。氏は温厚篤實、且つ敏腕慧才、業界に於いても甚だ德望あり、現に推されて大東京木材商業組合評定員として、斯業の爲盡瘁しつゝある。

内外木材、建築材

松下材木店

松下錦之助

東京市瀧野川區西ヶ原町一二四
電話王子二四四四番

田端町一七五二
同　二九一
瀧野川町二二一〇
西ケ原町八七九
瀧野川町一三四〇
同　九一〇
同　三八四
中里二七四

山本吉雄
福井德之助
小川清吉
電話王子二四三五番
高崎政次郎
平松松平
富田菊次郎
山本平吉
石井音次郎

王子區

㊀ 神宮材木店

神宮啓治

營業所　明治二十九年生
東京市王子區堀船町一ノ七二九
電話王子二九二三番

氏は群馬縣群馬郡下室田町農家の三男として生まれ、十六歳の折上京、深川木場磯源商店方に入り、斯業研鑽の後、大正十三年現地に獨立したものである。現在從業員五名を使用し、内外各種材木を深川木場市場及原產地より仕入、一流諸會社、工場及び建築請負業者等を顧客として頗る殷賑を示してゐる。氏は業界に於いて信望厚く曾つては大東京木材商業組合王子支部長たりし事あり、現に同組合理事の要職に推されてゐる。取引銀行は、第百銀行王子支店である。

㊥ 中村材木店

中村保藏

營業所　明治二十五年生
東京市王子區下十條六二
電話王子四一九四番

氏は埼玉縣の出身である。幾多人生の曲折を經た後、材木商を志して、二十五歳の時、王子區堀船町の岩田材木店に勤め、斯道を實地に研磨すること十二年餘。具に修業の辛酸を嘗めて、遂に業務に練達し、斯界に通曉し、手腕力量、一個

の丈夫たるの自信を獲たので、現地をトして店舗を設け、内外材木を取扱つて創業した。時に昭和五年、氏三十八歳。爾來、老練圓熟の手腕と、堅實重厚の方針とは、當地方面の發展と相俟ち、草創一般の難關を美事突破して、業礎を確固たらしむるに成功し、星霜を經ること十一年に垂んとして、業績大いに擧り、現に店員二名を置いて、店勢甚だ盛である。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

㊦ 鈴善材木店

鈴木善次

明治二十九年五月生
營業所　東京市王子區豐島町二五五二
電話王子三三五二番

氏は福島縣の出身である。即ち同縣岩瀬郡須賀川町に生れた。父君は材木商を營んで居たので、氏は幼少より斯業の雰圍氣中に生長し、業務に慣れて、夙に練達の域に達した。かくて、大正十二年、大震災直後、帝都復興の氣運澎湃たるを見るや、勇躍進出して現地に店舗を開いた。時に氏二十七歳爾來、健闘の十八星霜を閲して、今や全く確固たる業礎を築き、遂年業績を擧げて今日に及び、現に店員二名を置いて、店勢甚だ殷盛に當方面商業界の一方に覇を稱して居る。因に氏は温厚にして長者の風があり、鄉人に推されて現に福島縣人會理事長であり、殊に鄉土青年の爲、指導に、誘掖に盡瘁する所鮮少でない。

大西材木店

大西宮次郎

明治四十年生
營業所　東京市王子區下十條三〇七
電話王子二九六〇番

氏は埼玉縣の出身者である。年少にして實業を忘し、材木商を選んで、斯道習得のため、上京して深川區木場の金竹材木店に入り、永年に亘つて實地に就き、斯業の研鑽を遂げた結果、斯界の亘細に通曉するを得たので、現地の將來發展すべきを想見し、店舗を開いて、獨立自營した。多年の宿望を達成し得た氏の喜びや如何に。時はこれ昭和七年、氏は二十五歳の秋九月。爾來、奮鬪努力、積極的經營方針に一貫して業礎を强固ならしめ、業域を廣汎ならしめ、遂年業績を擧げて、今日に及んで居る。氏は資性甚だ重厚、よく四隣の人望を蒐め、現に推されて町會に幹事として、町内自治の爲盡しつゝある。

大谷材木店

大谷春次

明治三十二年五月生
營業所　東京市王子區上十條町五一
電話王子二七四六番

氏は栃木縣の出身者である。幼少十歳にして上京し、深川區扇橋なる楠木材木店に入り、夙夜懈らず、勵業に服すること、實に十有九年七ケ月。斯業の事大小となく精通し、斯

界の情巨細となく明達したので、玆に獨立の念勃然として興り、昭和四年、現地の有望を相して、內外各種木材の販賣店を設け、自營の途に着いた。時に、氏而立の歳。爾來、氏は練達の手腕を振つて、當地の開發と相俟ち業礎の堅きを築いて、工場、會社、官廳方面に顧客層を開拓し、星霜十年を閲して、今や坦々たる大道にも比すべき樂觀的商況を辿つて居る。

澤屋材木店

土澤晃志郎

營業所　明治三十五年生
東京市王子區上十條一〇一
電話王子三〇〇九番

氏は栃木縣の出身者である。年少十三の折、上京して深川區東町なる田木傳材木店に入り、具に斯道習得の辛酸を嘗むること十五年餘の長期に亘つた。しかして後、獨立自營を念願とし、遂に現地に一店を相して開業した。時に昭和五年。氏二十八歳である。爾來、氏の奮鬪的精神と練達の手腕とは、當地發展の異常なると相俟ち、着々業礎を築き、逐年業績を擧げ、春風秋雨十年の後、業界に確乎たる地歩を占めて、坦々たる成功の道を邁進する現況である。なほ篤實なる氏の風格は頗る四隣町內の信頼を蒙り、推されて町會に會計を司つて居る。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

稲垣材木店

稲垣卯之吉

營業所　明治二十三年生
東京市王子區志茂町三ノ一九七〇
電話赤羽二五〇二番

氏は東京市の出身である。人生幾多の曲折を經た後、材木商を選んで身を立てんと欲し、實地見習の爲、赤羽なる高橋材木店に入り、刻苦勉勵、偏に斯道習得の辛酸を嘗むること多年。遂に業務に精通し業界の亘細を明にし得たので、昭和四年現地に開業獨立した。時に氏三十九歳。爾來、星霜十二年を閲する氏の奮鬪は、よく創業の一般的苦難を克服し、業礎を磐石の堅きに置いて、逐年業績を擧げ、以て今日の大を成した。現に店員二名を置き、店勢甚だ張る。氏の老練なる手腕は知る人ぞ知る。今後の活躍こそ、業界齊しく刮目して俟つ所である。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

宇田川材木店

宇田川岩吉

營業所　明治二十七年生
東京市王子區岩淵町二ノ二八八
電話赤羽二一二一番

氏は愛知縣出身者である。年少十五歳にして上京し、深川區木場の筒井木材店に入り、他日の成功を期して、勤勉努力業務の習得、業勢の研鑽を怠らざること十年餘。遂に斯業の亘細大小となく、掌を指すが如く明となつたので、多年の宿望を達すべく、現地に一店をトして、木材商を開始して、獨立した。大正十三年、氏而立の年である。爾來、帝都復興の氣運に乘じ、且つ、當地の發展に伴ひ、練達の手腕を振つて

着々確乎たる業礎を築き、以て、今日の盛大を致した。即ち現在に於いて、當方面第一流店にして、業界に共の名を駛せて居るのである。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

石井材木店

石井兼吉

營業所　明治二十九年生
東京市王子區赤羽二ノ四一二
電話赤羽二〇六七番

氏は、埼玉縣の出身である。家は材木商を營むるが故に、氏は斯業の雰圍氣中に生育し、學ばずして通じ習はずして達し、年少既に父君を援けて、頗る練達の譽があつた。箕裘繼承の後、現地に移轉し、新なる業域の開拓を創めたのが、大正七年、氏二十二歳の折である。爾來、奮鬪努力共の效を奏し、春風秋雨星霜を閲して二十餘年、今や店勢頗る張つて、業礎全く堅く、堅實なるその營業方針は、氏を知る問屋筋の齊しく賞讃する所であると共に、顧客の信用を得て絶大なものがある。のみならず、資性篤實の故に町內四隣の信頼を蒙り推されて現に町會會計を司つて居る。因に氏の取引銀行は第百銀行である。

渡邊材木店

渡邊俊一

營業所　明治三十九年生
東京市王子區神谷町二ノ一三八〇
電話赤羽二七七六番

氏は東京市出身である。深川區和倉町に生れた。小學校を卒業するや、年少十四歳、深川區木場四丁目前吉材木店に入つて、斯道修業の辛酸を具に嘗め、忠實業に服して十年餘。遂に業務に練達し、業界に通曉したので、勇躍、現地に獨立開業した。時に昭和五年十二月、氏二十四歳の折である。爾來、堅實なる經營方針の下に、奮鬪努力の十一星霜。業礎を磐石の堅きに置き、業域を工場並に建築業者間に廣め、着々業績を擧げ得て、今日に及んで居る。氏は年齢なほ而立を越ゆる三歳に過ぎず、しかもその練達の手腕を以てすれば前途の洋々たるは、期して待つべきであらう。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

上野川材木店

上野川喜三郎

營業所　明治三十六年生
東京市王子區神谷町二ノ一三七五
電話赤羽二八一五番

氏は栃木縣人である。年少にして青雲の志を抱き、鄉關を辭して上京、深川區木場の一材木店に勤め、永年に亘り夙夜懈らずして、斯道習得に專念せる效あつて、遂に斯道練達、斯界の情勢に通じて掌を見るが如くなつたので、現地を期して一店を設け內外材木の販賣を開始して獨立した。昭和四年氏二十六歳の折である。爾來春風秋雨十二星霜、氏獨特の健實にして且つ積極的なる經營は、着々效を奏して、業礎を堅うし、業域を廣うし、逐年業績を擧げ以て今日に及び、加ふ

る實弟氏の來り投じて氏を授くる等あつて、店勢益々張るの現況である。氏の手腕を以てすれば其の前途の洋々たるは、活眼の士を俟たずして明な事であらう。因に氏の取引銀行は第百銀行である。

吉新材木店

吉新　正巳

營業所　明治三十八年生
東京市王子區神谷町二ノ一二〇九

氏は栃木縣出身である。年少にして上京し、本所區秋本材木店に入つて、斯業修習の辛酸を嘗むること多年の後、一旦歸郷したが、昭和六年、氏二十六歳の時、再度上京し、本所區東町にある根本材木實場に入り、其の營業一切を管掌して正に大いに敏腕を振はんとせるに際し、偶々同店の解散に遭逢した。玆に於いて氏は奮起一番、地を現在の所に相し、一店を設けて、獨立開業した。爾來、堅實の方針に一貫して着々業績を擧げ、顧客層を漸次一流工場方面に擴張して、遂年業礎を堅めて今日に及んだ。現在に於いては、當方面有數の店舗にして、確固たる地歩を占めて居る。

鍋島材木店

鍋島初太郎

營業所　明治三十九年生
東京市王子區神谷町二ノ一一〇〇
電話赤羽二六六五番

氏は靜岡縣の出身者である。即ち島田町に呱々の聲を擧げたのであつた。年少、青雲の志を抱いて郷閭を辭し、上京して堀鴨の小濱材木店に入り、精勤職責に忠に、黽勉研鑽を怠らず、よく模範店員として幾年を送つた後、業務に精通し業勢に明達し得たので、昭和三年、現地の有望を相して店舗を設け、内外各種木材を取扱つて開業し、以て宿望を果し得たのであつた。時に氏二十二歳。爾來、十三星霜の奮闘は、よく草創一般の困難を打開し得て、基礎を強固にし、顧客を廣く獲得し、店勢頗る順調なる現況を招來したのであつた。しかも氏はなほ春秋に富む。其の前途は正に洋々たるものがある。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

平松材木店

平松四郎

營業所　明治三十二年生
東京市王子區上十條一二六二
電話王子四一七九番

氏は山梨縣の出身である。現板橋區板橋町の平建材木店主平松憲一氏は、氏の實兄である。四郎氏は、年少より、實兄の足跡を追ひ、材木業を以て身を立てんと忘し、幾多の曲折を經て、斯業を習練し、遂に練達して、實兄の後援裡に、現地の有望を卜して店舗を設け、内外各種木材を取扱つて獨立し、以て宿望を果し得たのである。時に大正十三年、氏二十五歳。乃ち、帝都復興の氣運に乘じ、少壯氣鋭の氏は、積極進取の經營方針に終始して、遂に草創の難關を突破し得、今や、磐石の如き基礎を築いて、實兄と共に、業界を馳驅し、

店勢甚だ順調の一路を辿つて居る。

小林材木店

小林近太郎

營業所　明治二十一年一月九日生
東京市王子區赤羽町一ノ三八九
電話赤羽二一一二番

氏は埼玉縣の出身でをる。幼少にして父母の膝下を離れ、上京して深川區木場の田木安材木店に入り、忠實業に服し、黽勉職に努め、悉く店主の信頼を蒙り、甚だ同輩の敬愛を受けて在勤實に三十年。その後半、田木安の經營悉く氏の方寸に出で、業務全く氏の司掌する所となり、才腕、雷名、業界に鳴る。大正十三年、帝都復興の氣運醸勃として盛なるや、氏乃ち出でゝ現地に店舗を設け、以て獨立の第一歩を踏んだ時に氏三十六歳。爾來星霜十七年、氏の圓熟せる老腕の前に草創の荊棘なく、今や坦々たる大道を駟馬の行くが如く、店勢順調の一路を辿つて、業界に重きをなして居る。

源田材木店

源田富士太郎

營業所　明治二十五年九月一日生
東京市王子區岩淵町一ノ八八五
電話赤羽二二六四番

氏は東京市の出身である。年少にして足利市に至り、伯父君に當る源田製材所に入つて、永年に亘り斯業の習得研鑽を經たる後、業務に精通し、業界に明達したので、現地に歸り店舗を設けて内外各種の製材を開始した。大正十四年、氏二十四歳の冬十二月である。爾來、積極躍進の經營方針の下に星霜を閲する十五年着々業礎を固め、業域を廣くし、川口市並に市内工場、建築業者間に顧客を獲得して、大いに店勢を張り、店員二名を置いて、以て今日に及んで居る。氏の手腕を以てすれば、その大成は、將來に期して俟つべきものがあらう。なほ氏は、東京工場安全委員、在郷軍人分會會計、納税組合會長等に推されて、公共自治の爲雖瘁しつゝあるを見ても、氏の德望の一端を知るに足らう。

下野屋齋藤材木店

齋藤利一郎

勳八等

營業所　明治三十年生
東京市王子區志茂町一ノ二一三
電話赤羽二七〇九番

氏は栃木縣の出身である。三年の間、兵役に在つてシベリアに出征し、其の功により勳八等白色桐葉章を授與せられた凱旋除隊後、荒川區日暮里なる實兄下野屋材木店主を援けて店務を執るの傍、斯業の習得研究に專念し、遂に精通し得て昭和五年、氏三十三歳の時、現地に店舗を開いて、實兄の屋號を其儘に獨立した。爾來、奮闘的精神に終始して、積極躍進、恭年ならずして草創一般の難關を突破し得て、業礎を磐石の堅きに置いた。かくて、星霜十一年の今日、坦々たる順調の大道を大成を目標に、一路邁進する氏なのである。將來の洋々たるは、玆に贅する迄もない。因に氏の取引銀行は、

第百銀行である。

米倉屋材木店

奥村芳三郎

明治四十年生
營業所　東京市王子區志茂町三ノ四八九
電話赤羽二五三九番

氏は東京市の出身で、淺草區北三筋町に生れた人である。嚴父は材木商を營んで居たので、氏は幼少より、その手足となつて、家運の隆昌にいそしんだものである。爲に、年少にして、斯業の研究に蘊奥を極め、業務練達して、一廉の材木商たる資格を具備し得たのであつた。そこで、現地に店舗を設け、內外材木を取扱つて營業を開始したのは、昭和四年、氏二十二歳の折である。爾來、櫛風沐雨十二星霜、夙夜懈らざる奮鬪努力は、遂に酬いられて、今日の店勢萬だ順調の一路を辿りつゝある。なほ氏のこの成功のかげに、實兄善吉氏の懇篤を極めた指導と協力を見逃がす譯には行かない。

志茂町一ノ六五〇　高橋萬作　電話王子二一四九番
王子一ノ二三ノ四　眞壁露一郎　電話王子二四六五番
同　一ノ二五　大島峰吉　豐島二ノ三一ノ四　電話王子二七六四番
東十條三ノ七ノ三　鈴木長四郎　電話王子二五四六番
王子町一〇四八　町田源之助　電話王子四一六六番
上十條三ノ三　神谷千代　電話王子三九五〇番
袋町一ノ一五九八　矢島家四郎　電話王子二八八二番
米山勝平

荒川區

池田材木店

池田台助

明治十六年生
營業所　東京市荒川區尾久町一ノ七〇六

氏は東京市の出身にして、嚴父は多年刀劍師として斯界に知名の士であつたが、氏は材木商に志し、三河島の某材木店に入り數年間修業一般業務を習得の上、昭和六年三月現地に材木店を創立し、爾來、堅實主義をモットーに事業の擴張を圖り其の敏腕と誠意は建築業者間に多大の信用を博し商況は年を逐ふて隆盛に趣き、現今町會幹部に推せられて銃後の御奉公を全ふすべく席温まる暇もなき程の活動を續けられてゐるが、其取引先は各會社並に大工場その他で取扱品は一般建築材並に家具材である。

小平本店

小平多一郎

明治三十五年二月生
營業所　東京市荒川區尾久町二ノ五八
電話下谷七九九三番

氏は栃木縣安蘇郡野上村小平家の次男に生れ、幼にして實業を志し十三歳の時上京、小石川區指ケ谷町川野材木店に入り刻苦勉勵、一般業務に精通すると共に取引先の信用を博し主家の信頼厚かりしも、豫ての念願であつた、獨立開店の機運熟し、大正十三年四月現地に獨力材木店を開業し多年の經驗に基づき堅實主義をモットーに事業の擴張を圖りし結果、得意先の信用益々加はり遂に今日の如き大をなすに至つた。現に氏は板橋町十丁目及び尾久町五丁目に支店を設け業界に大なる勢力を擁し其の將來に多大の期待がかけられてゐる、因に氏は昭和十二年十月日支事變に召應して出征、各地に轉戰赫々たる武勳を樹て同十三年十二月歸還された名譽ある帝國陸軍々人である。

矢島材木店

矢島瀧藏

明治二十五年十二月生
營業所　東京市荒川區尾久町二ノ一七七
電話下谷一五四八番

氏は栃木縣安蘇郡佐野町矢島家の四男にして、生家は代々農を業とせるも、氏は商業を以て身を立てんと欲し、高等小學校卒業十六歳の時上京、深川區常盤町大直材木店に入り、刻苦勉勵、事業の發展に努むると共に一般業務を習得、主家の爲め貢献する處大なるものあり、大正十一年多年の宿望たる獨立營業を現地に開始し氏が體驗に基づき堅實主義をモットーに鋭意發展に努力の結果、建築業者間に多大の信用を博し營業は年を逐ふて發展遂に今日の如き堅牢なる地盤を獲得し得るに至つたのである。然して同商店の取扱品は一般建築材である。

㊇ 荒井樫材店

荒井幸八

明治三十年一月七日生
營業所 東京市荒川區尾久町二ノ二一七
電話下谷九二九三番

氏は埼玉縣南埼玉郡菖蒲町荒井家次男にて、小學校卒業後家庭に在りて農家に從事せるも、青雲の志を抱いて、二十三歳の時上京し材木商を有利と見て某店に入り、一般業務に就き熱心研究其間幾多の苦難を克服手腕、技倆遺憾なきを期し昭和五年豫ての念願であつた獨立開業、爾來、十餘年間先輩の間に伍して一歩も讓らず、新進氣鋭の取引振りは得意先の信用に拍車をかけ現在樫材專門業者をして第一流に位し、更に時局の好況に鑑み益は增加の一歩を辿りつゝあるので氏の前途は洋々、成功期して俟つべきものがある。因に氏が仕入先は原產地で得意先は市内の樫棒製造業者で、取引銀行は、第百銀行日暮里支店である。

山庄材木店

山中庄一

明治二十七年八月十四日生
營業所 東京市荒川區尾久町二ノ三六一

氏は德島縣德島市佐古町山中家の長男にして、生家が材木店を經營せる關係上、普通教育終了後は家庭にあつて嚴父の膝下に於て一般業務を修業し手腕、技倆を鍛錬したる後、昭和六年中央進出を目指して上京、幾多の波瀾曲折を經て昭和十二年現地に材木店を創立、多年の宿望を達し愈々其の手腕を揮ふことゝなつたが、其の堅實なる營業振りは一般業者間に絶大なる信用を博し、開店日尚淺きに拘はらず群を抜く盛況を呈し、得意先は全市の各會社、工場等に及び將來の發展期して疑ひなく、前途眞に洋々たるものがある。因に同店の主なる取扱品は南洋材、建具材、建築材料等で、取引銀行は日本貴夜銀行尾久支店である。

吉村尾久賣場

吉村利吉

明治三十四年五月生
營業所 東京市荒川區尾久町三ノ二一九五
電話下谷七四二六番

氏は福井縣南條郡今庄村吉村家の三男にして、十四歳の時材木商を忘して上京、業界の老舗京橋區西八丁堀一丁目伊東喜材木店(天保十三年創業)に入り刻苦勉勵、一般業務を習得の後、氏の實兄が經營せる淺草區北清島町八十一番地の吉村材木店(本店)に於いて兄を援けて業務の發展に貢献する處大なるものがあり、昭和二年現地の將來有望なるに着眼し賣場を新設店務一切を管掌し業務の擴張に全力をを傾盡し從來土圭の發展と好景氣に惠まれて建築界の盛況は得意先の增加となり、殊に氏の敏腕と公正無私の人格は各關係方面の賞讃する處で將來の發展期して俟つべきものがある、しかして同店の主なる取扱品は一般建築材で、取引銀行は、日本貴夜尾久支店で、氏は現に尾久材木商組合會計の職を掌り衆望を擔ひ

業界に活躍す。

吉村尾久雜木賣場

吉村淺吉

明治四十五年七月一日生
營業所 東京市荒川區尾久町三ノ二三八二

氏は福井縣南條郡堺村古堂安太郎氏長男にして、生家は農を業とし在るも、氏は堺高等小學校卒業後、商業を以て立身せんと欲し、十六歳の春上京し、淺草の吉村材木店に入り刻苦勉勵、一般業務を習得すると共に主家を援けて業勢の擴張と共の發展に努力する處大なるものあり、主家の信頼益々加はり昭和十五年二月當賣場が新設されるや拔擢され主任となり現在に至つたのであるが、其の間氏の活動振りは業界一般の賞讃する處となり殊に堅實なる營業振りは取引先の信用に拍車をかけ賣場の新設日淺きに拘はらず、取引は增加の一途を辿り其の前途眞に洋々たり、而して本店は淺草區北島町に在り家具、建具材、雜木一般を取扱ひ盛況を極む。

三宅商店

三宅建三

明治三十三年生
營業所 東京市荒川區尾久町三ノ二五〇七
電話下谷六六二〇番

氏は岐阜縣養老郡一之瀨村三宅家の長男として生る、生家は農を業としあるも、氏は商業に依つて立身を志し一之瀨小學校卒業後名古屋市の某材木店に入り三ケ年間に亘り刻苦勉勵、一般業務を修業の上、青雲の志を抱いて大正十三年上京更に實際に就て研究の後大正十五年多年の念願叶ひ現地に一般建築材を專門に材木店を開業し、爾來、幾多の波瀾曲折を經遂に今日の如き成功を贏得るに至つたのである。要するに氏が業務に熱心なるのと其の堅實な取引振りは建築業者間に多大の信用を博し年を逐ふて營業は盛況を呈するに至つたのである。然して現今推されて荒川古材同業組合會計並に隣組々長として時局下銃後の護を堅められてゐる。尙氏の取引銀行は、日本貴夜尾久支店である。

本橋內外材木店

本橋嘉治

明治二十九年八月卅一日生
營業所 東京市荒川區尾久町三ノ二六三五
電話下谷五三八〇番

氏は埼玉縣入間郡原市場村山川家の次男にして、生家が材木商なりし關係上、普通教育終了後家庭にありて嚴父の指導の下に業務に從事し、其の一切を習得したる後、中央進出を目指して上京、芝江村木店に入り六ケ年間實際に就き勉勵他日に備へつゝありし折柄、同業本橋安五郎氏が氏の手腕、技倆並に其の人格を見込んで養嗣子に懇望せられ、廿六歳の時本橋家の養子となり業務一切を繼承し、爾來、多年の經驗に基づき堅實主義をモットーに事業の發展に奮鬪努力の結果各關係方面の信用益々加はり遂に今日の盛況を見るに至つたのである。然して氏は現今尾久材木商組合會計、町會相談役に

推されて時局下活動を續けられてゐるが其取扱品の主なるものは一般建築材で、取引銀行は、日本興夜尾久支店である。

倉持材木店

倉持　邦造

明治三十年二月四日生
營業所　東京市荒川區尾久町四ノ一八一九
電話下谷七五二一番

氏は埼玉縣南埼玉郡日勝村倉持家の三男にして、中學校卒業後生家が材木商なりし關係上、嚴父の膝下に於て一般業務を修業の上大正十一年上京、現地に於て材木店を開業、爾來不撓不屈幾多の難關を突破し土地の發展に連れ建築業の旺盛から自然的材木の需要增加の爲め機を見るに敏なる氏は是を機會に營業の擴張を圖り、建築業者間に多大の信用を博し遂に今日の成功を贏得るに至つたのである。然して氏は資性溫厚篤實、公平無私の人格者なるが爲め推されて尾久材木商組合長の要職につき組合の發展と業界の爲め貢献する處絕大なるものあり、又昭和十一年區會議員の改選に際し最高點を以て當選せられた人望家である。尙ほ氏は現役三年(野砲兵)の兵役を果された名譽ある在鄕軍人である。

大野屋材木店

永井　茂

明治四十三年十月三日生
營業所　東京市荒川區尾久町五ノ九一五

氏は愛知縣西春日井郡豐島村永井家の長男にして、嚴父は鐵道省に奉職されるも、氏は實業家に進出を志し普通教育を終了、十三歲の時單身上京、荒川區日暮里町大野材木店に入り、刻苦勉勵、多年に亘り店主を揮けて事業の發展に貢献し取引先より多大の信用を博し主家の信賴厚かりしも、念願であつた獨立開業の機運熟し昭和九年現地に於て材木店を創立するに至り、從來堅實主義をモットーに得意先の獲得に努むると共に事業の發展に努力の結果、確固不動の地盤を築き上げ其前途眞に洋々たるものがある。然して同店の取扱品は一般建築材にして、取引銀行は、日本興夜銀行である。

小平材木店

小平　好櫻

明治三十九年生
營業所　東京市荒川區尾久町五ノ一二一八
電話下谷九七七三番

氏は栃木縣安蘇郡野上村小平家の三男にして、生家は農を業としあるも氏は商業によつて立身をんと欲し、普通教育終了大正九年上京、荒川區尾久町二丁目に實兄の經營せる小平林木店に入り兄を援けて業務に勵み、一般業務を習得昭和五年現地に小平材木店を創立し、爾來、事業の發展を得意先の獲得に眞劍的努力を拂はれし結果、建築業者間の信用加はり商況年を逐ふて隆盛遂に、現在の如き確固不動の地盤を築き上ぐるに至つたのである。しかして同商店の主なる取扱品は一般建築材で、取引銀行は、日本興夜銀行である。

岩井材木店

伊藤信義

明治三十一年生
營業所　東京市荒川區尾久町六ノ六四六

氏は栃木縣那須郡與野村伊藤家四男として生れたるが、明治四十三年青雲の志を抱いて上京、某薪炭問屋に入り九ケ年間刻苦勉勵、業務を習得、其間主家の事業發展に貢献する處大なるものあり、大正七年巢鴨町に於て薪炭業を獨立開業、營業の發展に全力を傾注し相當の業績を擧げ得るに至つたが時代の進展は薪炭業よりも寧ろ材木商の有望なる點に着眼し斷乎轉業を決意し大正十五年十一月現地に斯業を開始するに至つた。爾來、氏は不撓不屈事業の擴張と其の發展に邁進したるが氏の熱誠は一般業者の認むる處となり各會社並に大工場其他に多數の得意を有し營業は逐年隆盛を呈し今日の如き大を爲すに至つたのである。因に同店の取扱品は一般建築材である。

小泉材木店

小泉　磯一

明治三十四年生
營業所　東京市荒川區尾久九ノ三一二四
電話下谷六三一五番

氏は東京市荒川區尾久九丁目三一二四番地小泉喜平治氏の長男にして、中等教育を終了後、生家が材木商なりし關係上嚴父の膝下に於て一般業務を修業し、嚴父を援けて營業の發展に邁進し多大の業績を擧げられたが、嚴父喜平治氏は昭和十六年第一線を退かれし爲め氏は一般業務を繼承敏腕を揮ふと共に事業の擴張に全力を傾盡、斯界各方面に多大の信用を博し業績年を逐ふて隆盛遂に今日の如き大をなすに至つたのである。氏は資性溫厚、篤實にして公共的事業に貢献し現に尾久材木商組合副組合長に推されて組合の發展に努められる等社會公共方面に席溫まる暇なき活動を續けられてゐる。因に同店は二代目で取扱品の主なるもの一般建築材、取引銀行は、日本興夜銀行尾久支店である。

青木材木店

青木清行

明治四十一年七月生
營業所　東京市荒川區尾久町十ノ一五一三
電話根岸九五四六番

青木氏は東京府西多摩郡成木村青木家の五男として生れ、生家は代々農を業とせるも氏は商業に依つて立身すべく十五歲の年少を以て上京、荒川區尾久町の成木材木店に入り、十二ケ年餘の長年月主家を援けて奮闘努力事業の發展に貢献する處大なるものあり、昭和六年十二月多年の念願叶ひ現地に獨力營業を開始し、爾來實驗に基づき堅實主義をモットーに敏腕を揮ひ事業の擴張に努めし結果、一般建築業者間に多大の信用を博し、取引高は激增の一途を辿り現今同地方廿數名の同業者間を拔いて盛況を呈し新進氣鋭氏の前途に大なる期待がかけられてゐる。しかして同商店の主なる取扱品は內

外木材、一般建築材である。

㊋ マルス材木店

菅澤章一

明治二十八年十月廿八日生
營業所　東京市荒川區日暮里町二ノ一四二

氏は東京市淺草區菅澤家の長男に生れ、昭和七年迄同區に於て洋酒問屋を經營大勢の店員を使用盛況を極めてゐたが、時世の變遷に鑑み大ひに考ふる處あり、同年材木商に轉向すべく決意し勇敢にも爾來の營業を放棄し現地に家具材專門の材木店を創立、不眠不休の努力を拂ひ克く萬難を排除し着々堅實なる地盤を確立し、開業幾何なら寸して早くも區內屈指の商店となるに至つたのも要するに氏が熱誠と奮鬪努力の賜と云ふべきである。しかして氏の實弟加藤氏は現今深川木場に於て丸ヨ材木店を經營し一流店で大問屋として信用厚き商店である。因に同店の主なる取扱商品は一般家具材にして取引銀行は、第百銀行日暮里支店である。

大野材木店

大野儀藏

明治二十四年生
營業所　東京市荒川區日暮里町二ノ二九〇
電話根岸三三二一番

氏は愛知縣の出身にして、嚴父鑄吉氏が淺草區千束町一ノ三三番地に材木店を經營されてゐた關係上、嚴父の膝下に於て家業の發展に努力されつゝあつたが、後嚴父の家業を氏の實弟に讓り自からは大正五年分家して現地に獨力大野材木店を創立、爾來事業の擴張と發展に眞劍的努力を拂ひ氏の敏腕と堅實な商ひ振りは業界各關係方面より絶大なる信用を博し着々堅牢なる基礎を樹立遂に今日の如き成功をかち得られたのである。氏は斯の如き奮鬪家なるに拘はらず社會公共的事業の念厚く幾多の公職に推せられ日夜活動を續けられ其功績大なるものがあり、業界稀に見る人格者で又た德望家である因に同店の主なる取扱品は一般建築材で、取引銀行は、第百銀行日暮里支店で、當代が即ち二代目である。

㊋ 加賀谷材木店

加賀谷清吉

大正元年十月生
營業所　東京市荒川區日暮里町三ノ六四五
電話根岸四三四三番

氏は山形縣酒田市の出身にして、夙に材木商を志して上京荒川區日暮里町三丁目柴田材木店に入り、十四歲より廿七歲迄十有四年間刻苦勉勵、一般業務に精通其間克く店主を輔佐し營業の發展に努力目覺しき功績を擧げられたのは業界一般が周知の事實である。斯くして昭和十三年一月現地に獨力加賀谷材木店を創立、爾來營業の發展に不眠不休の努力を拂ひつゝあるが其敏腕と堅實な商取引振りは漸次各方面の認むる處となり、開店幾何ならざる今日早くも堅實なる基礎は築かれ信用の增加と共に取引は愈々旺盛となつて其の將來に多大の期待がかけられてゐる。氏は奉秋に富み前途有爲の實業家

として業界人の賞讃の的となつてゐる。尙足立區梅田町一六二三番地支店（電話足立三二九八番）を新設し氏が實弟業務を管掌盛況を呈する業界稀に見る成功者である。因に同店の取扱品は一般建築材並にベニヤ板等にて、取引銀行は、第百銀行日暮里支店である。

神谷材木店

神谷四郎

明治三十二年二月一日生
營業所　東京市荒川區日暮里町六ノ二八一
電話根岸三八九二番

氏は荒川區日暮里六ノ二八一神谷半四郎氏の四男として生る、夙に材木商を志して十五歲より二十一歲迄深川區冬木町堀源商店に入り、刻苦勉勵、業務に精通の後、大正十三年關東大震災後における帝都復興工事を目指して現地に神谷材木店を創立、爾來自から第一線に起ち關東一帶に散在する一流土木建築業者間に復興資材供給を目的に奮鬪努力其功績著大なるものあり、各關係方面より絶大なる信用を博し商況年を逐ふて隆盛に趨き今や同地方一流の大商店となり、本業の多忙なるにも不拘幾多の社會公共的事業にも關與し現に村友會々長、警防團本部附部長、東京材木商同業組合日暮里支部長等に推せられて日夜活動を續けられ業界稀に見る德望家である。因に同店の主なる取扱品は一般建築材にして、取引銀行は、昭和銀行である

堀口支店

茂木廣吉

明治三十年二月八日生
營業所　東京市荒川區日暮里町七ノ二八六
電話下谷七二七二番

氏は群馬縣北甘樂郡福島町の出身にして、夙に材木商を志して上京、荒川區日暮里四丁目堀口本店（堀口清太郎氏經營）に入り十三ケ年間に亘る長年月を斯業の爲め懸命鍛錬一般業務に精通主家の爲め擧げて功績不尠、模範店員として同業者間から賞讃されしは周知の事實である。斯くして大正十一年現地に獨力堀口支店を創立、爾來事業の擴張と發展に不眠不休の活動を續け、その敏腕と堅實的商內振りは建築業者間に絶大なるに信用を博し着々堅牢なる地盤の樹立と共に取引は旺盛を極め遂に今日の如き成功を贏ち得るに至つたのである氏は如斯多忙の身なるに拘はらず、社會公共的事業に貢献的努力を拂ひ現に東京市方面委員を十ケ年も勤續し更に町會役員、警防團員等に推せられ日夜活動を續け衆望を擔ふ温厚篤實の人格者である。

星野材木店

星野愼宜

明治三十七年六年三日生
營業所　東京市荒川區日暮里町七ノ三〇七
電話下谷八三五六番

氏は茨城縣の出身で、西茨城郡東那珂村に呱々の聲を擧げ

た。星野家の四男であるが、生家の業とする農を好まず、少壯、實業を志して上京し、本所區内なる某材木店に入り、三ケ年間斯業の習練に專念したのであつた。已にして昭和四年現地に店舗を設け、建築材一般を取扱つて獨立したのであつた。爾來十年に餘る氏の奮闘は、よく店基の强化と業域の廣汎を齎し、業界の中堅として、店勢極めて殷賑である。因に、氏の仕入先は深川木場市場であり、得意先は、一般建築業者である。

鑓水材木店

鑓水　太吉

營業所　明治二十五年十二月十三日生
東京市荒川區南千住町一ノ二〇
電話淺草三一二番

氏は山形縣東村山郡大黒村見崎農政次氏の二男である。二十五歳の折、遠く朝鮮に渡つて、京城府に製粉業を營むや、當時同業に從事するものなき朝鮮の事とて莽年ならずして店勢大に張る。偶々病魔の冒す所となつて中途挫折、歸鄉の止むなきに至つた。已にして大正七年、捲土重來、上京して紙器製造に從事し、着々業務の進展を見つゝある時、不幸、關東大震災に遭遇したのであつた。而して氏は灰燼の中より不死鳥の如く三度立上り、慧眼材木供給の有利なるを洞察して家具材、秋田材を取扱ひ、現地に材木商を創めたのであつたかくて帝都復興の氣運に乘じ、一擧業礎を强化し得てより玆に二十年に近く、堅實たる店舗として業界の中堅をなしつゝある。因に氏の取引銀行は、日本實業銀行三ノ輪支店。

田中製材所

田中晴之助

明治二十一年生
支配人　田中富作
明治四十三年生
東京市荒川區南千住町三ノ六五
電話淺草五一五四番
東京市淺草區清川町三ノ一一
工場
事務所

晴之助氏は東京市の出身。夙に土木建築業を營み、製材業を兼ね、土砂船、砂利、砂販賣を業とし、鐵道省、東京市、東京府等の官廳を得意として、往くとして可ならざるなき活躍振りを示して居る。而して其の製材所は、大正十三年の創立に係り、從業員十名、樫、樅製材專門工場として關東隨一の稱を恣にして居る。特に昭和八年以來、氏の長男富作氏が支配人として敏腕を振ひ、原木を、埼玉、茨城、千葉各縣東京府等に求め、關東一圓の需要に應じて、業績を擧ぐるに成功し、當工場の名聲日に加はりつゝある。因にその取引銀行は、第一銀行淺草支店である。

丸惣材木店

㊙

栗田惣司

明治四十一年九月七日生
東京市荒川區南千住町七ノ二
營業所
電話淺草九二〇四番

當店は大正六年先代石塚伊三郎氏の創業に係はるもの、材木問屋として建築材、居職材其の他一般を取扱つてゐる。當主は山形縣最上郡金山町の材木商の長男に生まれ、年少より業界に雄飛すべく志し、小學校卒業後上京し、深川區平野町の老舗岡莊商店に入り、手腕技能を鍛錬昭和六年前記石塚氏經營の當店の一切の讓渡を受け獨立し、新進氣鋭を以つて業界に突進しよく多數の顧客を獲得して今日の大を爲した。尙氏は愛鄉心强く、其の公共事業に對して支援を吝まず、貢獻する所鈔からずと云ふ。

水戸屋材木店

㊤

石川　豐吉

明治三十二年十月十日生
東京市荒川區南千住町七ノ一〇
營業所

氏は水戸市下市に生れた人。石川富吉氏の次男である。家は農を業としたが、氏は實業を志して上京し、薪材商を經營して見る可き業績を擧げ得たのであるが、昭和七年、材木商に轉じ、一般建築材を取扱つて、今日に及んだ。而して拮据精勵十年に垂んとして、店員二名を置いて業礎已に堅く、業域日に加はると共に、氏は業界の中堅人士として、その手腕この方面に讃はるゝ現況である。なほ、氏は、日支事變勃發するや召集せられて征途に就き、十三年秋、武運目出度く歸還せる勇士である。因に氏の取引銀行は、第百銀行三ノ輪支店である。

秩父屋商店

㊇

椎橋　眞正

明治十五年生
東京市荒川區南千住町八ノ一一〇
電話淺草〇八四六番
營業所

當店は舊幕時代よりの老舗として名あり當主は三代目である。氏は千葉縣印幡郡白井村の豪農川上庄太郎氏二男として生まれ、明大商科を卒業後先代の與望に依り養子となつたもので、爾來豐なる學識と新智識を活用して合理的經營方針を樹立し、請負業者の一般建築材の納入を主として活動してゐる。從來は製材業も兼ねてゐたが、昭和十四年一月これを分離して合資會社秩父屋製材所を新設し自ら代表社員となつた現在は官文中學出身の長男定男氏が伊藤氏、石川氏等の老練店員と協力老舗としての實力をなしてゐる。店員は合計五名取引銀行は、武州銀行である。因みに當主は現在まで十數年間町會長を勤續し、千住材木問屋組合常務を兼ねてゐる。

三上惠司商店

㊂

三上　惠司

明治二十八年十一月二十日生
東京市荒川區南千住町八ノ三八
電話淺草〇九一六番
營業所

氏は埼玉縣入間川町材木商三上鐵之助氏長男として生まれ十五歳にして上京、千住の老舗萬善商店に入つて斯業を研究する事十年、漸く獨立して店舗を持つたが、不幸金解禁に伴

ふ財界不況の餘波を受けて中途挫折の餘儀なきに至つた。然し不屈の精神は氏をして、徒らに無爲たるを許さず、昭和九年南千住八ノ七七を選んで再出發を敢行した、これが機を得たものか、氏の活腕に依るものか、着々事業擴張し、昭和十一年九月現地にあつた加藤材木店を買收してこれに遷り、時恰も日支事變の勃發から、產業界の躍進から業績頓みに上り大倉組を始め有力仲買業者、建築業者等百餘名の得意を有し仕入地は群馬、埼玉、千葉、茨城、福島等の各縣下に亘り從業員五名あり、取引銀行は安田、武州兩行である。因みに氏は氣象の遠詣深く、今日の成功も、これに依るものとされてゐる。

萬善材木店

若林善太郎

明治五年生
營業所 東京市荒川區南千住町八ノ三九
電話淺草〇八三九番

氏は南葛飾郡小岩町(現江戸川區)の豪農松浦政右衛門氏次男として生まれたが、明治三十年緣あつて若林家の養子となるや、獨立して材木商を創業、內外木材一般を取扱つて今日に至つてゐる。養父が、郡會議員として地方自治に貢獻する所少くなかつたが、氏も幾多の公職を兼ね氏の出生地小岩町の驚然たる區劃整理は氏の努力に依るものと夙に有名な事實である。從業員三名を擁してゐるが、現在は長男晴之助氏(明治卅六年十一月廿一日生)を支配人として業務一切を任せてゐるが、氏は元深川數矢町現深川木場の喜一商店に入つて斯業を習得し、海軍として四年兵役終了後家に歸り父業を繼承したものである。

加島材木店

加島桂次

營業所 明治三十八年五月十日生
東京市荒川區南千住町八ノ三八
電話淺草三八四四番

氏は千住町の出身、鄕里の小學校を優秀なる成績を以つて卒へるや、千住にあつた堺萬商店に入つて斯業の實際を習得し昭和五年現在の千住大橋の際を選んで店舗を設け問屋を開業したのが今日の礎となつたもので、爾來江戸の裏關門と云ふべき樞要の地を占めた同店は氏の强固な信念に依る特異の營業方針と共に逐年地盤を擴張し、特に最近事業の好影響を受けて發展の一途を辿り、現に從業員七名を驅使して內外建築材一般を直接產地より仕入、廣く關東地方全體に散在する仲買業者、建築業者、諸會社等を得意として活躍を續けてゐる。因みに取引銀行は、武州銀行千住支店である。

堺萬商店

若林萬次郎

明治十三年生
營業所 東京市荒川區南千住町八ノ八二
電話淺草〇六二九番

當店は元祿年間の創業に係はる舊家で、當主迄に既に六代

を經てゐる。當主は先代藤右衛門氏の長男として當地に生まれ、年少より家業に携り、よく兄弟力を合せて家運の興隆に努力したが、嚴父の歿後は多年練磨の才腕を振ひ、內外材、羽柄、小角を扱つて一流店の地位に躍進、現在は店員五名を使用して業界一方の覇を爲してゐる。公職としては過去二ケ期間町會役員を勤め、現に町會副會長並に納稅組合長に任じ業界內に於いては、千住材木問屋組合顧問として公私共に德望を集めてゐる。氏の三男竹次郎氏に支配人として業務一切を統べ武州銀行千住支店に取引がある。

橋政商店

淺井兼吉

營業所 明治三十一志一月生
東京市荒川區南千住町八ノ二七
電話淺草〇二七二番

當店は明治三十年創業で、當主は三代目である。材木問屋として建築材を取扱つてゐる。仕入先は深川木場內同業者、得意先は主として建築業者に多い。店員なく、當主自ら陣頭に立ち活躍、堅實主義を以つて其の名あり、安田銀行に口座を開いてゐる。當主は創業者淺井馬次郎氏の五男として生まれ、實兄政吉氏が父業を繼承してゐたが、夭折したので、氏が之を受け繼ぎ今日に至つてゐる。町會役員を勤め、溫厚なる性質が業界地元の德望を集めてゐる。

本橋兼吉商店

本橋兼吉

營業所 明治十七年十月生
東京市荒川區南千住町八ノ二八
電話淺草一六五〇番

氏は埼玉縣入間郡飯能町の農家の次男に生まれ、材木商を志して上京、南千住の老舗池彥材木店に二十餘年の長きに亘つて忠勤、大正九年現地に獨立創業した、爾來廿一星霜、業礎全く定り、材木問屋として建築材一般を取扱ひ、產地、深川木場市場を仕入地として、建築業者及民家を得意先としてゐる。從業員三名、武州銀行千住支店と取引がある。尙東京商業卒業の長男重太郎氏が支配人として嚴父を輔佐してゐたが、日支事變勃發に依り十二年八月應召したが、其の際多額の國防獻金を行ひ、軍部より感謝狀を贈られた事もあり、十五年二月歸還し、引續き顧客に對する親切をモットーとして活躍してゐる。尙鄕里の公共事業に貢獻する所少から寸と云ふ。

株式會社 現興社

代表取締役 西村仙藏

營業所 明治十七年二月廿一日生
東京市荒川區南千住町八ノ九一
電話淺草五一六三番

氏は東京市荒川區南千住の材木商西村兼次郎氏の四男に生まれ、堺萬商店に於いて二十六年間斯業を習練した、大正五年家業を再興し、大正十二年九月の關東大震災に遭遇して帝都復興資材販賣に大成功を修め巨萬の利を得たと云はれる。

然し業運は極めて短く、數年ならずして納材回收不能を原因として倒産、板橋區内に隱れて再擧の機を窺つてゐたが、偶々昭和十一年四月助力者現はれ、株式會社現興社を興して、氏は社長となり、現地に再起するを得た、仕入先は產地並に木場、得意先は、一流諸會社、從業員は五名あり、取引銀行は、日本興業夜銀行千住支店である。

並木富吉商店

並木富吉

明治四十一年九月廿一日生
營業所 東京區荒川區南千住町八ノ九一
電話淺草〇六二九番

氏は埼玉縣入間郡名栗村農家の出身、材木商を望んで上京して南千住の老舗堺萬商店に入店して斯業を修練すること十有二年、其の間の忠勤振りは人の認むる所、千住材木問屋組合では感狀、記念品を贈つてこれを表彰した、日支事變の勃發に依り勇躍應召、各地に轉戰種々武勳を樹てたが不幸病を得て昭和十三年四月歸還、翌十四年十月獨立して主家の近くなる現地に店舗を構へて創業した。產地及木場市場より一般建築材、注文材を仕入、組合及建築業者に販賣してゐる。草創尙淺く、年齒尙春秋に富む、將來の活躍發展期して待つべきものありと云ふべし、武州銀行千住支店と取引を行つてゐる。

合資會社 秩父屋製材所

代表社員 椎橋眞正

明明十五年生
支配人 池田新藏
明治二十五年十月三十日生
營業所 東京市荒川區南千住町八ノ一一〇
電話淺草〇八四六番

當製材所は秩父屋商店の傍系事業として大正十一年十一月創業されたものであるが、昭和十四年一月秩父屋商店より分離して合資會社に組織變更すると共に池田新藏氏が支配人として事業一切を管掌してゐる。池田氏は栃木縣安蘇郡界村の出身、材木業を志して上京、千住の池彥商店に入り十三年餘の修練を經て、獨立創業したが、商運拙く、僅々三ケ年で挫折廢業した、偶々椎橋氏に才腕を認められる所となり、當工場の支配人に推されたものである。現在は賃挽を主として行つてゐる、從業員四名、取引銀行は武州銀行千住支店である。

渡邊材木店

渡邊鐵次郎

明治二十三年十一月廿五日生
營業所 東京市荒川區三河島一ノ二六七二
電話根岸四三六六番

氏は新潟縣北蒲原郡中條町に生れた人、生家は農を業としたが、氏は上京して荒川區南千住町八の老舗秩父屋材木店に入り、斯道修業の途に就いたのであつた。時に大正二年、氏二十五歲の折である。已にして十年の星霜を閱して、鍊達の手腕傍輩の間に矯はるゝ頃、關東大震災に遭逢し、帝都復興の氣運を握んで氏は獨立したのである。即ち現地に店舗を設

け、建築材、製材、棒材、挽立販賣を取扱つてより、今茲十有七年の星霜を經て、業礎固く業域廣く、業績年に擧り、現に從業員四名を置くの盛大なる店勢である。而して今や、氏は業界の耆宿として重きをなす許りでなく、町内の故老として德望を蒐めつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行三ノ輪支店である。

三好材木店

松永好之助

明治二十七年六月生
營業所 東京市荒川區三河島三ノ二八九八
電話下谷八八二三番

氏は埼玉縣北埼玉郡加須町の人。實家は代々味噌醬油、油類の販賣に從事して居る。氏は明治四十三年一月上京して、淺草なる三勝材木店に入り、斯道の習練に精進すること、前後十有一年。茲に練達の手腕を提げて獨立し、內地材一般を取扱ふ店舗を現地に經營したのは、實に大正十年の事であつた。爾來幾多業界の波瀾を凌いで、今や基礎堅く顧客多く、店員二名を置いて、店勢頗る盛大である。而して氏は溫厚の長者、よく四隣の嚮望を擔つて町會役員、隣組々長等に推され、銃後の町內自治のため、活躍しつゝある。

藤野材木店

藤野勇次郎

明治三十四年八月生
營業所 東京市荒川區三河島町五ノ二七三
電話下谷七一八四番

氏は埼岡縣濱名郡北庄內村農藤野家の次男として生れた。生家は農を業としたが、氏は、幼少にして上京し、本郷區駒込千駄木町なる天野材木店に入り、黽勉精勵斯業の習得に專念したのであつた。已にして七ケ年を經たる後、練達明敏、一籐の業人としての自信を得、昭和元年、現地に店舗を設け一般建築材を取扱つて、獨立したのである。爾來十有五年を閱せる今日、從業員二名を置いて、盛大なる店勢を展開しつゝある。而して氏は業界の中堅として重きをなし、現に東京材木同業組合三河島支部長として活躍するの外、町內に聲望あり、町會役員として銃後自治の爲奮鬪しつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行三ノ輪支店である。

鈴木材木店

鈴木岩雄

明治三十六年五月生
營業所 東京市荒川區三河島町五ノ三七三

氏は東京市下谷區竹町に生れた人で、鈴木龜治郎氏の長男である。家は木材業を營みつゝあつたが、幼にして嚴父を失つた氏は幾多の苦難を嘗めて家業の復興を志したのであつた偶々昭和三年、三河島町五に磯田商店創業するや、氏は同店に入つて忠實精勵、よく同店に柱石となり肱股となつて、同店の發展に幾多の功績を擧げたのであつた。かくて昭和八年現地に店舗を設け、北海道雜木、ラワン等を取扱つて、自家再興の旗を揭げたのであつた。爾來年處幾何なら寸と雖、敏腕よく業界未曾有の好況に乘じ、着々成功の大道を踏みつゝ

ある。現に店員四名を置いて、店勢頗る盛大である。因に氏の取引銀行は、第百銀行三ノ輪支店である。

磯田材木店

磯田義一

明治三十二年十二月生
營業所　東京市荒川區三河島町五ノ三八四
電話五七二八番

氏は兵庫縣神崎郡田原村磯田雜貨店の長男である。年少にして北海道に渡り、旭川市に赴いて、松岡木材店に入り、斯業の習練に專念すること幾年、大正八年同店が東京に進出して、東京營業所を創設するや、氏は拔擢せられて同所勤務となり、幾多の業績を擧げて同店の發展に資したのであつた。已にして昭和三年、二十有餘年の思出深き同店を辭し、現地に店舗を設け、北海道雜木、家具材其他を取扱つて獨立したのであつた。爾來十餘年の星霜を經たる今日、店員三名を置いて、店勢極めて殷賑。氏はまた町内の故老として聲望あり町會常任理事として町内のために盡瘁しつゝある。因に氏の取引銀行は、日本興業夜銀行三輪支店、昭和銀行坂本支店である。

藤井材木店

藤井常吉

明治九年生
營業所　東京市荒川區三河島町七ノ六三一
電話下谷二五三七番

氏は東京府西多摩郡成木村の材木商藤井家の次男である。年少、北海道に渡つて、天鹽の國は名寄の町に居を定め、營々辛苦、雜貨商の經營に成功すると共に、聲望次第に加はり町内有力者として數々の公職に推されたのであつた。已にして大正十二年の帝都大震災を契機として、雜木商に轉じ、復興資材として同地方の材木移出に從事し、豫期以上の業績を擧げた。かくて昭和二年帝都に進出、荒川區町屋二丁目に店舗を設け北海道雜木、家具用材を取扱ひ、昭和七年現地に轉じ、益々店勢盛大に赴いたのである。現に店員四名を置き、氏自らは店務繁忙の傍、隣組々長として銃後自治のために盡力しつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行三ノ輪支店、安田貯蓄荒川町屋支店である。

ベニヤ板製造販賣
合資會社　門山商店
代表社員　門山佐喜
荒川區三河島町七ノ五五四
電話下谷（五四六五番）（五四六六番）

小林材木店

小林良太

明治三十四年生
營業所　東京市荒川區町屋一ノ一〇一〇
電話下谷八七五四番

氏は石川縣河北郡花園村字齋田小林家の長男として生れ、鄕里に於て普通教育を終へて上京、海産物、鮮魚商を經營しありたるも將來材木商の有利なる點に着眼し、昭和元年荒川區三河島六ノ一六九番地に於て獨力材木商を創立し、鋭意事業の發展に努力、昭和十年現地に移轉益々事業の擴張を圖り現今新古材木を取扱ひ盛況を極めてゐるが、氏の如く學ばずして其業に精しく、又習はずして業務に明なるは是れ畢竟事業に熱心なるが爲めにして業界稀れに見る奮鬪家である。然して氏は現在荒川區古材木業組合長並に町會役員に推され衆望を一身に擔ひ時局下銃後の護りを固めて居る。因に氏が取扱品は一般建築材(古材をも含む)が主なるものにして、取引銀行は、三河島信用組合である。

小山材木店

小山隆介

明治三十七年十二月二十日生
營業所　東京市荒川區町屋一ノ五三三

氏は埼玉縣北足立郡志木町出身にして、生家は代々農を業とせるも氏は夙に材木商を志して上京、二十歳の春より二十九歳に至る十ヶ年間深川區木場四丁目新靜商會に於て斯業を鍛錬一般業務に精通の後、昭和七年現地に獨力小山材木店を創立、爾來氏は堅實主義をモットーに事業の發展をはかり業界各關係方面より絶大なる信用を博し、堅牢なる地盤を獲得し今や頗る盛況を極め、その前途に多大の期待をかけられてゐる。氏は如斯多忙の身なるにも不拘社會公共的事業に關與し現に町屋一丁目町會役員其他に推され日夜活動を續けられ業界稀に見る成功者と稱されてゐる。しかして同店の主なる取扱品は家具指物材等にして、取引銀行は、第一銀行三輪支店である。

秋山材木店

秋山傳七

明治三十四年五月廿四日生
營業所　東京市荒川區町屋三ノ一四〇一
電話下谷四九一四番

氏は神奈川縣小田原町在出身にして、生家は農家なるも氏は普通教育修了後、十六歳の春材木商を志して上京、深川區木場磯崎商店に入り二十歳迄十ヶ年間刻苦勉勵、斯業に從事一般業務に精通の後更に仲買店に入り實地に就き修業すること二ヶ年に及び昭和二年現地に獨力秋山材木店を創立されたが時恰も木材界の不況深刻を極め幾多の難關が襲ひ來るも、氏は隱忍自重、堅實主義に依つて此の難關を克服し業界の立直りと共に氏の敏腕は建築業者間の認むる處となり信用の增加と共に堅實なる業礎は築かれ其の取引範圍も擴く、諸會社工場、建築界等大口の取引が盛に行はれ前途多大の期待がか

けられてゐる。尙ほ氏は昭和十二年十月今次の日支事變に應召各地に轉戰赫々たる武勳を樹て昨十四年二月歸還せられた名譽ある帝國陸軍々人である。

日暮里六ノ二八一　電話根岸三八九二番　神谷　四郎
同　二ノ一九八　電話根岸三九三〇番　柴田　利次
同　二ノ二九〇　電話根岸三三二一番　大野　儀藏
同　三ノ一三六八　電話根岸三九三三番　齋藤小一郎
同　三ノ一四三三　佐野　春重
同　四ノ一三八　小田　常吉
同　四ノ一〇八五　堀口　五郎
同　六ノ六一七　鈴木　政雄
同　九ノ一〇七〇　石井貞次郎
同　六ノ六一八　吉沼守次郎
同　一ノ一八八九　森　喜三郎
三河島一ノ二九七三　村井清之助
同　一ノ二九九九　齋藤　親義
同　四ノ三二二四　半藤仲次郎
同　四ノ三四一四　谷岡　愼介
同　七ノ六八三　中根　誠一
同　七ノ五一八　石森　直吉
同　三ノ二九三九　渡邊　周三
同　一ノ二六八四　望月　和一
同　二ノ一〇五五　吉田　利夫
同　一ノ二六六七　伊勢　太吉
町屋二ノ二五五　國府田政一
同　一ノ一〇七一　栗原　正雄
同　三ノ一三三〇　鈴木　榮
三河島一ノ二六六八　山口　德治
同　三ノ二七三九　結城手毛津
同　七ノ六一二　小林　米藏
尾久町一ノ六七六　小泉仁一郎
同　一ノ六七七　吉原　弘之
同　一ノ八〇二　川名　榮吉
同　一ノ一〇一三　國吉　寛
同　三ノ二五八二　新山巳太郎
同　四ノ一六六六　石原　義道
同　四ノ一七八〇　北島牛次郎
同　四ノ一七八四　悌田　昌彌
同　五ノ一〇七五　落合　美文
同　六ノ五八八　暖水　拾藏
同　六ノ六五八　村越三五郎
同　九ノ二八〇〇　木村　平三
三河島町六ノ一四〇　古澤長太郎

電話根岸〇六六六番呼
電話根岸三一〇八番
電話下谷四九七八番呼
電話下谷五一三七番
電話下谷三三八五番
電話下谷九七六四番
電話下谷八九一五番
電話下谷九一〇三番
電話下谷九七七四番
電話下谷五四六三番
電話下谷二一四四番
電話下谷六六二一番
電話下谷一三〇七番

足立區

熊吉商店

石井吉五郎

慶應二年生
立區千住橋戸町二二
營業所　東京市足立區千住
電話　淺草一一二七〇番
足立二二二一七番

氏は埼玉縣の出身、幼くして上京、千住の熊野屋材木店に入り、忠勤誠實能く模範店員として二十有餘年間精勤し、主家に買獻する所尠からざる事は業界有名の事實である。明治三十年當地に獨立、練達熟練した手腕は忽ち同業者並に一流建築業者間に顧客層を獲得し、夙に價格の低廉を以つて名を矚はれ、遂に一流店として斯界に君臨するに至つた。千住材木問屋組合長、千住信用組合理事等の要職を兼ね現在では養子に業務一切を任かせてゐるが、尙店務の進展は止まる所を知らずと云ふ。從業員は九名の多數を擁し、取引銀行も武州昭和の千住支店の外、三井、三菱兩行に口座を開いてゐる。

竹傳本店

神山傳兵衛

明治廿一年十一月十六日生
營業所　東京市足立區千住橋戸町六四
電話　淺草〇三六六
足立二八三八番

當店は連綿數代を經た老舗で、舊幕時代は御用商人として苗字帶刀を許され、頭取として業界の指導者であつた、現在店頭には「材木渡世」と書かれた古き看板があるがこれは幕府より配付されたものと或は明治政府より下附されたものと云はれてゐるが、何れにしても當店の古き歴史を物語つてゐる。當主は先代の五男として生まれ、大正十年八月相續と共に幼名光之助を傳兵衛と改めたので、精勤橋戸支部長、警防團參與、常任理事、聯合町會常任理事等公職數多く兼務し、客年まで千住材木問屋組合長であつた。現在は建築材一般を取扱ひ、從業員は僅か五名であるが、當店は巨萬の不動産を所有し、確固たる地盤の上に立つてゐると。

小西商店

小西幸助

明治二十七年八月廿八日生
營業所　東京市足立區千住橋戸町九六
電話　淺草四九〇九、三一三九番
足立二〇八四番

氏は東京市本所區柳原町の出身にして、高等學府を卒業後自宅に於て斯業を修練、昭和七年九月二十六日嚴父卯之助氏業界を隱退されたので家督を相續、爾來業績大いに向上し獨立後僅か十年足らずにして能く巨萬の富を爲した、業界稀に見る成功者である。現在從業員九名を使用し、松丸太を主として取扱ひ、長野、山梨、茨城、千葉、その他の原産地より直接移入して居る。主なる取引先は東京府一圓の業者並に中

央土木株式會社、清水組等の外諸官廳、一流土木建築業方面に多數の顧客を有して居る。また氏は溫厚高雅の風格を有し幾多の公職を兼ねられ府會議員、區會議員、所得稅調査委員學務委員長、町會幹事として活躍されて居る。

栗原材木店

栗原　威夫

營業所　明治廿八年十一月二十日生
東京市足立區千住大正通三〇

氏は明治廿八年十一月群馬縣邑樂郡長柄村に生れ、夙に材木業に志し上京、荒川區南千住町丸宮材木店に入り刻苦勉勵七ケ年餘の永きに亘り營業の發展に努力、店主の信賴厚く其の將來に多大の期待をかけられて退店、昭和六年現地に獨力材木店を創立、堅實主義をモットーに得意先の獲得に敏腕を揮はれた結果、建築界各方面より多大の同情と信用を博し營業は年を逐ふて盛況を來し既に確固不動の地盤を築き擧げられ、現今多數の店員を指導勉勵し事業の擴張に一路邁進せられてゐる。然して同店主なる取扱品は內外材木各種で、取引銀行は、愛知銀行である。

加田材木店

加田國太郎

營業所　明治卅九年四月廿二日生
東京市足立區千住八千代町七三

氏は千葉縣夷隅郡勝浦町新宮の出身、幼にして材木商を志し、氏が親類に當る深川區木場武昇商店に入り、十六ケ年九ケ月の永きに亘る間勤續して斯業に奮勵努力、店主の信賴厚く、昭和九年一月廿四日東京材木問屋同業組合より模範店員として記念品並に勤續表彰の光榮に浴された精勤家である。斯くして氏は一般業務を習得し多年の宿望であつた獨立開業を昭和九年現地で行ひ、爾來永年の經驗に基づき堅實本位に得意の獲得に努力の結果、建築業者間に多大の信用を博し業績年を逐ふて盛況を來し早くも確固不動の地盤を樹立し益々業務の擴張を圖り、近時好況に惠まれて諸會社、大工場等より大量の注文あり、昇天の勢ひを以て盛況を呈しあるのも要するに氏の公正無私なる商內振りが大なる原因であると謂れてゐる。

染谷材木店

石橋　治三

營業所　明治二十四年生
東京市足立區千住元町四一
電話足立三〇六三番

氏は東京の出身である。京橋區長島町に生れた。小學校を卒業すると共に、材木商たるべく志を立て、深川區平野町なる鈴木商店に入り、精勵刻苦、斯業の研鑽に努め、忠實にして店主の愛顧を蒙り、篤實にして同輩の信賴を受け、春風秋雨二十有二年に餘る。遂に業務に精通し得て、業界の事大小となく掌を指すが如く明となつたので、大正十三年、現地をトして店舗を設け、內外材木各種の營業を獨立開始した。爾來鳥兒匆々十有七年春秋、着々業務を擴張して顧客を開拓し

遂年其の業績を擧げて今日に至り、現に二名の店員を置き、業界一方の覇を稱して居る。氏は資性溫厚、頗る德望があり現に推されて町會役員、元宿神社崇敬者總代である。因に氏の取引銀行は、安田銀行である。

町田材木店

町田　任弘

營業所　明治卅五年八月六日生
東京市足立區千住河原町一四

氏は埼玉縣の出身者である。同縣入間郡名栗村に生れた。高等小學校卒業後、志を實業に立て、材木商たるべく、勇躍父母の膝下を離れて上京し、千住大橋詰の竹傳材木店に入り斯業の修習に粉骨碎身、忠實業に服し、勤勉業に努むる事、十六年に亘つた。而して、業界の巨細に通曉するや、昭和九年四月、現地を相して店舗を設け、內外木材問屋を創めて、多年の宿望を遂げ得たのであつた。爾來奮鬪努力、業礎の確立、業域の擴張を計つた結果、逐年業績を擧げ得て、今日の成功を見るに至つた。氏の重厚なる性格を反映せる堅實なる經營方針は、氏の將來を鮮しく約束して餘りあるものがある因に氏の取引銀行は、昭和銀行である。

藤屋材木店

岡野　敏男

營業所　明治四十一年生
東京市足立區興野町一一一七

氏は茨城縣の出身で、同縣新沼郡田余村に生れた。小學校を卒業すると共に上京、淺草區日本堤の藤屋材木店に入り、精勵黽勉、具に斯業研鑽の苦難を嘗むる事實に十有六年餘。遂に、業界の巨細に通曉し、業務練達の域に達したので、昭和十三年三月、現地に店舗を設け、內外各種木材を取扱つて獨立經營、以て多年の念願を果したのであつた。店主は氏の多年の精勵に酬ひて、藤屋の暖簾を分けたのであつた。創業以來日尙ほ淺く、其の業績を云爲するは尙早であるが、氏一流の堅實なる營業方針の下に、着々業域の擴張に力めつゝあるが故に、現地の發展性に鑑み、洋々春秋に富める氏の前途は、頗る期待せられて居る。

成島材木店

成島　祥元

營業所　明治三十二年七月一日生
東京市足立區島根町八八九

氏は明治卅二年七月、茨城縣北相馬郡寺原村字寺田に生れ生家が材木商なりし關係上、普通教育終了後は家庭に在りて業務に從事斯業の錬磨を積みたる後、大正十三年大望を抱いて上京、現地に材木店を獨力創立し、爾來刻苦勉勵事業の發展を得意の獲得に奮鬪し建築業者間に多大の信用を博すると共に土地の發展に連れ建築界の活況は材木の需要激增し氏の敏腕は愈々發揮されて確固不動の地盤が築き上げられて現今多數の店員を指導し、得意本位に堅實を旨とし益々營業擴張に全力を傾盡され同地方一流の材木店と稱されてゐる。因に

元南足立材木商組合の設立は氏の努力があづかつて力もあるのと謂はれてゐる。

遠 遠竹材木店

片野竹春

明治四十三年生
營業所 東京市足立區梨屋町一〇五七

氏は明治四十三年埼玉縣大宮市に生れ、年壯にして材木商を志し上京、本郷區駒込坂下町岸材木店に入り、刻苦勉勵十五ケ年餘の永きに亘り店主を輔佐し營業の發展に務め其の功績甚大、店主の信頼極めて厚かりしも多年の念願たる獨立開業の機運が熟したので昭和十三年四月現地に岸分店遠竹材木店を創立し、爾來堅實主義をモットーに奮闘努力得意の獲得に努められし結果、開店日尚ほ淺きに拘はらず建築界各方面の信用絶大なるものがあり、着々其の地盤は確立され氏の前途に多大の期待がかけられてゐる。殊に同地方は郊外の發展地として有望視されてゐるので建築界の活況に伴ふ木材の需要增加は一層同店の發展に拍車をかけるものと思はれる。しかして同店の取扱品は内外各種木材で、取引銀行は安田貯蓄銀行である。

森好 森好材木店

森好雄

明治四十四年五月廿五日生
營業所 東京市足立區梅島町一四八八
電話足立三二〇〇番

同店は京都市出身の森定次郎氏が大正十二年創設せられた店にして、開店當時は主として古材木を取扱はれて居られたが、時代の進展と建築界の活況に一般材木を取扱ひ營業は盛況の一途を辿りつゝあつたのである。現主森好雄氏は山梨縣巨摩郡豐岡村出身にして、夙に材木商を志し深川區住吉町宮原分店に入り、十ケ年餘勤續店主を援けて刻苦勉勵、一般業務に精通し業績を擧げ退店獨立を志し家業の古材木商を繼承し事務の發展に努むると共に一般材木をも取扱着々地盤の獲得建築業者間に氏の敏腕と堅實なる商内振りが認められ益々信用の加ふると共に營業は年を逐ふて發展今日の如き盛況を見るに至つたのである。氏は新進氣鋭覇氣に富みその將來に多大の期待がかけられてゐる。因に同商店の取引銀行は、安田銀行支店である。

大野材木店

大野欽之助

明治二十一年十二月十日生
營業所 東京市足立區本木町二ノ二一五三
電話足立三四九四番

氏は埼玉縣南埼玉郡黒濱村の出身にして、夙に材木商を志し上京、大正四年淺草區光川町に古材木商を獨力創立し、刻苦勉勵、幾多の難關を突破し相當業績を擧げられた後同區材木町に移轉し内外各種新古材木を取扱ふと共に一層業務の發展を圖り、建築業者間に多大の信用を博し荒川區内にも進出敏腕を揮はれしが本木町方面は將來發展の可能を見越し意を

決し昭和元年現地に移轉益々事業の發展に努力遂に今日の如き大を成すに至つた。業界稀に見る奮闘家である。しかして氏は多年町會役員に推されて多忙の身を厭はず活動を續けられ其の功勞甚大なるものあり、其の徳行は近隣一帶の信望を集めてゐる。

陸奥屋材木店

齋藤佐吉

明治三十一年生
營業所 東京市足立區西新井町一〇六四

氏は青森縣西津輕郡岩埼村の出身にして、大正十五年青雲の志を抱いて上京、荒川區三河島町に獨力材木店を創立し、刻苦勉勵、事業の發展に努め業績率しく擧がりしも、將來現地は工業地帶として發展性可能なるを見越し、昭和十年移轉事業の擴張に邁進せられたが、氏の先見誤らず同地方の發展を逐ふて著しく、從つて建築界は活況を極めると共に氏の營業振りの堅實は業界各方面の信用に拍車をかけ今や不動の地盤を築き上げ、其の將來に多大の期待がかけられてゐる。しかして同店の主なる取扱品は一般建築材並に古材木等である。

水島商店

水島金太郎

明治卅六年九月十九日生
營業所 東京市足立區島根町八九三

氏は明治卅六年九月下谷區御徒町に於て生る、嚴父祐藏氏は同所に於て明治廿五年材木店を創立、營業の發展に努力された斯界稀に見る老舗にして嚴父七十三歳を以て逝去せらるや、氏は一切の業務を繼承し嚴父の遺訓に從ひ堅實主義をモットーに刻苦勉勵、建築業者間に多大の信用を博し更に建具鋼鐵、疊、襖類の販賣を開始し一層營業は隆盛を來し殊に同地方は工場地帶として發展が見越されあるので氏の將來に多大の期待がかけられてゐる。因に同店の創立は明治廿五年で現主は二代目である。

千住宮元町五九　電話足立三五五五番　池澤駒太郎
同　本町三ノ三一　電話足立二二〇〇番　稲葉房次郎
同　八千代町三六　電話足立三三二一番　寶示戸精一
同　仲町一二三　電話足立三五八六番　細川勘之助
高砂町一二　電話足立二六七七番　奥井柳三
竹塚町二八八　電話大月町〇〇一三番　古庄庫行
梅田町一四八八　電話足立三二〇〇番　森定次郎
梅田町一四九三　電話梅田〇五三三番　關澤藤三郎

向島區

關根支店

關根兵内

明治二十年九月二十日生
營業所 東京市向島區寺島町四一九七
電話墨田〇六四八番

氏は茨城縣猿島郡靜村大字稲尾の出身にして普通教育終了後木材商を志して上京、淺草區金瓦町伊勢由商店に入り十五歳より廿一歳迄斯業に從事一般業務に精通治四十二年淺草區田町一ノ八二（電話根岸〇二二五番）に獨力關根材木店を創立爾來業務の擴張と發展に不眠不休の努力を拂ひ共の堅實主義と敏腕は業界各關係方面より絶大なる信用を博し着々堅牢なる地盤を築き遂に今日の如き大成功を見、今や同區内第一流の材木店と稱され、更に昭和六年現地に支店を新設積極的事業の擴張を圖り是又同地方第一流の材木店と稱さるゝ盛況を見現今從業員七名を指導、得意本位に日夜不斷の活動を續けられ業界稀に見る奮闘家であるが、他面斯かる多忙の身なるに拘はらず、社會公共的觀念强く現に田町々會長其他に推され衆望を擔ふ人格者である。

合資會社 藤屋材木店

代表社員 須原常次郎

明治二十七年八月七日生
營業所 東京市向島區寺島町八ノ七六
電話墨田三八八一番
支店 東京市目黒區自由ケ丘
同 東京市滝田區北耀谷

氏は東京府下の出身で西多摩郡霞村字新町に生れた人。弱冠を越えて木材業者たるべく志し、淺草區地方今戸町なる加藤材木店に入り、拮据黽勉、忠實精勵、斯業の修練に專念すること八ケ年に餘り、悉く主家の信頼を蒙り、全く同輩景慕の的となる。且つ、事務に練達し、業務に通曉し、斯業のエキスパートとして自他共に許すに至つたので、玆に氏は獨立の念願を發し、偶々大震災直後、帝都復興の氣運澎湃たるに乘じ、地を現地に卜し、店舗を設け、内外材木一般を取扱つて、經營自立、遂に宿望を達し得たのであつた。而して氏の百折撓まざる奮闘的精神は、遂に草創一般の難局を克服して、業礎の確保に成功し、特に昭和二年、合資會社に改組して自ら代表社員となり、事務の合理化、に事業の擴張を計つてより、業績飛躍又飛躍。草創以來十有六年の今日、支店二ケ所を有し、店員十二名を使用し、公稱資本五萬圓を流動して其の二十倍に餘る取引を行ひ、以て當方面第一流店たるの盛況を現出した。なほ謹嚴なる氏は甚だ古武士の面影があり弓道を嗜んで今玆十年。頗る奥儀に達し、擧げられて大日本武德會向島支部準備委員である。因に氏の取引銀行は、住友銀行並に安田銀行である。

荒井材木店

荒井昌一

明治三十一年生
營業所 東京市向島區寺島町七ノ一二八
電話墨田四七九五番

氏は東京市淺草區猿若町荒井家の次男にして普通教育終るや、材木商を志し十六歳の時、深川區東町に在つて盛大に營業しありし田木傳材木店に入り、刻苦勉勵、一般業務を習得店主の信頼厚かりしも多年の念願であつた獨立開業の準備なつたので退店、大正十年現地に荒井材木店を開業爾來氏は多年の經驗に基づき堅實主義をモットーに事業の發展を圖り、着々業績を擧げつゝあつたが近年好景氣の波に乘じ建築界の活況は一層事業の發展に拍車をかけ現今新たに製材部を設立し、顧客の便利を圖り、更に同町七丁目に置場を增設するが如き盛況を呈し業界各方面の信用も厚く、氏の前途に多大の期待がかけられ、又公共的事業に貢獻する處大なるものあり町會副會長、會長、相談役等に推されて同方面に今尙ほ活動を續けられてゐるのは世間周知の如くである。

濱野材木店

濱野仙太郎

明治三十年八月二十八日生
營業所 東京市向島區吾嬬町東四ノ一〇九
電話墨田五三〇四番

氏は、東京府の出身である。即ち西多摩郡古里村字梅澤の豪家濱野文吉氏の二男に生れた人である。年少にして上京し城東區龜戸町なる萬富材木店に入り、刻苦精勵、斯業の研鑽習得に努むること多年。その間職に忠に、業に精しく、誠に店員の模範であつた。かくて、大正九年、現地の斯業に有利なるに着目し、店舗を設けて内外材木一般を取扱ひ、以て獨立自營の第一歩を踏んだのであつた。爾來、二十年に垂んとする氏の奮闘は、業礎の强化に業域の擴張に共に成功して、業績大いに擧ぐるを得、特に、諸工場を顧客として大量納入甚だ多きを致してより、店務益々殷盛を招業して今日に及んで居る。氏は資性溫厚にしてしかも謹直、頗る衆望を擔ひ、町會副會長、家庭防火團副團長、向島區教育會理事等に推されて、公共自治の爲盡力する事一方でない。因に氏の取引銀行は、第百銀行龜戸支店である。

秋田屋材木店

梁川長三郎

明治二十七年三月廿五日生
營業所 東京市向島區吾嬬町西四四ノ九四
電話墨田六二六一番

氏は秋田縣の出身で、土崎港雲宕町に生れた人である。嚴父は長治氏。氏は其の二男である。年少にして新潟鐵工所土崎工場に勤むる事に依つて、氏の波瀾ある半生のスタートを切つた。幾年の後、大正九年茨城縣日立に至つて日立製作所に勤務すること三年、大正十年志を抱いて上京し、向島區曳舟通りに薪炭商を始め、業績稍見る可きあつたが、更に翌大

正十一年現地に轉ずると共に、十一月材木商の經營を開始したのであつた。玆に至つてこと志と全く定まり、爾來、星霜十七年一日の如く商道に專念精進せる結果、一切の難局を克服し了して、今や業礎磐石の如く業域廣汎、業績逐次擧がつて店勢頗る順調である。因に氏の取引銀行は、第一銀行押上支店である。

小林材木店

小林傳之助

營業所　明治三十四年二月十七日生
東京市向島區寺島町四ノ一九〇

當店は、先代小林定治郎氏の創業に係り、大正二年以來三十年に垂んとする當方面の老舗である。傳之助氏は、先代の二男であるが、幼少より斯業に親しみ、父君の手足となつて家運の興隆を輔くると共に、斯業の研鑽を怠らず、爲めに、弱冠にして一廉の業者たる手腕を有するに至つた。そこで、箕裘を繼いで二代を稱し、更に精勵眞勉、家業に精進した結果、基礎更に强固を加へ、顧客一層の數を增し、業績逐年に顯著なるを得て、今や店勢頗る順調、堂々たる老舗の貫祿を保つて、業界一方の覇を唱へつゝある。なほ溫順なる氏の資性は、頗る町內內四隣の信賴を蒙り、推されて幾多の公共事業に參與して、盡瘁する所甚だ多く益々德望を蒐めつゝある。

堀田丸太店

堀田正一

營業所　明治二十一年十一月六日生
東京市向島區寺島町八ノ七六
電話墨田三八八一番
ベニヤ板賣場　東京市向島區寺島町六ノ二三

氏は、愛知縣の出身で、海部郡津島町內林堀田正次郎氏の長男である。明治三十五年、氏十四歲の折、青雲の志を抱いて上京し、幾多の曲折十八年の後、而立を超えて材木商の有利なるを知り、親戚なる赤坂の大和屋材木店に入つて、七ケ年に亘つて斯業研鑽の上、業務練達の域に達し、玆に現地に店舗を求め、磨丸太、床用材の製造販賣を開始したのは、大正十五年の事である。爾來、ベニヤ板製造を兼營する等、斯業に精進して、十三年基礎磐石の如く業績大いに擧がり店勢順調の一路を辿つて居る。而して現に店務を司る者は、養嗣子政次郎氏であるが、同氏は日本橋區中洲橋本材木店に於いて斯業十餘年練磨の手腕を有する人で、壯齡壯者を凌ぐ正一氏の指導下に活躍縱橫遂に當地方の發展と相俟つて、この名コンビを以てする當店の躍進は、業界の齊しく期待する所である。因に當店の取引銀行は、昭和銀行押上支店である。

加藤材木店

加藤兼藏

營業所　明治二十五年九月二十日生
東京市本所區向島請地一一七
電話墨田三六一七番

氏は、東京市に生れた人で、淺草區地方今戸町八二なる加藤傳四郎氏の令弟である。家業は材木商であつたので、氏は

その環境裡に、斯業の研鑽自ら成り、弱冠にして業務精通、業勢曉達の域に達した。そこで、現地の發展に將來あるを看取して一店を設け、內外材木一般を取扱つて經營を開始し、獨自の境地を開拓すべく第一歩を踏んだのである。時に大正八年。氏二十七歲の折である。爾來、堅實の方針を執つて星霜二十年。その顧客本位を標榜する氏の營業は、愈く江湖の信賴を獲得し、逐年業績を擧げて、今や店勢頗る順調の一途に就いて居る。氏は店務繁忙の傍、公共自治の爲盡力みる所鮮からず、四隣町內の人望を蒐めつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行押上支店である。

松屋材木店

渡邊與四郎

營業所　明治四十一年七月二十五日生
東京市向島區吾嬬町四六ノ六六

氏は東京市の出身で、本所區石原町に生れた。父君は豐藏氏。氏はその四男である。豐藏氏は、夙に建築業に從事して相當の業績を擧げ得た人であるが、大正十三年、帝都復興の氣運に乘じて材木商に轉じ、現地を卜して正に開業せんとするに際し、突如急逝したのであつた。玆に於いて與四郎氏は年少十六歲の身を以て、亡き父君の遺鉢を繼ぎ、赤手空拳、しかも何等の斯業に經驗有せざる氏が、しかも、かの財界大不況の影響下にあつて、涙なくして語る能はざるの難局に直面しつゝも、不撓不屈の精神を以て一切を克服し去り、一面斯業の研鑽習得に力め、一面、業礎の强化、顧客の獲得に勵み、夙に起き夜に寢ねて家業に精進した結果、櫛風沐雨十有五年の今日、遂に大成して店勢頗る盛なるを得たのである。しかも氏は尙ほ春秋に富む。その眞の活躍は、むしろ今後にあるべく業界の齊しく刮目して期待する所である。因に氏の取引銀行は、安田銀行押上支店である。

櫻井製材所

櫻井究作

營業所　明治二十四年九月生
東京市向島區吾嬬町東五ノ五二
電話墨田〇五七〇番呼

氏は新潟縣古志郡山本村櫻井家の長男にして、生家は山林業を經營しある關係上、普通教育終了後家庭に在りて業務に從事せられたるも將來實業家として立身すべく決意し三十歲の時上京、深川木場某店に於て三ケ年又本所小暮材木店に四ケ年間實地に就き一般業務を習得し大正十四年向島吾嬬町東五ノ四三番地に獨立開業し、堅實主義をモットーに事業の發展を圖り各方面の信用加はり事業は順調に進展したるを以て昭和十一年八月現地に製材所を新築移轉し、益々事務の擴張に奮鬪努力今日の盛況を見るに至つたのである。然して櫻井製作所の主なる事業は建具材の賃挽並に自家用製材である。

吉村製材所

櫻野竹次郎

營業所　明治三十四年五月十日生
東京市向島區吾嬬町西四ノ三五
電話墨田六八二六番呼

氏は福井縣南條郡今庄村樫野勉次郎氏長男にして、生家は代々農を業とせられるも氏は商業に志し昭和十二年上京、氏の從弟に當る淺草區北清島町吉村作次郎氏經營の材木店に入るや同年創設せられたる製材部に主任として拔擢せられ事業の發展に努力中同十五年三月本店直營より分れて樫野氏が直接經營さるゝことゝなるや商號を吉村製材所と改稱今日に至つたのである。店主竹次郎氏は今庄高等小學校卒業後鄕里に於て會社員として實業界に活躍手腕を揮はれしが吉村作次郎氏の懇望に依り昭和十二年上京、同店に入り現業に從事せらるゝや、其の實直と敏腕は建築界各方面の賞讃する處となり幾何ならずして如斯成功を見るに至つた業界稀に見る奮鬪家である。

南材木店

南　健

明治三十二年五月十二日生
營業所　東京市向島區寺島町五ノ六三

氏は東京市小石川區の出身にして、生家が材木商(當時)なりし關係上、家庭に在りて嚴父を授けて業務を習得し十六歳の時足立區千住橋戸町竹傳商店に入り六ケ年勤續主家の信頼厚かりしも大正十四年多年の念願叶ひ現地に獨力材木店を創立し、爾來氏が經驗に基づき堅實主義をモットーに敏腕を揮ひ、建築業者間に多大の同情と信用を博し事業は年を逐ふて發展し遂に今日の如き確固不動の地盤を築ぎ上げ益々事業の發展に努力され氏の將來に多大の期待がかけられてゐる。然して同店の取扱ふ主なる品目は一般建築材である。

高城商店

高城銀次郎

明治二十六年生
營業所　東京市向島區吾嬬町東五ノ四三
電話墨田二五二三番

氏は東京市の出身にして、生家が材木商なりし關係上、普通教育終了後、深川區千石町二丁目長島商店に入り、刻苦精勵、店主の信頼も厚く一般業務を修業後、大正十一年現地に獨立材木店を開業し、爾來多年の經驗に基づいて堅實主義をモットーに事業の發展に努め其間幾多の波瀾曲折を經、業界各方面の信用益々加はり好景況の波は建築界におし寄せ營業は頓に發展し遂に今日の如き大をなすに至つたのであるが、要するに氏が今日の成功も人格の高潔と公正無私な營業振りが得意先の信用に拍車をかけたからである。しかし氏は現今繁忙を極めながらも町會役員其他社會公共事業に活躍貢献する處實に大なるものがあり、同店取扱品は一般建築材にして取引銀行は、第百銀行である。

福田材木店

福田作郎

明治四十五年六月生
營業所　東京市向島區吾嬬町東二ノ二〇
電話墨田八〇八一番

氏は栃木縣の出身、河内郡篠井村篠井農福田千代作氏の

長男として生れ十六歳にして上京、本所區横川橋石井材木店入店し斯業を研鑽すること九ケ年、昭和十三年陽春四月、廿五歳にして獨立し現在の地に福田材木店を創業、一般建築材を販賣、勤勉實行の氏は日夜營々として業務に勵み遂に今日の大をなされた、現在店員二名を使用して居る。また氏は公共事業に盡瘁され現在警防團役員として後進の指導に當つて居る。氏は當年廿九歳の若さで大商店を經營され斯界稀に見る努力家でその將來は大いに嘱望されて居る。

吉村吾嬬町賣場

小不動佐太郎

明治四十三年三月廿三日生
營業所　東京市向島區吾嬬町東一ノ一六
電話墨田六八二六番

氏は福井縣南條郡堺村農小不動家の三男として生れ、堺小學校を卒業、十五歳にして上京、淺草區北清島町吉村本店に入り修業を積み主家のため盡力された、昭和四年現在の地に吉村吾嬬町賣場が設置されるや選ばれて同賣場主任となる。昭和十五年一月同賣場は本店直營の手を離れて氏の經營となり、その後氏の努力により益々業績擧り今日に及んで居る。現在從業員三名を使用し家具材、建具材を主として販賣して居る。氏は當年三十一歳の壯年にしてその前途は洋々たるものあり斯界各方面から大いに嘱望されて居る。因みに氏の取引銀行は、第百銀行である。

吾嬬町西一ノ八一	電話墨田二二〇五番 富塚幸太郎
同　西三ノ九	電話墨田四八二四番 弓削田丈三
同　西二ノ二〇	電話墨田三七八一番 小宮陽一郎
同　東四ノ三〇	池上啓次郎
同　西八ノ四九	電話墨田五二六七番 小澤銀次
隅田三ノ一一六〇	電話墨田六七六四番 佐久間要
吾嬬町西六ノ五二	清水市平
寺島町五ノ一一四	電話墨田二六四四番呼 平野公一
同　八ノ七九	電話墨田三八八一番呼 中澤常次
同　七ノ二〇二	鶴見久太郎

城東區

萬富本店

合名會社
代表社員 小山富藏
明治三十四年生

支配人 寺川武三郎
明治三十三年生
營業所 東京市城東區龜戸町一ノ二〇
電話墨田七〇九、七一〇番
支店 東京市本所區紅東橋二
電話本所三七七四、九〇四六番

當店は、その創立弘化三年と稱せられ、春風秋雨今年九十有五年を閲せる業界屈指の老舗である。現主はその四代に當り、傳統を守つて、初代富藏氏の名を襲ぎ、關東有數の材木店として、一世紀に垂んとする覇業を揺がしめず反つて店勢一層の伸展を示し、殊に昭和十年、時代の推移に順じ在來の個人經營を改め合名會社たらしめてより、自ら代表社員として本店のみにて二十餘名を算する社員を統率し、店務合理事業一段の殷盛を招ぎつゝある。而して、よく主家の支柱となり、この盛業に與つて力ある人は、即ち現支配人寺川武三郎氏であつて、東京市向島區吾嬬町西七なる本多喜平治氏の次男。當小山家の親戚に當り、年少より同店にあつて精勵眼勉二十有餘年一日の如き忠勤を勵み、遂に名支配人として、全經營其の手腕に委ねられて今日に及んだ。なほ、當店より出でゝ一流業者たる者已に十指に餘り、業界の壯觀と稱せらるゝは、老舗の貫祿を示して餘りありと謂ふべきである。因に當店の取引銀行は、第百銀行本所支店である。

株式會社 丸日ベニヤ製作所

代表取締役 鈴木暦太郎
明治二十六年生
營業所 東京市城東區南砂町一ノ二七七
電話本所一三二五、一四三七番

氏は靜岡縣濱名郡和田村字藝師に生れた人。弱冠にして令兄に隨つて北海道に渡り、共に膽振國苫小牧なる中村組に勤め、精勵よく傳輩に拔んじ俊敏遂に中村組の中心勢力となりして令兄と共に同組を辭して上京、現地を卜して製材所を設け、兄弟相輔けて頗る業績を擧げ得たが、偶々關東大震災に遭遇して被害甚大。令兄第一線を退いて氏は獨立經營の第一歩を踏んだのである。時に大正十三年、かくて帝都復興の機運に乘じて基礎を強化し、業績日に日に向上の一路を辿りつゝ、昭和十三年に及んで事業擴張の爲め且つは時代に順應せんがため、從來の個人經營機構を改組して、株式會社となし氏自らその代表取締役となつた。顧みるに創業以來二十年に亞んとして、今や店員十數名、工場從業員五十餘名を督し、資本二十萬圓を擁する斯界の一流業者。正に立志傳中の壓卷である。因に氏は住友、三和、第一、第百各銀行深川支店と取引がある。

都賀屋商店

福田伊兵衛
大正四年生
營業所 東京市城東區龜戸町一ノ三九

氏は東京市城東區龜戸町一ノ三九先代伊兵衛氏の長男として生る、生家は、代々材木商を經營し居られた關係上、普通教育修了後家庭に在りて一般業務を修業の後、更に深川の辰英商店に入り八ケ年間刻苦勉勵、業務に精通の後家庭に還りて嚴父を輔佐し營業の發展に努力中不幸先代伊兵衛氏は昭和六年五十七歳を以て惜しくも逝去せられ茲に氏は家督相續すると共に幼名守一郎を改めて先代の名を襲ひ陣容を一新事業の擴張に勇往邁進中、昭和十四年八月今次の日支事變に召されて出征各地に轉戰赫々たる武勳を樹てた名譽ある帝國軍人である。尚ほ氏が出征中は伯父に當る田中直次郎氏が業務一切を管掌依然盛況を極めてゐる。因に同店は現店主が四代目に當る斯界に古き歴史を有する老舗で、取扱品は建具材及び一般建築材である。

鹿島屋商店

達惠一郎
明治三十五年三月三日生
營業所 東京市城東區龜戸町六ノ一八二
電話城東〇三一四番

氏は石川縣七尾市の出身にして、縣立七尾商業學校卒業後上京して、中央大學に學び一時官吏となり亦た會社員となりて社會の實相を辛さに嘗め社會の荒波と鬪ひつゝある中關東大震災に遭遇し帝都復興の急なる所以を痛感し、茲に初めて實業家となつて復興事業の第一線に起たんことを決意し復興には先づ材木の供給が何より急務なりと堅き信念の下に大正十三年一月現地に何等の經驗なき身を以て獨力鹿島屋材木店を創立し、爾來自から陣頭に起ち不眠不休の努力を拂ひ合理的營業方法に依つて渦卷く怒濤の中に飛込み敏腕を揮はれし結果、建築界各方面より多大の同情と信用を博し商取引は愈々旺盛を極め今や同地方に於ける一流處の大商店となり一般業界からその動靜が注目されると共に將來に多大の期待がかけられてゐる。前年氏は鄕里と東京の二ケ所に巨額の金員を投じて先祖の墓碑を建設せらるゝ綿業界稀に見る人格者である。

洲崎製材所

葛城隆次
明治二十四年一月二十三日生
營業所 東京市城東區南砂町九ノ二四七一
電話本所五四四九番
工場 千葉市塚川町

氏は京都府下の出身、丹波國弓削村に生れた。年少大阪に出で葛城材木店に入り、斯業習得に專念したが、其の俊敏精勵主家の認むる所となり、遂に乞はれて其の養嗣子となつたかくて氏二十五歳の折、世界大戰に伴ふ本邦海運界未曾有の好況に着目し、造船業に轉じて一攫千金、一時その敏腕を謳

はれたが、戰後恐慌襲來、造船界遂に昔日の觀なく、氏亦木材業に復歸して孜々營々。偶々大震災突發するや、復興の氣運を捉へて帝都に進出し、葛城商店東京出張所を設けてより活腕よく業礎の强化に成功した。爾來、洲崎製材所と改名し別に工場を千葉市に設け、北洋材專門を廢して內地松の製材に改め、森井氏を擧用して店員四名工場從業員四十五名を督せしむる等、事業の伸展に改善にベストを盡して星霜十七年遂に製材界一方の覇を稱するの現況を齎した、森井氏は奈良縣吉野町の人。親戚深川區數矢町松本商店にあつて、斯業習得、頗る練達の名あつた人。葛城氏の知遇を得てその支配人となり忠實比なしと稱せられる。因にその取引銀行は、三和銀行深川支店である。

大西製材所

大西經雄

明治二十九年六月十六日生
營業所　東京市城東區北砂町一ノ二二三
電話本所九五三四番

氏は德島縣勝浦郡小松島町に生れた人。嚴父は大西清吉氏經雄氏は其の四男である。令兄久文氏、夙に上京して、深川區三好町四に盛業を營みつゝあつたが、恰も大震災直後に當り、帝都復興の機運に乘じ、店務繁忙を極めたるを以て、經雄氏遠くより來つて同店に投じ、令兄を輔佐して、店勢一層の擴張を計つた。時に氏二十五歲の折である。爾來同店に止まり精勤店務に與り、黽勉斯業の研鑽を懈らざること九ケ年練達の手腕力量を贏得たる後、乃ち、現地に製材部を新設して、氏自らその經營に當り、令兄の經營する大西久文商店を本店として、文字通りの脣齒輔車、兄弟力を協せて家業の伸展に盡したのであつた。かくて八星霜を經たる今日、氏の業礎全く堅く、木場內の問屋業者を主なる顧客として、地挽製材の供給に日に夜を繼ぐの盛況である。しかして今次の事變業界に好轉機を與へ活況甚だ見る可く、氏のこれに乘じて一大飛躍すべく目下計り中である。切にその成功を祈る次第である。因に氏の取引銀行は、三和、第百各銀行深川支店。

合資會社　丸共ベニヤ工所工場

代表社員　伊藤孝市

明治二十六年八月二十八日生
營業所　東京市城東區南砂町二ノ八二四
電話本所一四〇〇番

當社は、大正九年の創立に係り、資本金二十萬圓。本店を麻布區新廣尾町三ノ九に有し、支店を橫濱市中區長者町に置き工場を當地に設けて、全店員二十餘名、從業總員百五十名を算するベニヤ板業界の巨舖であつて、代表社員伊藤孝市氏は、差込イナゴ附杉ベニヤ天井板の完成者であり、全國ベニヤ板工業組合聯合會理事、東京ベニヤ板工業組合理事、大洋ベニヤ株式會社專務取締役等々を兼ねて、業界著名の士。而して、當工場は、昭和九年に設置されたもので、敷地三千餘坪に餘る廣大。內部は、杉ベニヤ板部とラワン雜木ベニヤ板部に分れ、工人百五十名、孜々として、專賣特許差込イナゴ

附杉ベニヤ天井板、ラワンベニヤ板等の大量生產に從事しつゝある。而して、工場主任として伊藤一雄氏統率の手腕を振ひ、孝市氏は、多くの場合、本店よりもこの工場にあつて、全機構を督勵し、以て、產業報國の實を擧げつゝある。因に當工場取引銀行は、住友銀行深川支店である。

吉川材木店

吉川磯松

明治二十六年生
營業所　東京市城東區大島町七ノ二三
電話本所七六七五番

氏は東京市城東區大島町吉川家次男に生れ、實兄が同町に於て材木商を經營し居られた關係上、普通敎育修了後、實兄を援けて營業に從事し其の發展に貢獻すること大なるものあり、大正七年分家して現地に營業を開始し製箱材及び枕木材を專門取扱ひ事業の擴張を圖り發展の一路を辿つて居つたが彼の關東大震災を契期に一般建築材をも取扱ひ帝都復興の先覺者たらんことを期し堅實と敏速を旨とし得意本位に活躍の結果、建築各界方面に多大の信用を博し遂に今日の如き盛況を見るに至つたのである。而して同店の取扱ふ主なる商品は建築材で、取引銀行は、第百銀行である。

福田材木店

福田重作

明治三十三年五月九日生
營業所　東京市城東區大島町八ノ六六六
電話本所一八四五番

氏は栃木縣河內郡豐岡村の出身にして、農業福田家の次男として生れた、十六歲の時志を抱いて上京、城東區龜戶町一丁目萬富商店に入り材木業を修業、永年に亘り主家のため奮鬪努力されたが、大正十五年愈々現在の地に獨立、福田材木店を創業、從業員五名を使用、極めて盛大に業務を營み建築材一般を取扱ひ、得意先は主として諸會社、工場、建築請負業、土木請負業その他一般建築業者多數を確保して居る、氏はまた社會事業に盡瘁され町會役員に推され、隣組々長を務め近隣の信望を蒐めて居る、因みに氏の取引銀行は、第百銀行である。

福壽商店

福田和十郎

明治三十四年三月二十三日生
營業所　東京市城東區龜戶町九ノ二五二

氏は栃木縣河內郡藥師寺村農業海老原岩吉氏の六男として生れ、十九歲の春上京、深川區木場扇町なる辰巳材木店に入り、材木業を修練され大正十二年まで同店にあり、後福壽材木店々主福田壽一郎氏の懇望により養子として入籍、昭和二年養父病歿されるや家督を相續すると共に業務一切を繼承し今日に至つた。尙ほ福壽材木店は舊幕府以來の老舖にして氏をもつて五代の店主である。現在店員二名を使用し建築材一般を取扱つて居る。因みに氏の取引銀行は、日本興業銀行である。

杉原商店

杉原福市

明治三十一年生
營業所　東京市城東區龜戸町七ノ一二七
電話城東一三二四番

氏は愛知縣渥美郡赤羽根村の出身にして、故郷若戸高等小學校卒業後實業を志して神戸に出で種々事業に就いて奮鬪努力幾多の波瀾曲折を經前途に光明を認むるに至つたが、就中材木業の最も有利なる點に着眼し時恰も關東大震災後の復興を目指して大正十六年上京、現地に獨力杉原材木店を創設し復興の第一線に進出不眠不休事業の擴張と發展に邁進し建築業者間に多大の信用を博し數年ならずして堅實なる基礎を確立し今や同地方一流處の大商店と稱され昭和十一年同町三丁目に支店を設置し氏の實弟業務一切を管掌是又盛況を呈してゐる、氏は斯かる奮鬪家なるに拘はらず社會奉公の念厚く現に町會役員、水害對策副委員長等に推され日夜活動を續けられ業界各方面から其將來に多大の期待をかけられてゐる。

丞德商店

阿久津德次郎

明治三十三年生
營業所　東京市城東區龜戸町六ノ二九
電話城東一三六八番

氏は群馬縣新田郡强戸村の出身にして、故郷强戸村高等小學校卒業後、廿一歳の時材木商を志して上京、龜戸町一丁目福田伊兵衛氏方に於て廿八歳まで修業、主家の信頼厚く一般業務に精通業界各方面より將來を嘱望されつゝ退店、昭和二年現地に獨力函德商店を創立、從來十有四年間氏が奮鬪は更に涙ぐましいものがあり、其間一起一伏の波瀾を克服し氏の堅實主義と其の敏腕は漸次一般建築業者間の認むる處となり同情と信用は年を逐ふて加はり、今や確固不動の地盤を確立し商取引は旺盛を極め前途に多大の期待がかけられ眞に洋々たるものがある。しかして同店の主なる取扱品は一般建築材で、取引銀行は、第百銀行である。

森材木店

森泰助

明治三十三年九月生
營業所　東京市城東區大島町六ノ九〇
電話本所七四四三番

氏は埼玉縣比企郡龜井村出身にして、普通教育修了後、材木商を志して十八歳の時上京、本所區江東橋二丁目丸共材木店に入り一般業務修業の後、更に埼玉縣大宮町大野材木店に於て修業業務に精通主家の信頼厚かりしが多年の宿望である獨立開業の準備整ひ昭和二年現地に森材木店を創立、爾來幾多の困難と闘ひ氏の敏腕と堅實主義は建築業者間の信用に拍車をかけ幾年ならずして早くも堅牢なる地盤を獲得し今や市内各會社、工場及建築業關係方面に多數の得意を有し取引愈々旺盛を極め氏の前途に多大の期待がかけられてゐる。尙ほ氏は公共の念に厚く現今隣組々長其他幾多の社會事業に活躍

を續けて居る。因に同店の主なる取扱品は一般建築材で取引銀行は、第百銀行である。

中信材木店

平賀鑑太呂

明治四十二年生
營業所　東京市城東區龜戸町七ノ二
電話城東〇六〇一番

氏は東京市城東區龜戸町七ノ二平賀信太郎氏の長男にして生家が材木商なりし關係上、保善商業卒業後嚴父の膝下に在りて鋭意斯業に勉勵事業の擴張と發展に貢献する處大なるものあり昭和十年業務一切を鐘太呂氏が繼承自から第一線に進出活躍中、昭和十二年九月今事變に召されて出征、各地に轉戰赫々たる武勳を樹て、昭和十五年一月歸還せられた名譽ある帝國陸軍騎兵軍曹である。尙ほ同店は當代が參代目に當り歴史に古き斯界名望家にして各會社、工場並に建築界に取引廣く當代又た新進氣鋭の實業家にして其將來が嘱望されてゐる。因に同店の取扱品は一般建築材にして、取引銀行は、金原銀行である。

下清本店

石井清次

明治二十六年生
營業所　東京市城東區龜戸町三ノ八四
電話墨田七七五八番

氏は千葉縣船橋市の出身にして、廿歳の時材木商を志して上京、深川區木場萬信材木店に入り一般斯業を修業、大正五年現地に獨力下清材木店を創立、爾來幾多の波瀾曲折を經、氏が敏腕と堅實なる商内振りは建築請負業者間に絶大なる信用を博し殊に關東大震災後の復興に關し献身的努力は業界一般の賞讃する處にして商情年を逐ふて發展遂に今日の如き大を爲すに至つたのである。現在小岩町に支店を設け本店同樣盛況を極めあり、更に長男清一氏は府立第三商業を卒業後家庭に在り嚴父を援けて家業の發展に努力し其功績不勘前途有爲の年壯實業家として一般業界から嘱望され、又た氏は家業の多忙にも拘はらず社會公共的觀念厚く目下町會相談役其他に推され日夜活動を續けられてゐる。

菅谷材木店

菅谷立三

明治二十九年生
營業所　東京市城東區龜戸町四ノ八四
電話墨田三〇七五番

氏は栃木縣芳賀郡清原村の出身にして、生家は農を業とせるも氏は材木商を志して廿歳の時上京、氏の義兄に當る加藤氏が經營せる淺草區二本堤加藤材木店に入り刻苦勉勵、一般業務に精通店主の信頼厚く事業の發展に貢献する處大なるものあり時恰も關東大震災後における帝都復興の爲め業界は活氣横溢機を見るに敏なる氏は大正十四年十月現地に獨力菅谷材木店を創立、爾來幾多の難關を突破し其實なる取引振は業界一般の認むる處となり事業は年を逐ふて發展し遂

に今日の如き大を爲すに至り、其得意先も市内の各會社、工場、建築業者等の大口に多く取引旺盛を極めてゐる。更に氏は同業組合評議員並に町會役員等に推せられて公共的事業に活躍し衆望を一身に擔つてゐる。因に同店の主なる取扱品は一般建築材である。

星野材木店

星野清次郎

明治二十五年生

營業所 東京市城東區龜戸町七ノ二二九
電話城東八五七番呼

氏は千葉縣東葛飾郡流山町の出身にして、生家は薪炭商なりしも氏は材木商を志して、幼時故郷なる流山町の一流材木店であつた松本材木店に入り刻苦勉勵、一般業務を修業の後更に大正十四年上京し、深川木場に於て數年間鍛錬したる後昭和五年現地に獨力星野材木店を創立、爾來幾多の難關を突破し事業の擴張と發展に不眠不休の努力を拂ひ氏の敏腕と堅實な商取引振りは建築界各方面より絶大なる信用を博し營業は年を逐ふて進展し確固不動の地盤を獲得し今や同地方一帶に亘り押しも押されもせぬ一流處の老舗と稱せらるゝに至つたのは氏が過去三十餘年間に亘る奮鬪努力の賜と云ふべきである。しかして同店の主なる取扱品は北海道產雜木、ラワン米松材、內地材等である。

中川商店

中川倉吉

明治三十七年十一月廿五日生

營業所 東京市城東區龜戸町三ノ一八〇
電話墨田一八〇二番呼

氏は東京市淺草區千束町中川家の長男に生れ、生家は車製造業なるも氏は材木商を志し、普通教育終了後、十五歳の秋下谷區竹町下茗材木店に入り、刻苦勉勵、一般業務に精通し主家の爲め盡せて功績不尠、昭和五年多年の宿望叶ひ現地に獨力中川材木店を創立、爾來幾多の難關を突破し家業の發展に不眠不休の努力を拂ひ其の敏腕と堅實主義は建築業者間に多大の信用を博し現今各方面に亘り堅牢なる地盤を獲得營業は年を逐ふて發展其の前途に多大の期待がかけられ眞に洋々たるものがある。氏は現今町會副會長其他の要職に推されて衆望を擔ひ日夜活動を續けられてゐる。しかして同店の主なる取扱品は一般建築材並に銘木、ベニヤ板等で取引銀行は、安田銀行である。

佐藤製材所

佐藤友治

明治四十四年六月廿三日生

營業所 東京市城東區大島町三ノ二七八

氏は山形縣東田川郡八榮黑村出身にして、生家は農を業とせるも氏は製材業を志して昭和七年上京、城東區南砂町松浦製材所に入り三ケ年間實地に就き研究の後昭和十年六月現地に獨力佐藤製材所を創立、爾來幾多の難關を克服し業務の發展に奮鬪努力創業未だ日淺きに拘はらず建築界其他各方面より多大の信用を博し早くも確固不動の地盤を獲得し多數の從業員を擁し日夜事業の擴張に不眠不休の努力を拂ひつゝある新進氣鋭の年壯實業家にして其の前途に多大の期待がかけられ眞に洋々たるものがある。しかして氏の營業は一般製材業にして、取引銀行は、日本興業銀行である。

齋藤製材所

齋藤勇次郎

明治四十年十一月廿四日生

營業所 東京市城東區大島町一ノ四二

氏は山形縣東田川郡常萬村餘目新田の出身にして、生家は農家なるも氏は製材業を志して廿四歳のとき上京、深川區猿江町直木工場に入り五ケ年間實地に就き修業一般業務に精通の後昭和十一年二月廿五日現地に獨力齋藤製材所を創立し、爾來萬難を排し得意本位に堅實主義をモットーに奮鬪努力業界各關係方面より絶大なる信用を博し開業日淺きに不拘旭日昇天の勢ひを以て事業は發展し、早くも確固不動の地盤は樹立され其の前途に多大の期待がかけられてゐる。同製材所は主として製材の販賣並に賃挽等にして、取引銀行は、金原銀行である。

加能屋商店

下木元吉

營業所 東京市城東區龜戸町三ノ二五二
電話墨田二七三八番

店主下木氏は石川縣金澤市の出身にして、多年郷里金澤市に於て土木建築業を經營して居られたが、大正十四年中央進出を目指して上京、現地に加能屋商店を設立土木建築業の外材木をも取扱はれるに至つたのである。然し同店の營業方針は木材の小賣は一切行はず主として建築請負業者間に大量供給するのが目的で深川木場は勿論遠く原產地から直に大量の木材を買付け需要者の便をはかり爲めに同業者の信用も厚く取引も大口の物丈けにて大勢の店員は日夜活動を續け旺盛を極めてゐる。氏が長男金吉氏は普通教育修了後嚴父の膝下に於て家業の發展に努め前途有爲の年壯實業家としてその將來に多大の期待がかけられてゐる。

龜戸町九ノ三〇五	電話本所五〇六六番	天宮吉五郎
大島町六ノ一五三		田邊好吉
南砂町一ノ二七九		豐崎清治
同 二ノ六九七		村松安雄
同 七ノ二〇	電話本所五六九六番	竹內冨藏
北砂町一ノ五二四		宇田川勝太郎
同 二ノ二二七	電話本所九七六二番	櫻井雅雄
同 三ノ九	電話本所五一九二番	細井恒雄
同 四ノ九〇五	電話本所五八八六番	中村重藏
龜戸町三ノ一二七	電話墨田一四六七番	杉原松一
大島八ノ五四四	電話本所七九五二番	村松喜六
同 七ノ七四五		深澤鐵藏
同 六ノ四五七		窪谷稔

江戸川區

成田材木店

成田清

明治四十年五月一日生
營業所 東京市江戸川區東小松川町四ノ三〇
電話江戸川二五六番

氏は東京市淺草區田原町に生れた人で、成田四郎氏の長男である。幼少十三にして曳舟なる岩船材木店に入り、具に辛酸を嘗めて斯道の研鑽習得に力むること七年に餘り、業務に精しく、業勢に明かなるを得たので、茲に獨立を志し、現地の斯業に有利なるをトして店舗を設け、内外材木一般を取扱つて營業を開始した。時に昭和二年七月。爾來星霜を閲して十有二年。氏の不撓不屈の精神と、淺潮俊敏の商腕は、一般建築業者に、工場會社に多數顧客を獲得して、基礎を磐石の安きに置き、着々業績を擧げて、店勢甚だ順調なる現況を招來した。氏は家業精進に繁忙なる傍、在郷軍人會松江分會第一班會計、國防婦人會相談役等の地位に推されて、銃後の赤子としての職分に盡瘁する所鮮からず、悉く四隣町内の信頼を受けつゝある。因に氏の取引銀行は、金原銀行である。

秋澤材木店

秋澤里

明治三十五年十一月二十日生
營業所 東京市江戸川區平井町一ノ九九〇
電話城東七六八番

氏は、栃木縣人で鹿沼町に生れた。嚴父秋澤金作氏は、鹿沼村時代の村長として令名のあつた人で、氏は其の三男である。年少郷關を辭して上京し、深川區平野町板伊材木店に入り、斯道修業數年にして大正十二年の大震災に遭遇し、轉じて、淺草區内に材木商を經營せる義兄の下に身を寄せ、その家業興隆に協力すると共に、斯業の研鑽を怠らず、遂に、練達明通の域に達したので、昭和六年、現地に店舗を設け、内外材木一般を取扱つて開業した。爾來、星霜十年に充たすと雖、已に業礎磐石の如く、業績顯著、店勢順調なるを致して今日に及んだ。氏は資性篤實、種々公共の爲に盡して、頗る四隣に信望がある。又、曾つて國勢調査委員として盡瘁する所あつて、内閣より表彰せられ、記念品を贈らるゝ等の事があつた。因に氏の取引銀行は、第百銀行の龜戸支店である。

齋藤材木店

齋藤音吉

明治四十三年一月二日生
營業所 東京市江戸川區平井町二ノ九二八

氏は新潟縣人で、古志郡東谷村字柄堀に生れた。嚴父は石藏氏。氏はその二男である。年少十五歲。實業に志して郷關を去り、遙に東都に來つて向島區吾嬬四の濱野材木店に入り精勵刻苦、職に忠に業に勵み、店主の愛顧を蒙ると共に、同

輩の畏敬を受け、しかも斯業の習練日に月に進む。かくすること十一年に餘つた後、現地を相して内外材木各種並にベニヤ板販賣の店舗を設け、初一念を茲に貫徹して、獨立の一歩を踏んだ。時に昭和十一年。爾來、幾何の年虚を經ずと雖、既に草創一般の難局を打開し去り、業績の顯著なる上昇は、斯界驚嘆の的となる。これ偏に氏の奮闘努力の賜なると共に舊主家濱野材木店の後援、與つて力ありと云ふべきである。因に氏の取引銀行は、第百銀行龜戸支店である。

常陸屋材木店

大高清治

明治二十八年四月八日生
營業所 東京市江戸川區逆井町一ノ九〇
電話城東二四四番

氏は、茨城縣人で、水戸に生れた。大高半助氏の長男である。家業は材木商であつたので、斯業の雰圍氣中に生育した氏は、家運の興隆を目指して父君を輔くるの一方、研鑽に習業に、精勵する所あつて、弱冠すでに精通練達の手腕を謳はれた者である。偶々震災直後の復興氣運東都に澎湃として漲るや、氏は勇躍上京して、千住に一店を設け、材木問屋を經營して、活躍縱横、斯界の好話柄となつた。而して、昭和十年、現地の斯業により有利なるを看取し、轉居を斷行して、舊に倍蓰して奮闘に次ぐに奮闘を以てし、僅々四星霜を經るに過ぎざる今日、堂々たる店勢を張るに成功して、その健腕を再び業界人をして瞠目せしめつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行龜戸支店である。

峰越材木支店

井關嘉六

明治三十三年三月二十五日生
營業所 東京市江戸川區東小松川三ノ三五二
電話江戸川二七七番

氏は徳島縣の出身で、勝浦郡大谷村に生れた、井關林藏氏の四男で、當區小松川二ノ四一ノ一峰越本店主にして小松川材木商同業組合長なる井關尙雄氏は氏の長兄に當る。年少十四歲、令兄の足迹を踏んで材木商を志し、上京して深川木場なる京文材木店に入り、精勵刻苦斯道習業七年餘の後、大正十三年六月、淺草橋に内外材木一般を取扱つて峰越支店を開設し、以て宿望達成、自在に手腕を振ふことゝなつた。即ち令兄獨立の翌年で、震災直後の帝都復興爵勃たる機運を捉へたのであつた。而して同十五年、現地に移轉し、令兄の懇篤なる指導下に一意家業に精進した結果、見事成功して、業礎磐石の如く、顧客多數業績逐年に擧がつて、今や店勢順調なる一隆を辿りつゝあるのである。因に氏の取引銀行は、當地信用組合である。

峰越材木店

井關尙雄

明治二十三年生
營業所 東京市江戸川區小松川二ノ四一ノ一
支店 東京市江戸川區東小松川三ノ三五二
電話江戸川二七七番

氏は、德島縣の出身で、勝浦郡大谷村井關林藏氏の長男である、當區東小松川の支店主は氏の令弟である。年少青雲の志を抱いて鄕關を辭し、遠く東都に出でゝ幾曲折。材木業の有利なるに着目し、斯業研鑽に刻苦せる後、大正十二年三月現地に內外材木一般を取扱つて、獨立創業して、宿望を果したのであつた。爾來十有六年の奮鬪は、大震災以來の業界の波瀾を乘切つて、堂々たる店舗を張つて業界一方の重鎭たるに成功した。卽ち、氏は、現に小松川材木商同業組合々長として、當方面業界を統率しつゝあるのである。なほ氏の重厚なる風格は、四隣町內の景慕する所となり、推されて小松川一二町會に役員たる外、公共事業に携つて盡瘁する所鮮少でない。因に氏の取引銀行は、第百銀行龜戸支店である。

永樂材木店

室橋六郎

明治四十年十二月六日生
營業所 東京市江戸川區東小松川二ノ六二八
電話江戸川一〇〇番

氏は、東京市の出身で、江戸川區船堀町室橋良吉氏の六男に生れた。元來、室橋家は、舊幕時代より代々醬油釀造を業とし、關東地方に著名な家柄である。氏は幼少より父君を佐けて家業に精勵したが、長ずるに及んで、材木業の有利なるに着目し、昭和五年、現地に內外材木、竹材、造園材料等を取扱つて店舗を設け、奮鬪努力、不屈不撓の精神を以て、斯業に邁進したのであつた。爾來十年に垂んとして、業礎已に堅く、一般建築業者、諸工場、並に造園業者等を顧客として店員四名を使用し、店勢頗る殷賑なる現況を招來した。氏は年商なほ奉秋に富む。この精神とこの手腕とを以てして、しかも環境發展の途上に在るが故に、その大成は業界齊しく期待する所である。氏資性奉公の念篤く、私財を投じて社會公共の爲に貢獻すること幾度なるを知らず、爲めに、四隣の德望悉く氏に蒐まる。因に氏の取引銀行は、日本興業銀行である。

中善材木店

中塚善

明治四十年生
營業所 東京市江戸川區小岩四ノ一八一〇
電話小岩四一五番

氏は靜岡縣出身にして、夙に材木商を志して上京、本所區菊川町二丁目の小林文之助商店に入り十ケ年餘勤續營業の發展に貢獻する處大なるものあり、店主の信賴も厚く一般業務に精通の後退店、多年の宿望であつた獨立開業の準備も整ひ昭和五年七月現地に中善材木店を創立し、爾來幾多の波瀾曲折を經、刻苦勉勵堅實主義をモットーに得意先の獲得に努められし結果、その信用に拍車をかけ業績年を逐ふて擧がり土地の發展に連れ同店の營業は隆盛となつて遂に現今で同地方一流の材木店と稱されてゐる。しかして同店の主なる取扱品は內外材木、銘木、ベニヤ板等で取引銀行は、第百銀行である。

河名材木店

河名佐吉

明治四十年生
營業所 東京市江戸川區小岩一ノ一二四九
電話小岩五〇三番

氏は千葉縣の出身にして、年少青雲の志を抱いて上京、深川區平野町黑川材木店に入り九ケ年餘に亘る永年間、刻苦勉勵業務の發展に努力、店主の信賴厚かりしが昭和七年退店、現地に獨立河名材木店を創立、爾來幾多の難關を突破し、堅實方針をモットーに敏腕を揮ひ事業の擴張に努められた結果建築業者間の信用頓に加はり商況は年を逐ふて盛況を來し、早くも堅牢なる基礎を樹立するに至り益々得意本位に勇往邁進され氏の前途に多大の期待がかけられてゐる。然して同商店の主なる取扱品は內外木材である。

長谷川材木店

長谷川石松

明治二十五年生
營業所 東京市江戸川區小岩町五ノ二七
電話小岩二六三番

氏は栃木縣鹿沼町の人にして鄕里に於て製材業並に材木商を營み業績を擧げられてゐたが、昭和十三年五月、前經營者平野幸夫氏(創業廿年前)の業務一切を襲承長谷川材木店と改稱活動を開始されたのである。爾來土地の發展に伴ひ材木類の需要頓に激增し氏の營業は益々盛況を呈し殊に多年斯業に經驗を積まれし其の敏腕と實直は建築業者間に絕大なる信用を博し開業幾何ならざるも多數の得意を獲得し着々其の地盤を堅められ前途に多大の期待がかけられてゐる。しかして同商店の取扱品は內外一般木材である。

大鐘竹材店

大鐘和雄

營業所 東京市江戸川區小岩町一丁目

氏は千葉縣の出身にして、夙に千葉縣營林署に奉職木材に關し研究を積み後大崎驛前なる國際通運會社に入り運輸事業に從事せられたが、將來材木商の有望なる點に着眼し、昭和七年現地に大鐘竹材店を創立し、鋭意事業の發展に努められたが同地方の發展に連れ建築界の活況は竹材類の需要頓に激增し氏の敏腕はいよ〳〵發揮されて營業は年を逐ふて盛況を來し遂に今日の如き堅牢なる基礎を築き擧げられるに至つたのである。しかして同商店の取扱品は竹材、丸太、造園材料等である。

安達材木店

安達正太郎

營業所 明治二十三年生
東京市江戸川區小岩三ノ一八八七

氏は宮城縣名取郡岩沼町の出身にして、年少材木商を志して上京、深川區千田町の金才材木店に入り十餘年間、刻苦勉勵、店主を援けて奮鬪努力營業の發展に貢獻する處大なるも

のあり、店主の信頼厚かりしも、多年の宿望たる獨立開店の機運熟し大正十三年退店、現地に安達材木店を開業、爾來幾多の波瀾曲折あつたが土地の發展に連れ建築界の活況から氏の敏腕はいよ〳〵發揮されて建築業者間の信用に拍車をかけ營業は益々盛況を來し遂に今日の如き大をなすに至つたのである。因に氏の令息は本所高辨材本店に於て斯業を習得現今自宅に在りて嚴父を援け營業の發展に努められてゐる。しかして同店の取扱品は内外木材各種である。

竹長 杉浦竹材店

杉浦長左衛門

明治三十七年生
東京市江戸川市小岩町五丁目
電話小岩一七五番
營業所

杉浦氏は同地出身にして、夙に薪炭商を營み相當の業績を擧げて居られたが、土地の發展に連れ建築界の活況から竹、材木商の有望なる點に着眼し、大正十一年本業と共に竹材、丸太、桁根材料等を取扱ふ事とし事業の擴張を圖られたが、上地に馴染の深いのと氏の堅實な商内振りは建築業者間に多大の信用を博し業績年を逐ふて擧がり、現在同地方に於て竹長と云へば誰知らぬ者無き程の成功者と稱されてゐる。

下清材木店

金田兼吉

明治四十三年生
東京市江戸川區上一色八九五
營業所

氏は朝鮮忠淸南道の出身にして、夙に材木商を志して上京龜戸の下淸商店に入り刻苦勉勵、業務に精通し店主の信頼厚かりしも豫ての念願叶ひ昭和十年九月現地に獨立下淸材木店寶場を創立し、爾來その經驗に基き堅實主義をモットーに得意の獲得に努めた結果、氏の敏腕と實直が建築業者間に認められ業績年を逐ふて擧がり早くも確固不動の基礎を築き上げ其の將來に多大の期待がかけられてゐる。然して同店の取扱品は内外木材で、取引銀行は、第百銀行である。

武 高橋材木店

高橋武司

明治四十年生
東京市江戸川區小岩四ノ一五一六
營業所

氏は千葉縣の出身にして、幼にして材木商を志して上京、深川木場丸宇材木店に入り、刻苦勉勵、十三ヶ年の永に亘り克く店主を補佐し營業の發展に努力し店主の信頼極めて厚かりしも多年の宿望たる獨立開店の機運熟し惜しまれて退店、昭和十年現地に高橋材木店を創立し、爾來氏が多年の經驗に基づき堅實主義をモットーに敏腕を揮はれしため建築業者間に多大の信用を博し早くも確固不動の地盤を樹立するが如き盛況を來し其の前途實に洋々たるものがある。しかして同店の取扱品は内外木材各種、取引銀行は、第百銀行である。

小松川四ノ一〇二
電話城東〇四五一番
花澤益次郎

東小松川五ノ七〇二
宮崎保有

同 三ノ三七五六
勝見惣吉

西 小松川一ノ二三八一
鈴田善太郎

逆井二ノ三七六
田島庄太郎

同 二ノ二〇五
關川元助

江戸川五ノ三九
電話葛西〇一二三番
植木新三郎

同 三ノ五四
村吉庄三郎

同 三ノ一九九六
原田多藏

西船堀八〇七
西野亥之助

同 七九五
電話江戸川〇〇六七番
海老原長吉

東船堀八
高貫國次郎

一之江四ノ三八
電話江戸川〇二七四番
宇田川宏

二之江一〇〇五
宇田川治三郎

葛飾區

藤屋材木店

山口倉藏

明治三十七年七月二日生
東京市葛飾區本田四ッ木町大通り
電話本田三一〇番
營業所

氏は、東京市出身で、しかも當區四ッ木二八三の豪農の家に生れた。嚴父仁助氏。氏はその長男である。年少にして實業を志し、長ずるに及んで、四隣郊外の發展目覺しく材木の需要激增の傾向に永久性あるに着目し、材木業者たるべく決意するや、弱冠、淺草區地方今戸町なる藤屋材木店に就き、斯業の修習五ヶ年の後練達通曉の域に達した。玆に於いて昭和二年、現地に内外材木一般の販賣店を設け、多年の念願を果して獨立の第一歩を氏の人生に印したのであつた。爾來十有二年。氏の健腕縱横加ふるに、令閨内助の功績頗る大に、大和鍍金會社、川口護謨工場等大量納入の顧客を獲得し、逐年業績を擧げ、當方面有數の店舗たる現況である。なほ、氏は店務繁忙の傍、澁江町會理事長兼三木坂部長、警防團第一分團副部長等の職にあつて、公共自治のために盡瘁し、町内四隣景仰の的となつて居る。因に、氏の取引銀行は、第百銀行である。

石井材木店

石井新之助

明治十六年九月二十八日生
營業所　東京市葛飾區本田立石一九五

氏は、東京市の出身で、深川區靈岸町石井文治氏の二男に生れ、幼少十三歳の頃より、この業界に投じて、一起一伏四十年に餘る經歷を有する人である。先づ、角松材木店に入つて、斯道修業十有二年に餘つた後、練達の手腕、拔擢せられて木店なる株式會社長島材木店に勤務し、その請負部に在ること二十有六年。その業績枚擧するに暇あらずと雖、芝增上寺造營材料納入の如き前後六ケ年に亘り、總額三十萬圓を算せしが如き、その顯著なる一例である。かくて氏は單に同店の中堅として活躍するのみならず、同店の株主となり、且つ業界一方の重鎭たること多年。昭和七年現地に創業し、不撓不屈、鋭意業礎の强化に、業域の擴張に、鞏鑠として自己の運命を開拓しつゝある。

前川屋長谷川材木店

長谷川宗次

明治三十年十一月二日生
營業所　東京市葛飾區本田町二二

氏は、東京市の出身で、京橋區木挽町一ノ一四長谷川清吉氏の次男である。生家は舊幕以來世々建築を業とし、清吉氏はその十二代に當る由緒ある家柄である。氏は、家業に緣ある材木業を以て身を立つるべく、深川區富岡町なる近忠材木店に入り、具に斯業習練の辛酸を嘗むること十有五年に餘り、練達の手腕を以て稱せらるゝに至つた。そこで現地を卜して店舗を構へ內外材木一般を取扱つて創業し、多年の念願を果したのである。爾來、不撓不屈の精神と、秀拔非凡の手腕を以て獨立不羈の十四年。遂に、業礎を磐石の如く安からしめ、顧客層を各方面に開拓し、その業績の顯著なる、斯界齊しく驚嘆する所である。氏は頗る長者の風格あつて、町民の信賴篤く、現に町會副會長、警防團役員、帝國在鄉軍人會第二分團第一班顧問等の地位に推されて、公共自治の爲、盡瘁する所多大である。

青木材木店

青木柳助

明治三十五年十一月生
營業所　東京市葛飾區本田濱江町四八九
電話本田六七番

氏は、當地の出身で、當區高砂町の豪農青木城助氏の二男である。年少より實業に志したが、弱冠、郊外の發展著しく材木の需要頓に激增の傾向にあるを看取した氏は、玆に材木商たるべく決意し、斯業習得の爲め深川區平野町一ノ一八石澤材木店に就き、僅々二ケ年餘にして業務に練達するの顯跡を示し、且つ偉來の資力を豐富に擁するを以て、大正十四年十一月、本田濱江町一〇三六に獨立創業し、內外材木販賣並に製材に從事した。時に氏二十三歳。爾來、星霜を閱する十四年、俊敏の商才縱橫に發揮する所、忽にして草創の難關を

突破し了し、昭和八年、現地に轉じて更に店勢を張り、現に從業員五名を擁き、當方面有數の店舗として繁榮を示して居る。

材木店

明賀常芳

明治四十四年一月二十九日生
營業所　東京市葛飾區本田立石町三三五

氏は千葉縣の出身で、市原郡高濱村不入に生れた。父君は波五郎氏。氏はその二男である。家は代々農を業としたが、氏は實業を志し、年少上京して新小岩町なる金一材木店に入り、拮据勉勵、職を守つて誠實、業に服して勉勵、よく同輩の模範であつた。かくして、斯業の事大小となく掌を指すが如く朋遊したので、昭和十年五月、現地を卜して店舗を設け內外材木一般を取扱つて開業し、宿望を果して獨立の第一歩を踏んだのであつた。爾來、幾何の年處を經ずと雖、秀拔なる商才商腕は、莽年ならずして基礎を强固ならしむるに成功し、百年製練所其他會社工場を顧客として著々業績を擧げ、當地方第一流店として店勢大に張る現況である。なほ、氏は目下警防團役員として銃後の守りを堅うするに盡力して、四隣町內の信望を蒐めつゝある。

正米谷材木店

米谷正男

明治三十三年一月生
營業所　東京市葛飾區本田立石町二二一

氏は、神奈川縣人で、小田原町の舊家米谷吉平氏の二男である。吉平氏は材木商を營んで居たので、氏も斯業に興味を持ち幼少よく父君を佐けて家運の隆昌に努めたものである。十五歳に及んで、斯業の蘊奧を窮むべく上京し、深川區住吉町なる山田屋材木店に入り、刻苦精勵、職に忠實に、業に勉勉すること十有三年に餘り、悉く業務に精通して業勢甚だ朋遊の域に達したので、昭和四年、現地を卜して一店を構へ內外材本一般を取扱つて營業を開始した。爾來十年の星霜を經て、氏の非凡なる手腕は、よく難局を克服して、其礎の强化顧客の獲得に成功し、店勢極めて順調なる現況である。氏は資性篤實にして溫順、よく衆望の歸する所となり、推されて或は警防團第二分團副部長、或は町會役員として、公共自治のため盡力多大なるものがある。

內外材木一般
島根材木店
島根甚之助
葛飾區下平井町二一三三
電話本田〇四二六番
下千葉町七一　富塚義男

八王子市

小池材木店

小池勘吉

明治二十六年生
營業所 八王子市萬町七
電話八王子一〇二四番

氏は神奈川縣小机村農家小池家の長男として誕生、十六歳の時より八王子市追分町長田製材所に入り修業し、大正八年現在の所に獨立創業し、今日に至つてゐる。現在は一般建築材及製材一般を取扱ひ、製品の販路は主として深川木場市場又は近在の實需筋で、從業員七名を擁してゐる。取引銀行は三十六銀行である。因みに氏は八王子材木商組合の副組合長に選任せられ、更に町會の役員も兼ねてゐる。

中村材材所

中村勝三郎

明治十六年生
營業所 八王子市子安町一四九
電話八王子二八七番

氏は東京府南多摩郡恩方村の農家中村家の次男に生まれ、二十五歳の時郷里の某材木店に入り斯業を修行してゐたが、昭和六年八王子市に出で、現在の所に一般製材業として獨立創業した。爾來發展して現在工場は、十馬力のモーターを使用し從業員七名を擁して製品は深川木場市場並に近在に販賣してゐる。取引銀行は、第百銀行支店である。尙地元より氏の實直さを認められて町會の會計を勤めてゐる。

合資會社 青木商會

代表者 青木貞藏

明治三十四年生
營業所 八王子市元横山町四一
電話八王子六二七番

氏は東京府南多摩郡恩方村の山林業兼機業家の青木家の長男として誕生、八王子高等小學校卒業後生家に於いて山林業を習得したが、製材業の有望なるに着目して、大正二年現地に建築材製材を以つて合資會社青木商會を興した、爾來逐日發展製品は東京木場市場及近在に販賣、從業員十二名の多數あり、八王子市内同業者の中の巨頭として君臨するに至つた取引銀行は第百銀行八王子支店である。尙氏は町會役員を勤めてゐる。

木崎材木店

木崎玉吉

明治十五年生
營業所 八王子市横山町一二六
電話八王子五一六番

當店は當主嚴父たる先代喜三郎氏が創業したので、玉吉氏三十歳の折、明治四十四年に嚴父より業務一切を引繼ぎ、現在では從業員三名を驅使して深川木場並に近在より建築材一

般を仕入れ販賣してゐる。氏は同業者間に於いて特に信望厚く、過去八ケ年間八王子材木商同業組合組合長を勤續したる事あり現に同組合顧問の要職にあり、兼ねて地元よりは、氏子總代、神社總代として親しまれてゐる。尙取引銀行は、第百銀行支店並に三十六銀行本店である。

久保田材木店

久保田常七

明治二十六年生
營業所 八王子市寺本町一一
電話八王子九九一番

氏は東京府南多摩郡下恩方村の農家加藤家の次男に生まれ現役兵として軍務除隊後同市元横山町青木材木店に入り修行したが、二十六歳の時、先代久保田氏に認められて養子となり、久保田材木店を直ちに繼承して今日に至つたものである現在は從業員二名あり、深川木場及近在より建築材を仕入販賣してゐる。昭和十四年度より八王子材木商組合組合長に推され町會役員も勤めてゐる。取引銀行は三十六銀行である。

阿部材木店

阿部勇吉

明治二十一年生
營業所 八王子市寺町一六
電話八王子七五〇番

氏は八王子の農家に生まれたが、幼きより生糸貿易商を志し小學校卒業後、横濱に赴き生糸貿易商見習として五ケ年間努力し、この間横濱商業學校夜間部を卒業したが遠く父母の膝下を離れる事は不幸なりとして希望を變更し父母の側に歸り、其の膝下に於いて二ケ年間斯業研究して材木商を創めたのが、明治四十三年爾來隆盛に次ぐに隆盛を以つてし、昭和十一年には新式機械帶鋸二臺を新設二十五馬力に擴張し、以つて一般建築材を取扱ひ、兼ねて山林業、製材業をも營み製品の殆とは深川木場市場へ放出してゐる。從業員は工場も含んで合計十二名、第百銀行支店と取引がある。尙氏は過去五ケ年間八王子材木商組合組合長たり、現に町會長、商工會議所議員であると共に夫人も方面委員として活躍中である。

大横町九一　關一郎
元本郷町二四〇　杉原德次郎
同　四六　小山吉三郎
追分町二　長田實
八木町四八　關大助
臺町三〇　奥住利茂

八幡町五六　中村仙三郎　本町一〇八　吉川金三郎
小門町九四　同　一三　白井太一
同　七九　關源一　南新町二二　長田榮次
天神町一一　小川甚三郎　子安町　廣田茂助
寺町五一　古河靖次　元本郷町　西山菊次郎
三崎町一二　川瀬輪三　明神町　中村清三郎
明神町八五　濱中儀作　平岡町六三　加藤武夫
市外小宮町大和田八五六　加藤朝治　市外元八王子村諏訪宿　青木邑太郎
同　八三三　小林常三郎
明神町五八　田中次郎
元横山町三五七　遠藤彌喜　岩崎忠次

北、西多摩郡

石黒材木店

石黒善次郎

明治三十五年三月二十八日生
營業所　東京府北多摩郡調布町下石原四九九
電話調布二三一番

當主は東京市本郷區坂下町七六に於いて建築請負業石黒千太郎氏長男として生まれ、東京高等工業學校建築科卒業後直ちに清水組に入社し、五ヶ年餘り實地の體驗を重ね昭和六年嚴父と共に獨立を計畫して昭和十四年五月現地に創業した、當店は材木部製材部建築請負部土木部と業務を分擔してゐるが、主として一般土木建築大工工事（修繕一般）を以つてし附帶事業として材木を取扱ひ、以て最近は材木方面でも一大飛躍せんと計畫中である、當地方は近年漸く諸會社工場の新設多く將來の發展地として好望され、將來は天下の清水組の如く石黒組として君臨せんとの壮大の計畫を抱いてゐる。

宍戸材木店

宍戸守藏

明治二十三年生
營業所　東京府北多摩郡武藏野町境五四五
電話境五二番

氏は東京府出身で、北多摩郡三鷹村字野崎に生れた人である。立川なる府立第二中學校を優秀なる成績を以て卒業した後、材木業を志し、斯業の實地を習得すべく、上京して幾年の曲折を經、斯道の蘊奥を極め機微に通じ、地を現在の場所に卜して内外材木一般販賣並に製材業を獨立經營した。時に大正五六年の交である。爾來、星霜二十幾年を閲して、遂に當方面一流の店舗として、業界一方の覇を稱するに至つた。なほ長男源一郎氏明星中學校を卒業して、父君を援けて家業にいそしみつゝある。守藏氏責性篤實、頗る四隣の信頼を得推されて武藏野消防組第八部長として、町内の安寧に盡しつゝある。因に氏の取引は、金原銀行である。

京松材木店

松下一郎

明治四十年一月一日生
營業所　東京府北多摩郡武藏野町境八九五

氏は東京市京橋區入船町三ノ四の材木商、京橋區會議員として東京材木商同業組合相談役として令名ある松下淺次郎の長男である。第一商業學校第一期生として同校卒業後、更に木場の陵保材木店に入り、薪水の勞を厭はず斯業實地の鍛練を試むる事十年に餘つた。かくて昭和十三年八月、現地を卜して獨立したのであるが、氏は時に而立を越ゆる一歳。業界名家の出として異常に永き試練時代であつたが、「余は天災に病難に三度死線を彷徨したが、三度共天恩あつて克服した幸運兒である」と天龍の篤きを謝する氏の言に從して、氏が如何に敬虔な心の持主であるかゞ窺はれる。されば氏の經營

方針はよくその性格を反映して着實の一語に盡きるが故に、草創日尚ほ淺きに拘らず、顧客の信用頗る厚く、加ふるに嚴父の顧客層を分ち得て業績を擧げ、氏の前途の洋々たるを物語つて居る。因に氏の取引銀行は金原銀行である。

利 高橋材木店

高橋利八

明治三十四年五月十一日生
營業所 東京府北多摩郡武藏野町境二五六

氏は當地の舊農高橋兵次郎氏の長男である。關前高等小學校を優等卒業の後、家業にいそしんだが、篤學の氏は農業實業學校講義錄を繙き、且つ、境青年會夜學に通ふこと實に五ケ年、大正十年十一月結婚するや、氏の多角的活動の幕は切つて落された。先づ草箒製造を副業として遙く關西に捌く。同十四年三月多摩鐵道の煤煙に因して類燒の不幸を見るや、猛然として立上つた氏の奮鬪はよく家運を挽回した。昭和三年には高橋友吉氏と共同で自動車運輸業を創める。業績大に擧つたが同七年嚴父不慮の死に會し、心氣一轉、該業を高橋氏に讓り、自らは同年二月十一日の佳節をトし材木業を創めた爾來日尚ほ淺きに拘らず、氏の活腕よく當方面一流の店舗たらしめ、店員三名を使用して、業界に重きをなして居る。誠に往く處として可ならざるなき氏の才能を讃えずには居られない。氏の活動的精神の浸潤する所四隣悉く氏を敬慕して止まない。されば氏は現に推されて武藏野町の都市計畫委員であり、道路委員であり、銃後後援會聯絡員であり、消防組第十部會計であり、境第二小學校保護者會評議員である。因に氏の取引銀行は金原銀行である。

松 丸松材木店

菅谷松之助

明治四十一年五月五日生
營業業 東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺一九三八

氏は東京市出身で、菅谷安吉氏の六男。深川區清澄町がその出生地である。年少十二歲の折、深川區木場の仲昇材木店に入り、具に斯業習得の辛酸を嘗むること十六年に餘つた。かくて、業務を會得し業界に通じたので、獨立を企て、現地の他日必ず發展すべきを確信し、店舗を開いて、內外各種材木一般販賣を開始した。昭和十一年、氏二十八歲の春四月である。爾來、氏は鋭意事業に精勵して、夙夜懈らざりし効あつて開業日尚ほ淺きに拘らず、業績日に擧り、加ふるに氏の確信せる如く、當地の發展著しく工場住宅の建築激增の活況に乘じ、堅實にしてしかも機敏なる業域の擴張を行ひ、遂に牢乎たる業礎を築いた。春秋に富める氏の今後の活躍こそ、刮目に價するであらう。因に氏の取引銀行は金原銀行である

大 大澤商店

大澤善五郎

明治二十七年八月二十五日生
營業所 東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺駅前
電話吉祥寺一〇二九番

氏は東京府出身で、西多摩郡古里村字白丸に生れた。大澤清三郎氏の二男である。高等小學校を出づるや、實業を以て身を立てんとし、幾曲折の後材木商を選び、十八歲の時上京して深川區木場なる阪東材木店に入り、忠實精勵店主の信賴と、同輩の敬慕を一身に蒙るに至つた。かくて十有二年の後業務に精通し得たので、地を現地に相し、材木問屋を自營したのであつた。時に大正十三年氏而立の春である。爾來、或は帝都復興の氣運に伴ふ近郊の發夙に乘じ、或は財界は不況に隨ふ業界一般の不振に影響せられ、一起一伏の十有五星霜を通じ、積極奮鬪の精神は、よく百難を克服して、遂に今日の大を致し、店員四名を置いて、更に增員增築、業域の擴張を餘儀なくせられつゝある好況である。因に金原銀行吉祥寺支店が、氏の取引銀行である。

關 關田材木店

關田守時

明治二十四年八月十五日生
營業所 東京府北多摩郡府中町一四五二
電話府中五五番
支店 東京府北多摩郡小金井町

氏は當地の出身者である。年少にして材木業を志し、上京して深川區木場井忠材木店に入り、永年に亘つて斯道の習練を積み、業務に精通して、大正九年、年十九の折、世田谷區笹塚に獨立開業し、活躍目覺しきものあつて、業界に著聞した後、現地の有望なるに着目し、移轉倍蓰の奮鬪努力、よく困難を克服し去つて今日の業礎を築き、現に小金井に支店を設け得るの成功を贏得たのであつた。氏は資性重厚甚だ衆の推す所となり、町會役員、並に番場家庭防火團第九群長として、公共の爲に盡しつゝある。因に氏の取引銀行は、安田銀行新宿支店、東京中野銀行である。

內 內藤材木店

內藤藤造

明治三十一年八月十日生
營業所 東京府北多摩郡府中町五六六〇

氏は東京府の出身である。北多摩郡西府村字本宿に生れた人。現在は府立であるが當時の郡立府中農產學校第三期卒業生。元來、實業を志し、材木業に興味を有した氏は、學校を優秀の成績で出た後、實地に就いて斯業習練の必要を感じ、國分寺なる舊屋材木店に入つて、精勵業に服するの一方、夙夜斯業の研鑽を怠らず、業務に精通して、待望の獨立營業の機を窺ふ中、大震災後の復興景況凄じく帝都近郊異常の膨脹を招來し材木の需要激增の形勢に着眼し、勇躍故山に歸つて現地に內外各種材木、竹材、建具材を取扱つて自營の旗幟を翻したのであつた。爾來、學理的頭腦と實際的手腕と兩々相俟つて、業礎を築き業績を擧げ、以て今日に及び、業界に獨自の地歩を占むるのみならず、資性の然らしむる所、德望四隣に過ぎ有樣である。因に氏の取引銀行は東京中野銀行である。

田 田中材木店

田中　和重

明治十五年九月四日生
營業所　東京府北多摩郡府中町新宿
電話府中七八番

氏は東京府の出身で、北多摩郡小金井村字貫井新田に生れた。年少にして幾多人生の曲折を經たる後、材木業の有利なるに着目し、斯業を以て處世の大道となすべく習練を志し、國分寺なる茜屋材木店に勤むること二年餘にして、俊敏なる氏は業界の亘細に通じ得た。そこで、現地に一店を相し、內外材木、竹材、丸太類、造園材料等を取扱つて、待望の獨立を完行したのであつた。時に明治四十年。爾來、奮鬪努力、家業に孜々として夙夜懈らざりし効あつて、楯風沐雨星霜三十餘年を閱せる今日、當地方の一流店として業內に覇を稱するの成功を見た。即ち現に店員三名を置いて、店勢頗る隆昌である。

九 桑田材木店

桑田　信太郎

明治二十五年九月二十五日生
營業所　東京府北多摩郡府中町本町九二〇
氏は當地芝間の出身者である。年少にして實業を以て立つるべく決意し、材木商の有利なるを知つて、斯道修業の爲、國分寺に出で、茜屋材木店に投じて、精勵黽勉、忠實業に服すること多年。その精通を以て自他共相許すの境地に達するや。大正六年、現地に復歸し、內外材木の販賣を取扱つて、待望の獨立を敢行した。時に氏二十五歳。爾來、氣鋭進取の方針を堅持して、活躍又活躍、更に、昭和七年、製材一般を兼營して顧客大方の需要に應ずるの俊敏を示し、逐日業礎を堅め、遂年業績を擧げ、以て今日の盛大を致した。誠に年を閱して二十年を超ゆるの老舗、日に日に維れ新なる店勢を張つて、業界一方の覇を稱して居る。

Ⓢ 茜屋材木店

島田　運平

明治十二年生
營業所　東京府北多摩郡國分寺殿谷三三四
電話國分寺三四番

氏は當地の出身で、島田藤吉氏の二男として生れた。早く東都に遊學して、正則中學校を卒業した後、材木商を志し、故山に歸つて、斯業を草創した。時に明治三十三年。氏二十一歳の折である。爾來、星霜を閱する四十年。氏の慧敏なる頭腦と考練なる手腕は、よく確固不拔の精神と相俟つて、逐年業績を擧げ、今や、中央沿線第一流の店舗として大成し、業界の重鎭斯界の王座を占めて居る。誠に氏の懇篤適切なる指導下に幾年を過せる店員の獨立せるもの遙近に遍く、近郊の成功せる業者の多くは氏の薫化に接せる者なるを見ても、氏の隱然たる勢力の一班を察すべきであらう。氏はその繁忙の傍、公共自治の爲に盡瘁する多大、一々列擧するの煩に堪えざる程であつて、敢て省筆する所以である。

蔦 合資會社 小林商店

代表社員　小林福藏

明治十四年一月二日生
營業所　東京府北多摩郡國分寺本多新田札ノ丘四五一
電話國分寺三五番

氏は東京府下の出身で、北多摩郡多摩村字押立に生れた。大正元年以來、材木業を經營し來つた氏であつて、店は三十年に垂んとする斯界の老舗であるが、昭和五年六月十五日、組織を合資會社に改め、面目を一新して、業界に躍進した。氏は、資性篤實にして重厚、その營業方針、甚だ氏の性格を反映して堅實に終始し、しかも、老練なる手腕と、熾烈なる事業熱は、業礎を愈々堅からしめ、業益を益々廣からしめ、以て、逐年業績を擧げ得て今日に及んで居る。誠に老舗と雖日に維れ新なる業勢を張り、曩鑁壯者を凌いで全店を指導し以て更に大成に邁進するの氣魄、見る者をして肅然として襟を正さしむる者がある。

清水商店

清水　爲吉

明治三十年九月四日生
營業所　東京府北多摩郡國分寺
電話國分寺七四番

氏は東京府の出身で、北多摩郡小金井町下山谷の生れである。家業は竹材商だつたので、この雰圍氣中に生育した氏は幼少より斯業に親昵し、頗る業務に練達するを得た。大正十二年現地に獨立開業するに及び、竹材の外、丸太、薪炭より和洋家具類を取扱ひ、活腕よく東京府指定商の地位を獲得せるのみならず、販路を九州より遠く鮮、滿、中北支方面に進出擴張し、以て、當方面第一流業者として、大に店勢を張つて今日に及んで居る。現に店員四名。なほ、篤實なる氏に對して、町內四隣の信頼甚だ厚く、現に國分寺村會議員に推されて、地方自治に盡瘁する所鮮少でない。因に、氏の取引銀行は、東京中野銀行である。

下 半澤材木店

半澤　寅次

明治十三年生
營業所　東京府北多摩郡保谷村松ノ木三八八
電話保谷一五番

氏は當地の出身である。少壯幾多の迂餘曲折を經た後、材木商の有利なるに着目し、斯業の研鑽習得に專念すること幾年。遂に業務の亘細に通じ、業界の大勢を明にし得たので、大正四年當地に內外材木各種、丸太、竹材を取扱つて、斯業を開始した。時に氏而立を越へて五歳。爾來老練の手腕を振つて、一起一伏の世路を邁進し、不撓不屈、今日の業礎を築き得たのである。現在、氏の長男幸一氏の、精勵家業を援くるあつて、氏の曩鑁たる指導下に、益々業績を擧げつゝあるなほ幸一氏は、保谷村消防組小頭の地位にあつて、家業繁忙の傍、村內の安寧に盡瘁する所鮮少でない。

亮 新倉製材所

新倉亮一

明治三十五年十月二十日生
營業所 東京府北多摩郡保谷村保谷一〇九六

氏は東京府出身で、北多摩郡田無村に生れた。家業は製材業であつた爲、幼少より、斯道の雰圍氣中に生育し、斯界の事情に親昵して、頗る業務に通曉する所があつた。かくて昭和二年、氏二十五歳の折、現在の地をトして、工場を設け、製材に從事した。取扱ふ所は、製材一般、並に造船材一式である。爾來、櫛風沐雨星霜を閲する十幾年。主として造船材業者並に一般建築業者を顧客として奮鬪努力、よく今日の業礎を築き、逐次業績を顯著ならしめて、現在に及んで居る。しかして、昨今、當方面に工場建築の著しきに乘じて、氏は顧客層の開拓に活躍しつゝあれば、その大成は業界の齊しく期して俟つ所である。因に氏の取引銀行は、武陽銀行田無支店である。

野口材木店

野口一郎

明治二十一年生
營業所 東京府北多摩郡保谷村上保谷九四

氏は當地の出身者である。年少にして材木商を志し、明治四十年、獨立して現地に内外各種材木、建築材を取扱つて創業した。爾來、氏の奮鬪的精神と、これに伴ふ積極的手腕はよく草創一般の荊棘を開拓し得て、坦々たる大道に就くを得て鼓に春風秋雨三十年。遂に大成するを得て、業礎の堅き、業域の廣き、業績の顯著なる、當方面業界に嶄然として頭角を抜んずるに至つた。しかして、氏は當地の舊家にして故老四隣の信望頗る篤きものあつて、村會議員に當選すること一再にして止まらず、現に其の職にあつて、繁劇の傍、地方自治の爲に盡瘁して倦む所を知らない。誠に人徳掬すべきである。

秀 高橋材木店

高橋秀治

明治三十五年四月十二日生
營業所 東京府北多摩郡多磨墓地正門前

氏は東京府出身者で、北多摩郡小金井村字貫井新田に生れた。年少幾多の曲折あつて、材木商を志し、府中に出でゝ、伯父君の經營せる田中材木店に入り、斯業の習練を積むこと多年。遂に業務に精通し得て、昭和六年現地をトして店舗を設け、内外材木各種、丸太、竹材を取扱つて、獨立自營、以て多年の宿願を果した。氏二十九歳の折である。爾來、一般建築業者を主とする顧客層を開拓し、逐年業績を擧げ、以て今日の業礎を築いた。しかして、昭和十二年、製材を兼營して顧客一般の便宜を計りつゝある。商才縱横の氏は、活腕を振つてその大成に到達するは、近き將來に期するを得べしと業界の齊しく刮目する所である。

田 田村材木店

田村芳政

明治三十五年五月十五日生
營業所 東京府北多摩郡小金井町一四一七

氏は三重縣出身者である。即ち、同年宇治山田市に生れた小學校卒業後、遠く父母の膝下を離れ、上京して深川[illegible]木場の大俊材木店に入り、斯業に依つて身を立つるべく、業務の習得を志し、精勵眼勉、夙夜懈らず業に服した効あつて、十有一年の後、業務に練達し、業界の巨細に通曉し得たので、氏は初一念を貫徹すべく、大正十五年、地を現地にトして、店舗を設け、内外各種材木を取扱つて、獨立自營を開始した時に氏二十四歳の五月である。爾來、櫛風沐雨十五年に垂んとして、氏の奮鬪努力は、よく業礎を磐石の堅きに置き、業域を廣め、業績を擧げ、以て今日に及んで居る。氏の活腕は當方面將來の發展と相俟つて甚深の成功を收むるであらう事は、業界の齊しく認むる所である。

キ 桐ヶ谷賣場 川上材木店

川上茂雄

明治四十二年九月八日生
營業所 東京府北多摩郡立川町二七六六

氏は當地の出身である。嚴父幸次郎氏は、前立川町々會議員として町政の爲に盡瘁して令名のあつた人であるが、斯子慧敏資性商に適するを看破した嚴父は、茂雄氏の小學校卒業するや、年少十四歳の身を、逗子町桐谷材木店に送つて、斯道の修業に專念せしめたのであつた。爾來、嚴父の意を體して、汲々として斯業の研鑽を懈らざること十有三年の長期に亘り、神奈川縣材木商組合聯合會よりその精勤模範を表彰され、記念品を贈らるゝに至つた。かくて、斯道に通曉し斯界の機微に明達したので、故山に歸つて待望の獨立經營を創めたのであつた。時に昭和十一年、氏二十七歳の春四月しかして、なほ草創の時代に屬すと雖、よく各種の困難を克服して業礎の强固を致し、前途の洋々、期して俟つべき現況である。因に氏の取引銀行は三十六銀行、信用組合等である。

成木屋材木店

青木孫三郎

明治二十九年一月十六日生
營業所 東京府北多摩郡立川町二八三六

氏は埼玉縣人である。同縣入間郡厚市場がその生地である。年少より、親戚なる入間川の成木屋材木店に投じ、夙夜懈らずして斯道の修業に專念すること、實に前後二十餘年爲に同地の同業組合より精勤模範を稱して表彰狀並に記念品を贈らるゝ等の事があつた。かくて、斯道の蘊奥を極め、斯界の機微を明にしたので、進んで現地をトし、待望の獨立自營に着手したのであつた。時に昭和三年。氏三十二歳の時である。爾來、春風秋雨十星霜、奮鬪努力の信念に燃えた氏の活躍は遂に、今日の業礎を築き、現に店員三名を置いて、店勢旺ん振ふ現況である。氏は資性醇厚、頗る衆の推す所となり、曾

つて立川消防組小頭として、現に同四部會計、立川第二小學校保護者會幹事等を勤めて、公共の爲、盡す所鮮少でない。

久保島材木店

久保島清吉

明治二十七年二月十七日生
營業所　東京府北多摩郡立川町三二一七

氏は東京府出身者である。即ち、府下西多摩郡小宮村字養澤に生れた。年少にして人生幾多の曲折を經た後、材木商の有利を知つて斯業の習得を欲し、具に辛酸を嘗めて、斯道を研鑽すること玆に年あつて、遂に業務に精しく業勢に明となつたので、大正十一年現地を卜して材木各種、丸太材等の獨立經營を開始した。時に氏二十八歳。待望の材木商たるの喜悅を滿喫したのであつた。爾來、櫛風沐雨星霜を閲する十幾年、氏の活腕と氏の積極的精神は、遂に今日の業礎を築き、今日の業績を擧げ得たのであつた。氏の篤實にして重厚、頗る人望あつて、四隣の信賴を受け、現に立川消防組第九部小頭に推されて、町民の安寧の爲盡しつゝある。因に氏の取引銀行は、信用組合である。

野末商店

野末宗平

明治十七年七月十八日生
營業所　東京府北多摩郡立川町和泉町二ノ二七六六
電話立川四三三番

氏は愛知縣人である。同縣寶飯郡御油町に生れた。夙に上京して、神田區蠟燭町に、永く木工業を經營して居つたが、大震災に遭遇して影響を蒙る處甚大。乃ち大正十三年現地に轉住し、現業を開始して、引續き和洋家具、室內裝飾等の製造販賣等に從事した。爾來、着々業礎を確固たらしめ、業績を顯著ならしめ、殊に官廳方面に顧客層を開拓し、現に東京府指定御用商として、當地業界の一流たる地歩を確保して、今日に及んで居る。氏の頗る圓熟せる風格は、町內四隣の信賴する所となり、推されて和泉町組長の外、銃後後援會聯絡員、國民貯金奬勵會委員、立川第一小學校兒童教育會幹事、立川第二小學校保護者會理事等となり、公共自治、銃後安寧の爲、盡瘁しつゝある。

鈴木材木店

鈴木金作

明治三十四年九月十六日生
營業所　東京府北多摩郡立川町三二一一
電話立川一五七番

氏は埼玉縣の出身である。即ち同縣比企郡明覺村字大附五八に呱々の聲を擧げた人。年少にして實業を志し、材木商の有利多望に着目し、幾多の曲折を經たる後、業務を習得して大正十一年、現地の發展日に著しきに着目し、店舗を設けて材木、建具、家具等を取扱つて、獨立自營の第一歩を氏の人生に印したのであつた。時に、氏二十一歳。爾來、十有七年の星霜を閲せる今日、氏の奮闘的精神と積極的手腕は、官署

御用の地位を獲得し、當地方一流の店舗として、從業員五名を置き、店勢大に張るの現況を招來し、業界の一方に覇を稱しつゝある。因に氏の取引銀行は三十六銀行武陽銀行である

製材業
松本製材所
東京府北多摩郡吉祥寺
電話吉祥寺六五九番

福吉屋材木店

青木杉太郎

明治二十六年五月五日生
營業所　東京府北多摩郡立川町二四九七
電話立川二四三番

氏は東京府の出身で、西多摩郡氷川村字日向に生れた人である。幾多曲折の後、材木業の有利なるに着目し、斯道修業の爲、三田村の小澤製材所に入つて、忠實業に服すること多年。業務練達して獨立の機會を覗ふ內、大正十三年、帝都復興の活況裡に近郊の材木需要激增の傾向に着眼し、當地に材木販賣店並に製材工場を開いて、待望の自營に着手した。氏三十三歳の時である。爾來、業界稀に見る俊敏の手腕を振つて、當方面一流の店舗たるの地位を確保した。しかも支配人

鶴島喜重氏よく氏の股肱となつて、從々業績を擧げつゝある氏は資性仁俠にして至誠、四隣町民の敬慕の的であり、且つ現に立川材木組合副組合長として業界の爲に盡瘁しつゝある因に氏の取引銀行は武陽銀行、三十六銀行である。

馬場材木店

馬場操

明治三十九年十一月三日生
營業所　東京府北多摩郡立川町三〇八七
電話立川二七三番

氏は埼玉縣人である。即ち、同縣入間郡所澤町に生れた。年少十三歳にして同町木橋材木店に勤むるや、斯業に練達して以て獨立する所あらんと志し、精勵黽勉、薪水の勞を厭はず、偏に業務習得を念としたのであつた。かくすること十有一年に餘り、斯界に通曉して且つ俊敏の手腕を稱せらるゝに至つた氏は、年來の宿望を果すべく、現地に進出して店舗を設け、內外各種材木の販賣並に一般の製材を行つて獨立自營した。時に昭和五年。氏二十四歳。爾來、縱橫の敏腕を振つて活躍業界驚異の的となる。即ち、陸軍關係諸會社工場方面に顧客層を開拓して、店勢の躍進を見、星霜十年の今日、店員六名、工場員拾數名を使用して、當方面第一流の店勢を張ると共に、業界の覇を稱して、立川材木商組合長を勤むるの現況である。しかも氏の年齒而立を超ゆる幾何もなくして、この成功を致せる、誠に業界稀に見る俊秀を以て稱せらるゝ所以であつて、將來一層の大成、期して俟つべき者があらう

㋕ 柿沼材木店

柿沼民治郎

明治三十四年十二月八日生
營業所　東京府北多摩郡三鷹村下連雀三七

氏は茨城縣出身者で、同縣猿島郡新郷村字新久田に生れた年少幾多の曲折を經て、弱冠材木商たるべく志し、上京して深川區東町の田木傳材木店に入り、十有一年の永きに亘つて斯道の習練、斯業の研鑽にこれつとめて、遂にその蘊奥を極め、機微を明し得た。かくて、初一念を貫くべく、現地の將來有望なるに着目し、店舗を設けて內外材木一般を取扱ひ、獨立自營を開始した。時に昭和七年。氏三十二歳の折である爾來、奮鬪努力積極進取、顧客層を開拓し、業績を擧げ、業礎漸く堅くして、草創一般の難關を見事突破し得たる今日、北支事變の勃發するあつて、應募、勇躍出征の途に就いたのであつた。氏の大成は、今後に刮目して俟つべきであらう。

㋖ 黒田屋材木店

小島龜松

明治三十八年二月十三日生
營業所　東京府北多摩郡三鷹村下連雀三〇七

氏は東京市出身である。本所區東兩國がその生地である。年少にして、京橋區なる黒瀨材木店に入つて、忠實命に服し精勵業に努めて永年に亘つた結果、業務の亘細に練達し、業界の蘊奥を極め得たので、玆に獨立を念とし、現地の有望なるに着目し、內外各種材木を取扱つて、自營開業した。時に昭和七年、氏二十七歳の折である。爾來、櫛風沐雨の幾星霜奮鬪努力に終始せる氏の活躍は、着々顧客を獲得して、逐年業績を擧げ、業礎を磐石の堅きに築いて今日に及び、特に當地方昨今の異常なる發展に乘じ、活腕更に縱橫、層一層の成功を致して店勢大に張るの現況である。誠に、氏の前途、正に洋々と謂ふべきであらう。

㋗ 荒井製材所

荒井音吉

明治三十七年八月二日生
營業所　東京府北多摩郡狛江村和泉字鶴巻
電話祐五七五番

氏は當地の出身である。夙に材木業の有利に着目して居たが、大正十二年大震災直後、帝都恢弘の氣運澎湃として郊外を涵すや、機敏なる氏はこのチャンスを捉へて敢然として材木商を開始した。大正十三年である。これと前後して、實弟傳吉氏、國分寺の酒屋材木店を辭し、七年の間斯業を研鑽せる練達の手腕を以て、來り投じて音吉氏を援くるあつて、着々業績を擧ぐるに成功した。昭和七年の頃より氏は更に製材所を設けて製材一般に從事するの外、野菜果實用の製函を開始して附近一帶の需要に應ずる等、縱橫の活躍振りである。現に、氏は實弟松太郎氏、傳吉氏、並に從業員三名と共に、夙夜店務の管掌に一寸の間暇なき有樣である。氏の事業に對する熱情と、二弟の賢明なる扶翼あつて、當店の將來こそ文字通りに、洋々と云ふべきであらう。

㋓ 加藤材木店

加藤秀治

大正二年十月三十一日生
營業所　東京府北多摩郡下調布町布田小島分一八七

氏は當地の出身者である。元來が材木商であつて、明治四十年、氏の祖父加藤彌太郎氏の創業に係り、三十餘年の老舗として業界に聲聞する。氏はこの環境裡に生育して、幼少より斯業に親昵して、習はずして熟し、學ばずして達し年少既に斯業練達を以て稱された。長ずるに及んでその箕裘を繼ぐや、精勵黽勉、夙夜懈らずして、家業に忠なりし効あつて、既に牢乎たる業礎を更に牢乎たらしめ、既に顯著なる業績を更に顯著ならしめたのみならず、堅實にして誠直なるを以て營業方針とし、以て四隣の顧客の信賴を獲得し、以て今日の盛況を見るに至つた。氏は年齒なほ而立に充たず。しかも、既にこの坦々たる大道に就くを得た以上、その大成は將來に期して俟つべきであらう。

㋔ 調布製材所

島田彦太郎

明治七年九月二十七日生
營業所　東京府北多摩郡調布町下布田四九
電話調布二四番

氏は當地の出身者である。家業は元來乾物商であり、店員五名を置いて繁盛を極めて居る。しかるに、商機に敏なる氏は大正十三年、帝都復興の氣運澎湃として近郷を涵せる氣運に乘じ、兼ねて有利と信じて着目措かざりし製材業を、家業の傍開始したのであつた。而して、方針甚だ宜しきを得て、着々業績を擧げ、特に工場主任とし、老練才丸寅吉氏を迎へて、商勢當方面業界稀に見る活況を呈し、一流製材所としての地位を確保して今日に及んで居る。現に從業員七名。氏は舊家の出にして且つ重厚の風格、頗る德望があり。今日迄幾多公共の爲に盡瘁する所あつて、愈々四隣の敬慕する所となつて居る。因に氏の取引銀行は、武陽銀行である。

金子製材所

金子鶴吉

明治四十二年十一月二十八日生
營業所　東京府北多摩郡調布町下布田八三八四

氏は當地の出身である。夙に製材業の有望なるに着目し、斯道に立身處世の道を見出すべく、調布製材所に入つて、實地に就いて業道習練幾年の後、斯道練達の自信を得た。かくて、氏は昭和十三年九月一日、現地に獨立して工場を設け、製材一般に從事したのであつた。時に氏二十九歳。爾來、開業日尙ほ淺きに拘らず、老練よく顧客層を獲得し、逐次業績を擧げて、草創の難關を突破するに成功し、遂に業礎を磐石の堅きに置いて今日に及んで居る。氏年齒漸く而立を超ゆる二歳に過ぎず。しかも、老練斯の如き手腕と、熾烈斯の如き

熱情を有する氏の、よく荊棘を開拓して坦々たる成功の大道を邁進する日の、近き將來に期し得て俟つべきであらう。

㊫ 森田材木店

森田竹太郎

營業所　明治二十五年八月二十五日生
東京府北多摩郡調布町上石原四一
電話調布二二六番

氏は當地の出身者である。年少より實業を以て身を立てんと欲し、幾多の曲折を經て、材木業を選び、具に斯道習業の辛酸を嘗めた後、業務に通曉するを得て、當地に、當業を開始した。時に大正十四年、氏三十三歳の折である。爾來、氏の堅實に徹底せる營業方針と、老練圓滑なる手腕とは、よく草創一般の苦難を打開し得て、日に顧客層を廣め、月に業礎を堅くし、以て奉風秋雨十有五年の星霜を閲せる今日、當地の顯著なる發展と相俟ち、業績甚だ擧つて、盛大なる店勢を張るに成功し、店員三名を擁くの現況である。因に氏の取引銀行は、武陽銀行である。

㊨ 福生製材所

岸德次郎

明治二十年六月二十九日生
營業所　東京府西多摩郡福生村長澤一〇五
電話福生七十四番

氏は東京府下西多摩郡多西村字草花の出身である。大正十年氏三十四歳の折、製材業を現地に創めた、營業種目は、內外各種材木製材、製箱、賃挽等である。而して、大震災直後の帝都復興の氣運に乘じ業礎の堅きを致してより、逐年業績を擧げて今日に至り、現に從業員數名を使用し、店勢極めて盛大である。なほ氏は、地方自治の熱心なる盡力家で、繁忙の傍、村會議員に當選すること二回、又、東京府方面委員たること二期に亘り、其他幾多の公共事業に關係して、大に村民の人望を一身に蒐めつゝある。因に氏の取引銀行は武陽銀行である。

㊧ 吉崎製材所

吉崎定治郎

明治三十六年二月三日生
營業所　東京府西多摩郡青梅町師岡
電話青梅三三一番

當製材所は明治四十年前後、先代定治郎氏の創業に係り、約三十年來の老舗である。當主定治郎氏は、もと喜作と呼はれたが、幼少より家業に精勵して、父君の輔翼となり、長ずるに及んで、業務練達を以て鳴つた。後遺鉢を襲いで二代の經營者となるや、先代定治郎を襲名したのである。爾來、氏は奮鬪努力、父君の遺業を繼いで些の疎漏なく、牢固たる業礎を確保して今日に及び、顧客を主として東京に獲得して、業勢甚だ盛大。現に店員並に從業員拾數名。氏は既に舊家の出、加ふるに重厚の風格は、頗る四隣の人望を得て居り、現に霞消防組第一部小頭刷部長に推されて、銃後の安寧に盡されつゝある。

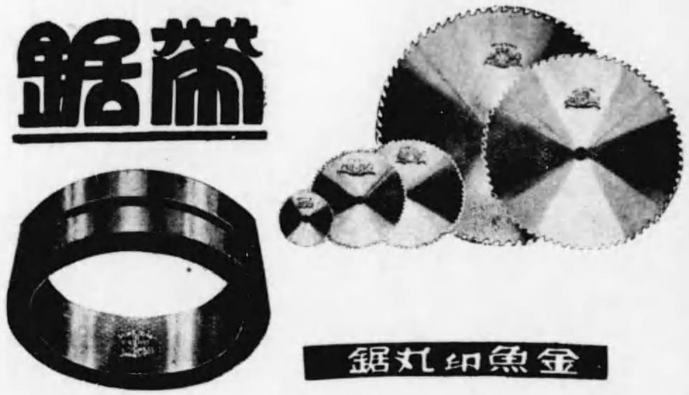
奉祝皇紀二千六百年記念

弊社新築營業所ノ一部（前面）

農林省御指定品
鐵道省御指定品
海軍省御指定品

（全世界に誇る……猛進する）

鋸帶



金魚印丸鋸

調帶部・機械部・輸入部

東京市神田區淡路町一丁目七番地

丸高興業株式會社

電話神田（25）
（二二八〇〇番）
（二二八五〇〇番）
（二二九〇〇〇番）
（二二九五〇〇番）

振替口座東京　二八八八〇番
和文電信略號（〇タカ）
歐文登錄受信NOBTAKCO
歐文登錄發信MARUTAKA

材木問屋

㊀ 飯高商店

飯高勝

東京市深川區千石町二ノ一〇

電話本所(73)七一〇六番

材木問屋

Ⓐ 天野木材店

天野良次

大正四年二月九日生

東京市深川區平井町二丁目七

電話深川(64)〇八七三番

創業 昭和十九年二月

出身 山梨縣北都留郡大月町出身

取引銀行 第一、三和、住友、第百、有信各銀行

製材一般

鳴門商店專屬工場

㊫ 新興製材所

加藤喜之助

工場 東京市深川區平久町二丁目一

自宅 東京市城東區南砂町一ノ九八三

材木問屋

㊩ 飯沼商店

飯沼文夫

東京市深川區和倉町二丁目九

電話深川(64)〇三三七番

奉祝皇紀二千六百年記念

躍進木場の

評判の内地杉天井板豐富・高級各種張天井ベニヤ板一式

・各國名産床廻り材・磨丸太北山・吉野

・珍木・變木現世好の西京風建築用材

銘木問屋

宮下銘木

清木

皆様の

宮下銘木店

東京深川木場四ノ一 電話深川(64)一二四一番

奉祝皇紀二千六百年記念
一般建築材
勝又木材株式會社
東京市豐島區雜司ヶ谷町七ノ九九一
電話大塚(86)三六一九番
山手線池袋驛西口
勝又木材株式會社板橋出張所
東京市板橋區板橋町四ノ一四九五
(日大病院前)

奉祝皇紀二千六百年記念
材木問屋
春家住商店
家住春太郎
東京市深川區木場四丁目二十六
電話深川(61)〇八九四番
材木問屋
上原商店
上原安春
東京市本所區江東橋二丁目二二
電話本所(73)七五一二番
書と印章
掌月
電話本郷九七八六
東光社
板製 摺込 木材
東京市深川區木場一丁目一四番地
河野マーク店
河野勇

各驛木材運送協調會

- 隅田川驛 東京合同運送株式會社隅田川支店
- 同 三立運輸株式會社
- 同 東京木材運送合資會社
- 同 宇田川運送店
- 同 株式會社鐵道木下組隅田川支店
- 錦糸町驛 東京合同運送株式會社錦糸町支店
- 同 宇田川運送店錦糸町支店
- 同 株式會社鐵道木下組錦糸町出張所
- 小名木川驛 東京合同運送株式會社小名木川支店
- 同 天龍運送株式會社小名木川支店
- 同 東武合同運送株式會社小名木川支店
- 汐留驛 東京合同運送株式會社
- 同 天龍運送株式會社汐留支店
- 飯田町驛 東京合同運送株式會社飯田町支店
- 品川驛 東京合同運送株式會社品川支店
- 同 株式會社鐵道木下組品川出張所

奉祝皇紀二千六百年記念

日本木材興業株式會社

東京市京橋區銀座西二丁目三番地

電話京橋(56)二〇五二番

工場 栃木縣黑磯町 電話黑磯一三五番

社長 宮川武

支配人 大島績

工場長 櫻田久作

横濱市

中區

〈一〉 石井製材所　石井誠一

明治二十年三月一日生
營業所　横濱市中區上大岡町三一一

氏は千葉縣の出身で、同縣君津郡松岡村字大坂に生れた人である。年少家郷を辭して横濱に出で、具に辛苦を嘗めて製材業を習得し、業務精通の上、昭和四年五月、現地をトして店舗と工場を設け、製材に從事したのである。爾來、梅風沐雨十星霜。夙夜懈らざる氏の奮闘は、期年ならずして草創の荊棘を打開し得て、業礎を強固ならしむるに成功し、磯子區峰町なる秋山元吉氏の原木製材を主として一般賃挽に、顧客層を動搖なからしめ逐年業績を擧げて、繁榮なる店勢を張る現況である。しかして、氏の重厚なる風格は、四隣町内の住望を贏得て、現に町會組長に推されて、町内自治の爲に靈瘁する所鮮少でない。

〈二〉 石田材木店　石田奥藏

明治四年一月生
營業所　横濱市中區本牧町四ノ八四〇

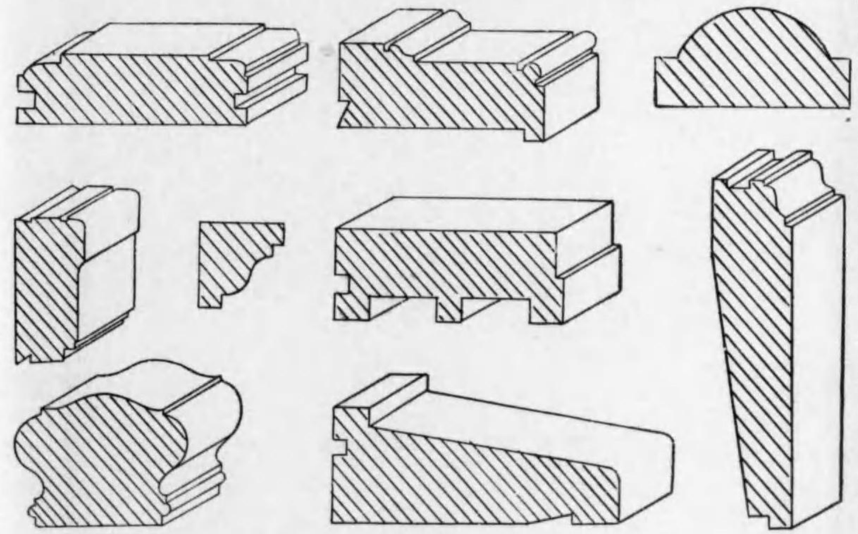
氏は當横濱市の出身で、年少より材木商を修業し、具に辛酸を嘗めて斯道習得の上、大震災の直後、復興の氣運京濱の間に醸勃たるに先んじ、大正十二年十一月、現地に内外材木各種を取扱つて獨立し、宿望を玆に果したのであつた。爾來梅風沐雨十六年、氏の不撓の精神と不屈の鐵腕は、よく一切の難關を打開し終つて、基礎堅く、顧客多く、店勢順調の一路を辿つて今日に及んで居る。しかして、氏の長男新八氏（明治三十九年生）は、杉田屋材木店主の許にあつて、斯業の研鑽を怠らず、遂に好個の材木商として、父君を輔佐せんとする折柄、日支事變あつて應召、勇躍出征し、氏は憂鑛たる意氣を以て、舊に倍する奮闘を續け、新八氏をして後顧の憂なからしめつゝある。

〈六〉 濱六材木店　池田六藏

明治十四年生
營業所　横濱市中區本牧三ノ谷四一
電話本局六〇二三番

氏は當市の出身である。年少幾多の曲折を經て、勤勉力行遂に竹材商を開いて獨立し、多年の宿望を果したのであつたが、爾來、奮闘努力、業礎の強化に專念すると共に、各種木材、丸太類の販賣を兼業し、後製材に業務を擴張するに至つた。而して、顧客本位の堅實第一主義に終始して店運の隆昌を期して精進した結果、當方面一流の老舗として、四隣業界に精進して今日に及んだ。氏風格重厚、資性仁俠。爲に信望一身に蒐り、推されて三ノ谷青年會副會長である。なほ氏は

木材加工



（加工品ノ一例）

洋間
窓枠　巾木　笠木　出入口枠　天井廻縁

日本間
柱　敷居　鴨居　長押　天井竿縁　床板

長押　縁甲板　額縁　下見板

格縁　押縁　膳板　羽目板　階段材

他の其
矢板　工業機械部　バネル框

材料引取　御相談申上ます

◆何れも長さ二十四尺迄取扱ひます◆

トキワ工場

東京市深川區古石場四丁目二十九番地
電話深川(64)〇八七一番

日露戰役に出征し、其の功に依つて勳八等白色桐葉章を賜つた。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

東屋材木店

富山新三郎

明治十七年三月八日生
營業所　横濱市中區山吹町一ノ二
電話長者町四八二二番

氏は東京市神田區橋本町富山八郎兵衛氏の二男である。而して當家は舊幕時代より連綿十代に亘る豪商であつて、曾つては江戸一圓に知られたる家柄である。氏はこの家に生れながら、材木商を志して横濱なる豐島屋材木店に入り、具に斯道修業の辛酸を嘗めたが、遂に多年の研鑽其の效を奏し、練達の手腕、圓熟の技能、豐島屋内其の人あるを謳はるゝに至つた。玆に於いて、地を現地にトし、内外材木一般を取扱つて一店を設け、獨立自營、以て多年の念願を達したのであつた、時に大正四年。かくて氏は、三十にして立つべき時に立ち、不撓不屈の精神を以て草創の荊棘を打開すべく奮鬪に次ぐに奮鬪を以てし、遂に難局の一切を克服し終つたのである。即ち基礎を築いて强固に顧客を獲得して多數、逐次業績を擧ぐるに成功し、星霜玆に二十餘五年を閱せる今日、當市屈指の一流店として、店勢殷賑、家運興隆、氏半生の勞は、全く酬いらるゝに至つたのである。今や氏は、横濱材木商同業組合會計として、神奈川縣木材業組合聯合會理事として、斯界一方の重鎭として雄視しつゝあるのみならず、資性明敏にして且つ仁俠、店務繁忙の傍、町會會長、衛生組合長等せ發ねて、公共自治の爲盡瘁する所鮮少でなく、四隣町内の信賴一に氏に歸するが如くである。なほ氏の取引銀行は日本雲夜銀行第一銀行である。

三玉屋材木店

青木孫太郎

明治十一年十月廿日生
營業所　横濱市中區高根町三ノ一七
電話長者町三四七五番

氏は東京府下の出身で、西多摩郡三田村字二俱尾に生れた人である。嚴父は青木泰助氏。氏は其の長男である。年少父母の膝下を離れ、横濱市に來つて、玉川屋材木店に入つて永年斯業の實習に努め、更に三州屋に入つて、斯業の研鑽に勵むこと多年。遂に業務に精通して、現地に内外材木一般並に丸太を取扱ひ、兩店を記念して三玉を商號として一店を開く時に明治三十七年、爾來、星霜三十五を閱して、今や老後を養つて時に指導の任に當り、一切を宰領するは氏の長男幸平氏（明治四十一年五月二十八日生）であつて、精勵よく家業の隆昌に努めつゝある外、幸平氏は温厚篤實の資性、四隣の敬慕する所となり、推されて衛生組合評議員、東部青年會幹事等の地位にあつて、公共自治の爲盡瘁しづゝある。因に當店の取引銀行は横濱興信銀行である。

岡田製材所

岡田善右衛門

明治廿一年生
營業所　横濱市中區新山下町三ノ七
電話本局二六七九番
自宅　同同高砂町三ノ二八
電話長者町四五六番
出張所　甲府市上連雀町一七

氏は名古屋市の出身で、南區熱田に生れた人である。年少にして實業を以て身を立てんと欲し、製材業の有望なるに着目し、斯業習得の爲、幾多の辛酸を嘗めた後、昭和三年、氏而立にして、本區高砂町三ノ二八に獨立製材業を開始してより、星霜十年を閱せる今日、敏腕よく一切の難局を克服し、業容を擴張し、堂々一流の店舗を張つて今日に至つた。殊に昭和十年、店舗を現地に移して工場を整備するの外、甲府市に岡田製材所山林甲府出張所を設くる等、事業擴張に次ぐに擴張を以てし、現に從業員三十餘名を使役して業界の一方に雄視しつゝある。因に氏の取引銀行は住友銀行並に日本雲夜銀行である。

奥津木箱製造所

奥津哲一

明治廿三年十月十八日生
營業所　横濱市中區新山下町三ノ七
電話本局四八四七番

氏は神奈川縣の出身で、同縣中郡秦野町字曾屋に生れた人である。夙に横濱市に出でゝ、辛苦して製箱の技術を習得し大正元年、現地にトして店舗を張り、獨立して斯業を開始したのであつた。爾來、梯風沐雨星霜を閱して三十年に垂んとする氏の奮鬪は、よく一切の難局を克服し得て今や坦々たる大道を驅るが如き店勢を招來した。その取扱ふ所は、舊來より京濱間多數の顧客に對する和洋配罐詰用の木箱を主とし、特に昨今軍用品としての木箱を受注し、從業員二十數名を使用して、合理化せる分業的工作を行はしめ、業務頗る繁忙を極めつゝある。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

大原材木店

大原俊三

明治四十年九月十八日生
營業所　横濱市中區大岡町九四七

氏は横濱市の出身である。年少より實業に志し、幾多の波瀾を經て材木業の有利なるを知つて身を立てんと欲し刻苦して斯業の研鑽を怠らざること。多年遂に自信を得て昭和九年現地の斯業に有望なるを看取し、店舗を設けて内外材木各種を取扱ひ、獨立自營の第一歩を氏の人生に印して、宿望を遂げ得たのであつた。爾來、星霜を閱する十年に過ぎずと雖夙夜懈らずして業運の隆昌に專念せる結果、業礎を强化し、業域を擴張し遂次業績をあげて、今や店勢甚だ順調なる一路を辿つて居る。年齡なほ若き氏の前途はその手腕と、現地の發展と相俟つて正に洋々たるものがあらう。

小此木材木店

小此木歌治

明治二十一年九月生
營業所　横濱市中區末吉町一ノ八
電話長者町三七五・一三八九番

氏は埼玉縣の出身にして當年五十三歳、栗原清五郎氏の四男として生れ、幼少の頃より材木業を志し修業を積み、大正四年内外木材問屋小此木才三氏に懇望され養子として同家に入轉、養父を輔佐して家事に從事された昭和四年家督を相續すると共に業務一切を繼承、益々業績を擧げ遂に今日の大を爲すに至つたのである。現在從業員十數名を使用し米松直輸入商としてまた、挽立材及び建築材一式、杉板小角類を取扱つて居り得意先は諸官廳を始め一流諸會社、工場等との取引が多い。尙ほ氏は横濱市中區新山下町三ノ七合名會社金港倉庫の代表社員であり、また神奈川區表高島町金港倉庫内に貿易部出張所を設けて居る。氏はまた社會人として幾多の公務につかれ、現在横濱市民の信望を双肩に負つて横濱市會議員横濱商工會議所議員として活躍されて居り、また神奈川縣材木業組合聯合會々長として斯業に盡力せられて居る一方横濱材木商同業組合長として業界に貢獻されて居る。

金子材木店

金子喜之助

合資會社
明治卅年生
營業所　横濱市中區末吉町二一八八番
電話長者町二〇五番

氏は當縣の出身で、鎌倉郡川上村字品農に生れた。年少より家業の材木商に精進し、頗る練達を以て聞えた。箕裘を繼ぐに及んで、現地の工業地帶として發展に永久性あるを看取し、一店を構へて内外材木各種並に原木の販賣を開始してより、春風秋雨二十餘年を閲して今日に及び、基礎磐石の如き

安きに就いて、顧客を主として官廳諸會社工場一流建築者間に獲得し、業績大に擧がつて、店勢甚だ振ふ現況である。氏は溫厚の長者、劇務の傍、町會理事、警防團役員、大岡町第三衞生組合副組合長、大岡小學校後援會役員等公共自治の爲盡す所あつて、町内四隣の德望を蒐めつゝある。なほ中區金子商店金子喜之助氏は氏の家弟であつて、兄弟轡を並べて業に馳驅して居る。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行。

横谷横濱店

横谷貞則

明治卅五年生
營業所　横濱市中區花咲町五ノ一三六

氏は山梨縣人で、中巨摩郡二川村字大津に誕生した。年少家業を志して鄕里を出で、上京して芝區愛宕町なる伯父君横谷材木店の下に身を寄せ、材木商たるべく修業して、具に辛酸を嘗めたのであつた。かくて、業務練達、業務通曉、獨立の手腕才能を養ひ得たが、なほ、雌伏して、伯父君の手足となり肱股となつて、その隆昌に盡する鮮少でなかつた。而して昭和十二年、始めて現地に内外各種材木を取扱ひ、東京市大森區大森三丁目三十七に本店を有し、又横濱店を開始したり、氏は漸く其の宿望を果した。しかも、未だ草創の折、日支事變の勃發するあつて、氏は一切を抛ち應召して勇躍征途に就いたので、實弟正泰氏、氏に代つて店務を司り、工場並に家具製造業者を顧客として、店勢甚だ順調なるを得て、以て氏をして後顧の憂なからしめつゝある。

濱戸屋材木店

高梨音吉

明治廿五年二月十八日生
營業所　横濱市中區本牧町荒井九九
電話本局三五六番

氏は横濱市の出身で、中區門前町二ノ二〇二に誕生した。年少にして實業を志し、幾曲折の後、材木業の有利なるを知り、斯業習得に多年辛酸を經て、大正十年、現地の有望なるを看取して店舗を設け、材木、竹類、丸太等を取扱つて、自營開業し、宿望を果すと共に、獨立の第一歩を氏の人生に印したのであつた。爾來二十年に垂んとする氏の奮鬪は、よく業界の一起一伏を善處し克服して、遂に强固なる業礎を築き業績の向上正に刮目に價する現況を招來した。なほ氏の醇朴なる風格は、町内の輿望を擔ひ、現に隣組組長に選ばれて、銃後の安寧に盡しつゝある。因に店の取引銀行は横濱興信銀行である。

高俊材木店

高橋俊男

大正四年七月十日生
營業所　横濱市中區長者町九ノ一七八
電話長者町一三九五番(店)
長者町三六二八番(自宅)

氏は材木王國秋田縣の出身で、同縣北秋田郡七倉村字小繋に呱々の聲を揭げた人である。嚴父は高橋八十吉氏。氏は其

の六男に當る。幼少十三、遠く父母の膝下を離れ、横濱市に至つて住吉町なる大森商店に入り、刻苦精勵、職に忠に業に精しく、悉く店主の信頼を蒙り同輩の景慕を享け、模範店員としての九年を過した後、研鑽斯道の蘊奥を極め、業務練達手腕卓越を以て稱せらるゝに至つた。玆に於いて氏業に有利なて、當地の發展異常にしてしかも永續性あつて氏るを選び、自らの店舗を設けて材木問屋の經營を開始したのは昭和十二年六月十五日、氏二十二歳の折である。爾來、年處を經ること幾何ならずと雖、氏の不撓不屈の精神は、草創一切の難局を克服し了し、顧客本位に立脚せる營業方針は、業域の擴張を頗る迅速ならしめ、非凡卓拔の手腕商才は、一擧に基礎を築いて磐石の如く安らかに、以て短日間よく業績を擧げ得て顯著なるものがあり、悉く世人瞠目の的となり、惑星現はるゝの聲、業界に喧傳せらるゝに至つた。誠に少壯有爲業界の新進。その非凡の手腕を以てすれば、當地方非常の發展に伴ひ、その大成は、具眼者を俟たずして、大地を打つて外づるゝなきが如く確實に期待し得る所である。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行神奈川支店並に日本靈夜銀行横濱支店である。

田野井材木店

田野井金太郎

明治卅八年八月十五日生
營業所 横濱市中區通町二ノ四四
電話長者町一三〇〇番

氏は當横濱市の出身で、中區日野町に呱々の聲を擧げた人であり、磯子區なる田野井材木店は、氏の令弟に當つて居る家業は材木商であつたので、氏は環境の然らしむる所、年少にして既に斯業に練達し、業界の亘細に通じて、出藍の譽甚だ高かつた。大正十五年、箕裘を繼いで家業にいそしむや、既に父君に依つて築かれた確乎たる基礎に立つて、敏腕なる令弟の協力の下に、業績遂年に擧ぐるに成功し、店員三名を使用して、店勢大に張る現況である。昭和十二年五月、令弟磯子區に一店を開設するや、氏は熱篤なる支援と指導を與へその創業を助けて、業界に一佳話を提供したのであつた。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

中丸製材所

中丸時藏

明治廿六年一月七日生
營業所 横濱市中區新山下町三ノ七
電話本局三一一六番
實揚 同 同 杉山町四ノ一四三
電話長者町一八一四番

氏は當縣人で、鎌倉郡中川村字阿久和に生れた。幼少十三横濱市に出で、花咲町の宮原屋材木店に入り、具に斯業練達の辛苦を嘗めること十年の永きに亘つた後、自營の確信を得たので、大正五年、西戸部町に内外各種材木を取扱つて獨立開業し、傍ら高島町九に製材所を設け、神奈川、千葉の山林より主として原木の供給を受け、これを大倉組を第一に、東京木場方面に大量納入して、業績甚だ見る可きものがあり、

殊に昭和十一年、店舗並に工場を玆に整備し、且つ賣場を、杉山町に增設し、長男裕司氏(大正六年生)をしてこれを主宰せしむる等、着々業務の擴張を行つて以來、店勢の隆昌、誠に當方面第一流の稱に背かない。現に從業員二十餘名、山林關係の使用人五拾餘名を算するの盛況である。氏は頗る長者の風貌あつて、四隣町内並に業界に德望あつて、現地に移る以前、鹽田町會創立以來の會長であり、又該地の青年團會長或は副會長を務むる等、公共自治の爲に盡す所甚大なるものがあつたが、今又玆に於いて、西前小學校後援會副會長に推され、業界に於いては、横濱材木商同業組合評議員の地位にあつて、斯界一方の覇を唱へつゝある。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

伊豆屋材木店

野間良太郎

明治四十三年二月廿七日生
營業所 横濱市中區石川町二丁目六二
電話本局一三六七・二八六三番

氏は靜岡縣の出身で、賀茂郡仁科村字澤田に生れた人である。嚴父は間野龍三氏で氏は其の長男である。幼少十二の折遠く父母の膝下を離れて横濱市に出で、中區萬代町の川本屋材木店に入り、精勵業に努め忠實職に服すること十三年の永きに亘り、横濱材木商同業組合並に神奈川縣商工協會より模範店員として表彰せられたのであつた。かくて練達の手腕を振ふべく現地に下して店舗を設け、内外各種材木を取扱つて獨立開業し、以て宿望を果し得たのであつた。時に昭和十年氏二十五歳の二月である。爾來日尚ほ淺きに拘らず、着々業基を强化し業績を擧げ、現に四名の店員を使用して店勢大に張るの狀況である。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

合名會社 相模屋竹材店

代表者 川口藤太郎

明治十四年二月廿六日生
營業所 横濱市中區西久保町九
電話神奈川一七四四番

當店は四十年前の創業に係る老舗であり、當地方第一流の竹材丸太販賣店として、業界に著聞して居る。その顧客は、諸官廳を主とし工場會社等多數獲得し、業礎の堅きこと磐石の如きに立つて、店員數名を使用し、店勢頗る順調を辿つて今日に及んだ。氏は髮髢として壯者を凌ぐ意氣を以て、この繁劇の店務に孜々たるの所、昭和青年團會計の地位にあつて公共自治の爲、盡瘁する所鮮少でなく、四隣町内、悉く氏を德として居る。

杉崎製材所

杉崎利之

正八位

明治卅九年七月三日生
營業所 横濱市中區西久保町一一五

氏は當市の出身で、しかも當區末吉町に生れた人である。

横濱商業小學校を優等の成績で卒業した後、大正十四年、徴兵入營して正八位幡重兵少尉に任ぜられて除隊するや、始めて、宿望たる實業界活躍の機會を握るを得たので、製材業を選んで店舗を設け、獨立自營の第一歩を踏んだのは、昭和六年の事であつた。爾來、八年の星霜を閲し、氏の奮闘的精神と潑剌たる才腕は、その合理的經營法と相俟つて、着々實績を擧ぐるに成功し、現に三名の從業員を使用し、商勢頗る殷賑なる現況を招來したのである。なほ氏は、店勉繁忙の傍、銃後の國民としての責務を忘らず、曾つて警防團幹部として總率する等の事あつて、四隣の人望を寛めて居る。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

〈一〉見上竹材店

見上一壽

明明廿六年三月二十五日生
營業所　横濱市中區大岡町千保一二七九

氏は神奈川縣の出身で、同縣高座郡綾瀬村字深谷に生れた人である。年少志を抱いて故山を辭し、横濱市に出で、幾曲の後、薪炭商を經營すること多年。大正十二年、竹材商に轉じて、竹材、杉磨丸太類、銘木、造園材料等を取扱ひ、拮据勉勉、業礎の强化、業域の擴張に努めたる結果、逐年業績を向上せしむるに成功し、遂に今日の繁榮を招來したのである氏の堅實にして、しかも顧客本位の經營方針は、當地方の發展と相俟つて、常店をして更に繁榮に導く事の期して待つを得べきは贅言を要しない。

中區二葉町一ノ二　電話(3)二二七番　一色伊太郎
同　吉野町一ノ一　電話(3)二四〇〇番　井上象輔
同　彌生町三ノ二九　電話(3)三七一〇番　伊藤庄太郎
同　不老町三ノ二四〇　電話(3)二八八二番　長谷川文藏
同　天神町二ノ四九　電話(3)四八八七番　花井直一
同　日枝町三ノ九二　原元三郎
同　新山下町三ノ七　電話(2)八四五番　東洋製材所
同　根岸町如會臺五　電話(3)二三九〇番　大貫榮太郎
同　伊勢町一ノ六　電話(3)一七一九番　尾崎吉五郎
同　西前町二ノ三九　電話(3)三〇九七番　尾崎與五郎
同　日枝町三ノ八七　電話(3)五八七九番　奥原福松
同　住吉町六ノ七〇　電話(3)三二九〇・(2)二〇八八番

同　中村町四ノ二二五　大森尹義
同　大岡町九四七　小川金藏
同　末吉町四ノ八三　電話(3)三五〇四番　大原俊三
同　櫻木町五ノ三六　川田晴一郎
同　彌生町四ノ四三　電話(2)四六四一・四七六八番　川合菊次郎
同　山下町一一八　電話(3)一一八八番　柏倉新
同　大橋町一ノ三　電話(2)一四九六番　川島次作
同　新山下町三ノ七　電話(2)五一六八番　蒲次作
同　石川町二ノ六〇　電話(2)一八四八・二八九三番　龜井商店
同　麥田町二ノ六二　電話(2)三一四五番　金井商店
同　本牧町二ノ三八八　電話(2)四八二四番　横山富美
同　長者町一ノ九　横山末吉
同　新山下町三ノ七　電話(3)〇三四六番　吉岡留吉
同　長者町一ノ八　電話(2)四九六二番　横濱港木材倉庫株式會社
同　長者町九ノ一七八　電話(3)四四五八番　横濱ベニヤ商會
同　長者町四ノ四五　電話(3)一一一三番　高井房太郎
同　高根町一ノ三　田中卯之助
同　井　勇　電話(3)三一六一番　田村都喜
同　長者町四ノ四七　電話(3)〇九九三番　椿菊治郎
同　中村町三ノ一九七　電話(3)六八〇六番　塚本清次
電話(3)一一五六番　永井勇
電話(3)五五〇七番　鳴川政夫
電話(3)一六三〇番　中島健三

同 蓬萊町二ノ六五　内野恒太郎　電話(3)三二八五番　同 西仲町四ノ八〇

同 彌生町三ノ二九　倉澤尙司　電話(3)五三五六番　同 不老町三ノ二一五

同 彌生町四ノ三九　栗田屋材木店　電話(3)一五四三番　同 本郷町三ノ六五

同 山元町二ノ八九　山本和助　同 壽町三ノ一三九

同 高砂町二ノ二一　山本才吉　電話(3)三二一三番　同 新山下町三ノ七

同 三吉町四ノ二七　松浦榮太郎　電話(3)二二七八番　同 濱松町四二

同 黃金町一ノ五　正木美治　同 末吉町四ノ八三

同 石川町二ノ六二　松永彰　電話(2)一三六七番　同 白妙町五ノ六五

同 花咲町五ノ一三六　野間良太郎　同 中島町一ノ一四

同 中村町一ノ一　松木昇　電話(2)〇六四二番　同 新山下町三ノ七

同 長者町一ノ七　京濱ベニア　同 彌生町五ノ四八

福田福一　同 彌生町四ノ三九

電話(3)二九五九番　不二ベニヤ製作所

電話(3)〇〇四八番　小村信一

小林好　電話(3)四六五六番　小西喜代松

電話(2)一三九一・四六〇七番　小林商店

青木幸作　電話(3)四一一一番　荒川幸次郎

電話(3)二六六一番　相田製作所

秋山竹次郎　電話(2)九〇三・三三七六番　佐藤嘉平

電話(3)六二〇九番　木村利三郎

同 萬代町三ノ四五　北岡仙吉　電話(3)一九四三番　同 彌生町四ノ三六

同 新山下町三ノ七　岸政吉　電話(2)一〇八五番　同 睦町一ノ五五

同 長者町九ノ一七五　木村商店　電話(3)一一四九番　同 長者町四ノ四一

同 彌生町五ノ四七　宮田惣吉　電話(3)三三番　同 日枝町二ノ四八

同 新山下町三ノ七　宮田三八　電話(2)四五〇六番　同 長者町九ノ一七七

同 高根町二ノ一〇　宮川三郎　同 浦舟町一ノ一

同 日枠町二ノ五八　水谷德藏　電話(3)五五〇九番　同 新山下町三ノ七

同 西前町二ノ三〇　宮崎愛章　電話(3)四二二四番

同 萬代町一ノ九　篠崎將　電話(3)四九一一番

同 松影町二ノ四七　城重本司　電話(3)九五九番

同 末吉町二ノ二八　白鳥德　電話(3)二二五九番

白石吉三郎　電話(3)一九四三番　篠田銘木店　電話(3)三六七六番

岸政吉　電話(2)一〇八五番　下山太一　電話(3)三三四〇番

木村商店　電話(3)一一四九番　志津森太郎　電話(3)五九七九番

宮田惣吉　電話(3)三三番　平井粂吉　電話(3)二四五五番

宮田三八　電話(2)四五〇六番　森下吉太郎

宮川三郎　浦舟町一ノ一　鈴木健治　電話(2)五〇五五番

鈴藤商店

神奈川區

㊀ 井上材木店

井上武松

明治二十八年一月二十七日生
營業所　横濱市神奈川區南幸町二ノ五五

氏は神奈川縣出身で、高座郡六會村字今田に生れた。年少より苦學力行、人生幾多の苦難を嘗めたる後、實業を志して

二十一歳の折、横濱市に出で、曲折あつて材木商の有利多望なるに着目し、精勵刻苦、斯道の研鑽に力めたる結果、その商才に於いてその手腕に於いて、自營し得るの確信を掴み、現地を卜して一店を構へ、內外各種材木を取扱つて獨立し、以て宿願を果したのであつた。時に昭和六年。爾來、八星霜の間、獨歩獨行、奮鬪的精神に一貫して、業礎を築き業域を廣め、逐年業績を擧ぐるに成功し、店勢大に張つて今日に及んで居る。氏資性仁俠にして義を好み、大に衆望を擔つて、神奈川區警防團金港第一分團警護班副班長、横濱市出勤軍人後援會役員等の外、南北幸町青年團長に推され、銃後のため盡瘁する所が多い。

丸吉材木店

勳八等　飯村吉之助

營業所　明治廿九年五月二十三日生
横濱市神奈川區西平沼町一ノ八
電話神奈川一六七八番

氏は靜岡縣の出身で、濱名郡芳川村に生れた。年少父母の膝下を離れ、横濱市に至り、神奈川區青木町なる丸西材木店に入り、斯業の習得に專念すること多年にして、業務に頗る練達した。偶々シベリアに出兵するあつて、氏は應召して勇躍出征し、凱旋して勳八等白色桐葉章を賜つた。かくて大正十年、飯村長吉氏の養子となり、現地に內外各種材木販賣並に製材を取扱つて店舗を設け、健腕を振つて業礎を築き、顧客を獲得し、逐年業績を擧げて二十年に亙んとして居る。しかも、慧敏なる氏は、この間にあつて、鑛山事業を經營して巨萬の利を獲得する等、正に活躍縱橫と云ふべきである。氏は儉敏にして仁俠、よく青年の景仰する所となり、現に推されて平沼青年團副團長である。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行、安田銀行である。

飯田屋材木店

飯田國吉

營業所　明治卅八年生
横濱市神奈川區子安通二ノ二五四
電話神奈川一五一四番
同　新山下
製材場
電話本局五七四九番

當店は氏の嚴父國榮氏が、現地を選んで三十餘年前に開業せる當地方相當の老舗である。されば、國榮氏の長男として生れた國吉氏は、この環境裡に生育して、斯業に甚大なる理解を持ち、嚴父を輔佐して家運の隆昌に專念した事は云ふ迄もない。爲に業績逐年に擧がつて、店勢日に盛大に赴き、昭和十一年、新山下に製材工場を新築整備して、材木問屋として顧客の需要に萬遺憾なきを期したのであつた。昭和十三年嚴父溘焉として逝くや、氏は喪冀を襲いで立ち、拮据精勵、從業員三十餘名を督勵して、老舗としての勢威を業界の一方に振ひつゝある。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行、住友銀行等である。

鎌倉屋材木店

德增軍次

營業所　明治二十七年十一月十一日生
横濱市神奈川區岡野町二九
電話神奈川二一六六番

氏は當横濱市の出身で、しかも當區に生れた人であつて、川崎市大島なる加瀨賣場の德增政勝氏は、氏の令弟に當る。氏は年少にして實業界に活躍すべく志し、材木商を選んで幾曲折の後、斯業に練達し得た。そこで、大正十三年五月、大震災直後、復興の氣運、京濱の間に澎湃たる機に乘じて、當地を卜して店舗を設け、內外材木各種を取扱つて、創業した爾來星霜十五年。氏の不撓不屈の精神と、老練活達の手腕はよく草創の難關を突破し得たるのみならず、業界一起一伏を克服するに成功し、今や當方面一流店としての勢威を張るに至つた。氏の資性明朗豁達、よく衆望を擔ふに至り、諸公共團體の公職に推され、或は在鄕軍人北部分會組副長として、或は警防團防毒班員として、盡す所蓋し鮮少でない。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

大口製材所

西澤萬平

營業所　明治廿三年十二月廿八日生
横濱市神奈川區大口通四〇

氏は新潟縣人で、同縣南蒲原郡本成寺村に呱々の聲をあげた。年少志を抱いて鄕關を辭してより、幾曲折の後、神奈川なる日本ベニア株式會社に入り、同會社製材部に勤むること多年にして、斯業の蘊奧に通じ、業務に練達するを得たので現地に店舗工場を構へ、製材を營んで獨立し、以て宿望を達し得たのである。時に昭和五年。爾來、春風秋雨十星霜よく草創の難關を突破し得て、顧客層の開拓にこれ力むると共に樋口、織田兩材木店の挽物を主として引受くるに成功し、逐年業績を擧げて、現に店員三名を置き、營業頗る順調の一路を辿りつゝある。

落合材木店

落合亥作

營業所　明治十一年一月一日生
横濱市神奈川區神奈川通七ノ二五二
電話神奈川二四九五番

氏は埼縣の出身で、秩父郡長瀞に生れた人である。この山紫水明の環境に生育した氏は、自然に親しむ機會に惠まれた結果、樹木に對し無限の興味を感じ、長ずるに及んで材木業に携るべく志を立てたのであつた。しかるに人生の曲折は、暫く氏の志を容れず、氏は官界に投じて警察官たるべく餘儀なくされたのである。しかも氏は、職に忠にして一事をも忽諸に附せざる底の恪勤精勵、よく同僚に模範となり、功によつて勳八等を賜つた。後、職を辭するに及び、初一念を貫徹すべく、附近に原木を求めて、京濱地方に出荷して相當の業績を擧ぐるに成功し、大正十二年の震災直後、帝都に澎湃たる復興の氣運を提へて現地に進出し內外材木販賣並に製材を

取扱つて、一店を創立したのである。爾來、春風秋雨十六年氏の圓熟せる手腕と、老練なる商才と、更に透徹せる材木に對する理解は、氏を導いて、當方面有數の店舗としての商勢を張るに至らしめた。玆に特筆すべきは、氏の多解的な活躍であつて、即ち昭和六年、當横濱市石崎町に映畫館日本館を經營し、相當の業績をこの艱嶮の業界に擧げ、一面大衆の社會教育に寄與貢献しつゝある事である。なほ氏は仁俠の資性よく四隣の信頼を受け、東石崎青年團相談役に推さるゝ等、壯者を凌ぐ潑剌さを以て、公共自治の爲め盡瘁する所多大なものがある。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

東亞製材所

合資會社
代表社員　岩田森藏
營業所　横濱市神奈川區鶴谷町二ノ一三
電話神奈川七六一番

當所は元來、當神奈川區西谷二四に於いて、丸中を商號とせる中村專三郎氏の個人經營に屬した店舗であつたが、昭和十二年五月三十日、中村氏は自店を廢止すると同時に、出資して合資會社東亞製材所を組織して陣容を新にし、岩田森藏氏これが代表社員として一切の業務を統率、店員十名、工場從業員二十餘名を置いて、積極的且つ堅實なる經營方針の下に着々業礎を強化し、業域を擴張し、業績を擧ぐるに專念し店勢頗る順調の一路を辿つて居る。因に取引銀行は住友、安田、第一の各銀行である。

大村材木店

大村太郎
明治四十一年四月十四日生
營業所　横濱市神奈川區入江町二ノ二九二

氏は横濱市の出身で、當市長者町に生れた。年少實業を志し、材木商を選んで身を立てんと欲し、斯道修練のため、當市なる東屋材木店に入り、夙夜懈らず、業に力め、職に勵んだ。かく多年の辛苦其の效を奏し、遂に業務に精しく、業務に明かとなるを得たので、現地を卜して店舗を設け、内外材木各種を取扱つて、獨立開業し、以て多年の念願を果したのであつた。時に昭和十一年、氏二十八歳の折である。爾來、草創日尚ほ淺きに拘らず、積極方針に終始して、一般建築業者並に民家方面に顧客層を開拓し、着々業礎を強化し、逐日業績を擧ぐるに成功し、店勢順調の一路を辿りつゝある。春秋に富める氏の、この手腕とこの精神とを以てすれば、その大成、近き將來に期し得らるゝであらう。

九一屋材木店

合資會社
代表社員　尾崎周次郎
明治十年二月十五日生
營業所　横濱市神奈川區南幸町三ノ六三
電話神奈川一九五九番

氏は三重縣の出身で、龜山町に生れた人である。年少より實業に志して鄕關を辭し、幾曲折を經て、或は鐵道運送業を營み、或は製箱業を營んで、相當業界に認められつゝあつた

が、大正十二年の大震災に遭遇し、次いで復興の氣運醸勃たるに乘じ、敢然として材木業に轉じ、拮据黽勉、壯者を凌ぐ矍鑠たる意氣を以て、草創の難關を突破し、業礎を忽ち築いて安固たらしめたのである。爾來春秋十幾年、顧客本位を標榜して、堅實一方の方針を執り、逐年業績を擧げて今日に及んで居る。氏甚だ長者の風あつて、まことに四隣の心服を得曾つて二年間に亘つて、青年團長に推され、現に町會役員として、町内の自治に任じて居る。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

川井材木店

川井金作
明治十九年七月十九日生
營業所　横濱市神奈川區篠原町四〇七
電話本局一二六九番

氏は神奈川縣人で、當縣高座郡澁谷村字福田に呱々の聲を揚げた。年少より商業に志し、材木商の有利多望に着目して斯業習得の爲、具に辛苦を嘗めた後、業務習達、業勢通曉したので、現地の發展著しく、家屋新築漸增して、材木の需要頗る多く、斯業甚だ有望なるに鑑み、一店を構へて、材木業並に製材業を兼ね營んで、多年の念願を果し得たのであつたかくて、氏は堅實を以て方針とし、顧客本位を標榜して、奮闘努力の幾年を經たる今日、當方面有數の店舗として業界に知られ、店勢甚だ順調の一路を辿る現況である。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

京屋川嶋材木店

川島龜藏
明治三十三年生
營業所　横濱市神奈川區菊名町四五四

氏は年少にして、深川區數矢町なる京福小林神四郎材木店に入り、刻苦精勵、職に忠に業に努むること多年、業務に精通し、業勢に通曉したので、昭和十一年、當地の發展顯著にして、建築軒を並べて新なる狀況に鑑み、斯業に有利なる所以を察し、玆に店舗を設け、各種材木を取扱つて、京屋號の暖簾を分ち、自營開業した。爾來、年處を經ること多からずと雖氏の活腕よく草創の難局を打開し、顧客層を獲得して廣汎に基礎を築いて强固に、逐年業績を擧げて今日に及び、今や店勢順調の一路を辿る。如斯にして、氏の慧才と活腕とを以てすれば、當地方の發展と相俟ち、その大成は期して俟つべしと謂ふべきであらう。

角田材木店

角田信治
明治二十六年九月五日生
營業所　横濱市神奈川區小机町
電話小机四八番

當店は嚴父角田留吉氏が、明治二十五年に創業した五十年に垂んとする。老舗として、當地方業界に著聞する。信治氏は玆に生れて、幼少より斯業に携り、嚴父の手足となつて、家運興隆にいそしんだのであるが、同時に斯業に練達し、斯

界に通曉するを得て、年少既に一廉の業者たるを得たのであつた。而して大正十四年、嚴父流薨として逝くや、氏は箕裘を襲いで立ち、舊に倍蓰するの精勵を以てして、老舗の名を更に光輝あらしめ、業績の向上甚だ顯著なるを得、現に内外各材木販賣に製材を兼營して、工場に從業員參名を置き、業績頗る順調なるを得て、今日に及んで居る。因に氏の取引銀行は、横濱銀行である。

吉野材木店

吉村安次郎

明治三十七年六月三日生
營業所 横濱市神奈川區篠原町五三一
電話神奈川六四九番

氏は奈良縣の出身で、同縣商葛城郡大正村に生れた人である。年少より波瀾幾重の後、横濱市に出で、運送業を營んで相當の業績をあげつゝある中、材木商の有利有望なるに着目し、辛苦して斯業の亘細に精通し、昭和四年、現地をトして一店を構へ、内外各種材木の外、新古材木並に建築材木一切を取扱つて開業した。爾來、櫛風沐雨十星霜。氏の奮鬪的精神と、圓滑なる手腕は、確乎たる業績を築き終り、建具等の兼營に、或は諸官衙の拂下げに、活腕縱横、現在店員四名を驅使して、店勤當方面業界稀に見る活況を呈しつゝある。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

辰馬屋竹材店

上本秀夫

明治卅七年四月十二日生
營業所 横濱市神奈川區六角橋町八一
電話二六五九番

氏は横濱市の出身で、當市山手町に生れた人である。幼少より家業の竹材商にたづさはつて、嚴父の手足となり、家運の興隆に精進するの一方、業務に熱心、職責に忠實。爲めに年少既に好個の手腕を有するに至つた。而して昭和六年、現地の發展著しきに着して移轉を敢行し、ついで家業を繼承して、草創に等しき難局に直面したが、氏の積極的精神と、圓滑縱横なる手腕は、よくこれを克服するに成功し、業礎の强化、業域の擴張ならび行はれて、遂年業績を擧げて今日に及んで居る。蓋に氏の活腕を以てすれば、當地の發展と相俟つて前途正に洋々と云ふに吝でない。

高橋材木店

高橋林藏

明治卅三年一月卅一日生
營業所 横濱市神奈川區平沼町二ノ八三
電話神奈川三〇五九番

當店は先代林藏氏が、四十餘年前に當地に開業した材木問屋であつて、當地方相當の老舗である。現主林藏氏は、元來靜岡縣引佐郡東濱名村字都築の出身で、年少志を抱いて横濱市に出で、先代の店に入つて、精勵忠實、よく店員の模範となること多年、同業組合よりその勤續を表彰さるゝに至つた隨つて氏は悉く店主の信頼を蒙り、遂に養子となつて高橋姓

を名乘り、箕裘を繼いで二代となるに及んで、時次郎を改めて林藏を襲名し、奮鬪的精神と圓熟せる手腕を以て、著々實績を擧げ、從業員三名を驅使して店務に精進し、老舗としての勢威を增々業界に重からしめて居る。されば業界は氏を推して横濱材木商同業組合内實友會副會長たらしめて居る。因に店の取引銀行は横濱興信銀行である。

瀧製材所

瀧藤吉

明治十五年八月二十日生
營業所 横濱市神奈川區日吉町三二〇

氏は靜岡市の出身で、同市三番町に生れた人である。年少實業を志して、材木商を營び横濱市に出でゝ、辛酸具に嘗めて斯業に通達した後、大正四年、當市長者町九丁目に、製材所を開いて、孜々として業に努むること二十年に餘つて、業績大に擧つた。しかして、昭和十一年、現地の發展著しく、材木の需要日に月に激增の傾向あるに鑑み、移轉を斷行し、草創に等しき難關に當面したが、老舗よく雲礎を築き、奮鬪よく顧客層を獲得し、遂日業績を擧げ得て今日に及んで居る氏の長男德太郎氏（三十三歳）はよく嚴父を輔佐して家運興隆に盡しつゝあるが、今回の日支事變に應召し、勇躍出征したので、嬰孺壯者を凌ぐ意氣を以て、二名の店員と共に氏は一層の奮勉を致しつゝある。

立花屋材木店

立花庄吉

明治卅三年一月二十五日生
營業所 横濱市神奈川區平川町三三ノ二
電話神奈川三九二〇番

氏は當神奈川縣人であつて、當縣都築郡津岡村字川井に呱々の聲を揚げた。家業は材木商であつたので、この環境裡に生育した氏は、自然、斯業に習熟し、年少已に練達の腕、通曉の才を有し、父及び兄君を佐けて家運の盛大に資する所甚大な者があつた。かくて、大正七年四月十六日、兄秀吉氏獨立を志して開業の地を相するに當り、當地の發展顯る顯著にしてしかも恒久性あるに着目し、内外材木一切を取扱ふの外製材を兼ねて一店を開設し、その經營に當つたのであつた。時に氏二十六歳少壯氣鋭、業界の新進として活腕を縱横に振つて、幾何ならずして草創の荆棘を打開し了し、業績を堅めて玆に二十年を超えた現在、諸會社、工場、一流建築業者を主なる顧客として、遂年業績を擧ぐるに成功したのであつた今や店員三名從業員數名を置いて、販賣に製材に繁忙殷賑を極め、益々店勢を張るの盛況である。惜しくも昨年春長逝せられたる爲め家弟たる庄吉氏が之を繼承したのである。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。なほ、當區神奈川通り立花區屋材木店主立花松次郎氏は、氏の令弟である。

立花屋材木店

立花松次郎

明治卅五年五月二日生
營業所 横濱市神奈川區神奈川通五ノ一五七
電話本局四六五番

氏は當縣の出身で、縣下都築津岡村字川井に生れた人で、當區平川町三三ノ二の立花屋材木店主立花松次郎氏は、氏の令兄に當る。年少にして英悟、夙に實業に志し、令兄の足迹を踏んで材木商に身を立つるべく決意し、上京して令兄の店に就き、斯業を實地に習練し研鑽し、夢寢懈らざること多年、遂に業界の亘細に通じ、業務の大小に明かとなつたので、昭和二年、當地令兄に近く店舗を構へ、内外各種木材を取扱つて開業し、年來の宿望を果すと共に、不羈獨立の第一歩を踏んだのである。時に氏二十五歳の折である。かくて少壯氣鋭の氏は令兄の懇切なる指導下に、業界の新進として活躍縱横期年ならずして草創一般の荆棘を拓き終り、業礎を磐石の如く堅からしめ、特に顧客を廣汎なる階層に獲得するに成功しかの三井物産株式會社木材部特約店としての地歩を確保するに至つて、業績大に擧つた。かくの如く、草創以來、春風秋雨十二年の氏の奮闘は、店員四名從業員五名を使用して、店勢殷賑、當方面業界に、令弟と雙び稱せらるゝ店舗を張るの現況を結果したのであつた。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行並に第一銀行である。

合資會社
代表社員 谷崎仁重
營業所 横濱市神奈川區六角橋町一四六
電話神奈川三二五二番
明治二十五年七月一日生

材木店

氏は愛知縣の出身で、岡崎市外西尾に呱々の聲を擧げた人である。年少より實業を以て身を立てんと欲し、志を抱いて郷關を辭し、遠く當横濱市に至り、材木業を選んで、種々研究習練の後、弱冠にして、住吉町に井戸重材木店を經營した時に大正元年である。爾來、樹風沐雨の二十有年。不撓よく難局を克服し、不屈よく荆棘を打開し、業礎堅く、業域廣く業績遂年に擧がつて、該地有數の店舗としての商勢を張るに至つた。しかるに昭和十一年、氏は店勢の一新を劃すべく、新に地を相して現地の發展に永續性あるを選び、一店を新設し整備して移轉を敢行すると共に、組織を合資會社に改め、氏は代表社員として一切を統率し、舊に倍蓰する精勵を以て、業運の隆昌に努力した爲に、移轉以來、年處僅に三年に過ぎずと雖、異動に伴ふ一切の困難を全く排除するに成功し、顯著なる業績を擧げ得て、業界驚歎の的となつた。現に店員三名を置いて日本郵船會社を主として、會社工場一流建築業者を顧客として、當地稀に見る活潑なる商況を呈する現況である。誠に氏の老舗なる手腕と、圓熟せる商才は、當地の發展と相俟つて充分に發揮せらるべく、その大成は業界の齊しく期待する所である。

塚田製材所
塚田達一
營業所 横濱市神奈川區南幸町三ノ八〇
電話神奈川九二七番
明治廿五年八月十五日生

塚田製材所

氏は山梨縣の出身で、東八代郡豐富村字高部が共の誕生地

である。年少より實業に志し、日本大學第四商業卒業後、發奮して材木業を修め、研鑽に鍛錬に幾年を經て、練達の手腕縱横の商才、頗る人の稱する所となつた。かくして、獨立の機會を、大震災直後に捉へて店舗を現地に設け、京濱の間に澎湃たる復興の氣運に乘じ、一擧して草創一般の難關を突破して、强固なる業礎を築くに成功した。誠に氏の活躍たるや實に目覺しき限りであつて、當時の業界に喧傳された所のものである。爾來、春風秋雨十有六星霜、業勢に一起一伏ありと雖、不撓不屈の精神を以て業績を擧げ、誠實を旨とする經營方針を以て顧客を獲得し、米材、ノーブル、三角等平滑製材を一手に販賣し、特に建具、襖材の販賣に於て、嶄然として斯界に頭角を現す等、その營業情勢の活潑なるは、當方面同業者間稀に見る所と云はれる。氏は至誠仁俠、よく衆望を負うて公共事業に參劃し、貢獻する所鮮からず、現に南北幸町隣組第二組長、並に岡野小學校後援會理事等の地位にあつて、銃後の爲めに、自治の爲めに盡瘁しつゝある。因に横濱興信銀行が氏の取引銀行である。

堤材木店
堤喜市
營業所 横濱市神奈川區南幸町三ノ六二
電話神奈川一四七七番
明治二十五年生

堤材木店

氏は東京府の出身で、南多摩郡原町田に誕生した人である家業が材木商なので幼時から氏は斯業の雰圍氣中に育ち、嚴父の手足となつて、家運の隆昌にいそしみつゝある中、遂に斯業に練達し、業勢に通曉したので、明治四十五年、現地に樫材造船材を主として取扱ひ、獨立開業した。爾來三十年に垂んとする長期間に、氏は業事成功の榮冠を獲得し、業礎は築いて磐石の如く、業域は造船業者一般を抱括して擴ぎなく逐年業績を擧ぐるに成功して今日に及んで居り、その活氣ある店勢は、業界一般の刮目する所である。氏の資性溫厚にしてしかも俊敏、よく町内の信頼を蒙り、現に推されて町會副會長の地位に在つて、町内自治の爲め、盡瘁する所鮮少でない因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

中川ボデー製作所
中川孝太郎
營業所 横濱市神奈川區北幸町二ノ六五
電話神奈川八〇二番
明治二十六年八月二十九日生

中川ボデー製作所

氏は程ヶ谷の舊家に生れた。永年生地に於て木工業を經營して、相當の業績を擧げつゝあつたが、慧眼なる氏は時世の變轉に鑑み、自動車ボデー製造業の遙に有利なるを看視し大正十年、舊業を清算して斯業に轉じ、奮闘よく一切の難關を突破し、業運の隆昌を招いだ。そこで昭和十年、現地に工場其他諸設備を完了し、移轉して以て事業の大擴張を行ひ、以て廣汎なる業域の需要に應じ、威勢舊に倍蓰する殷賑を極めて今日に及んだ。現に七名の從業員の外、臨時從業員數名を置いて甚だ繁忙である。氏は重厚にして俊敏、よく衆望を

蒐め、現に隣組第五組長として銃後の完備に奔走しつゝある。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

村田材木店

村田石三

明治十四年九月十四日生
營業所 横濱市神奈川區高島通一ノ八
電話神奈川一七五六番

當店は明治四十一年の創業に係り、已に二十年を經たる老舗として、當地方業界に著名である。店主村田石三氏は、堅實なる營業方針の下に、顧客本位を標榜して、奮鬪努力、よく今日の業礎を築いて、業域を廣汎ならしめ、逐次業績を擧げ、店勢甚だ順調なる現況を招いだ。しかも屢鍔壯者を凌ぐ意氣を以て、當地の顯著なる發展に乘じ、層一層の大成を目指して、邁進又邁進、誠に惟夫をして立たしむるの概がある。氏は店務繁劇の傍、各種公共團體の評議員、相談役等の任に就いて、自治の爲、銃後の爲、盡瘁する所鮮少でない。なほ氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

野田製材所

野田一平

明治十九年十月十日生
營業所 横濱市神奈川區子安通一ノ二〇二

氏は靜岡縣田方郡戸田村字一色の出身である。夙に實業に志して鄕關を辭し、横濱に出で、幾多の曲折を經たる後、造船業を經營し、建築業を兼ねて相當なる業績を擧げた。而して、大正十年十月、製材業に轉じて、現地の發展に着目し、店舗並に工場を設けて、內外各種の製材を經營するに至つた幾何もなくして大震災に遭遇せるも、直後の復興氣運勃然として興るに乘じ、活躍縱横、顧客本位を標榜して業域の擴張に成功し、確乎たる地盤を築いて大に業績を擧げ、しかも逐年その大を致して今日に及んで居る。現在從業員十名を置いて、殷盛なる店勢を張つて居る。氏資性慧敏にして、よく衆望を蒐め、現に町會相談役として、町內自治の爲盡しつゝある。なほ氏の長男氏は入つては氏の股肱、出でゝは在鄕軍人子安町分會第三班長として活躍して居る。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

栗島製材所

栗田善三郎

明治二十九年七月二十九日生
營業所 横濱市神奈川區岡野町一三

氏は靜岡縣の出身で、同縣濱名郡河輪村字中野に誕生した年少にして天龍川に出で、丸川製材所に入り、永年忠實業に服すると同時に、斯業の研鑽を怠らざりし結果、よく業務に通じ、業務に明に、自信ある手腕を有するに至つた。そこで大正十四年、復興の氣運澎湃たる現地に就き、その發展異常にして、建築軒を並べて新なる狀況に鑑み、製材の需要多くして斯業に有利なるを看守し、玆に店舗を設けて、製材商として獨立の第一歩を踏んだ。爾來、星霜十幾年。氏の活腕よく一切の荊棘を打開し得て、今や擅々たる大道を馳馬の驅くるが如き店勢を展開しつゝある。現在從業員四名を置く。氏は資性甚だ篤實、爲に選れて警防團配給班である。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

町田材木店

町田光藏

明治三十七年二月廿二日生
營業所 横濱市神奈川區子安通三ノ三七九
電話鶴見二八八五番

氏は埼玉縣の出身者で、同縣入間郡名栗村字下名栗に呱々の聲を擧げた。幼少十二三歲の頃、父母の膝下を離れて、鶴見に至り、生麥なる峰岸材木店に入つて、日夜怠らず、職に忠に、業に勵み、店主の信頼を蒙り、同僚の模範となつて十有六年。かくて業務に精通し、業勢に通曉し得たので、當地の發展日に顯著なるを相して、その斯業に有利なるを看取し一店を構へて內外各種材木を取扱ひ、獨立自營したのは、昭和七年の五月である。爾來、年處を經ること多からずと雖、顧客層を諸會社、工場に求めて、大量納入するに成功し、逐年、業礎を强化し、業績を向上せしめ、現に三名の店員を使用して、店勢大に振つて居る。なほ重厚なる氏の風格は頗る四隣の推す所となり、現に警防團の役員として銃後の自治に活躍しつゝある。因に氏の取引銀行は安田銀行である。

藤田材木店

藤田正一

明治十五年七月二日生
營業所 横濱市神奈川區南幸町三ノ九六
電話神奈川六九六番

氏は靜岡縣の出身で、同縣盤田郡淵川村字小川に生れた人である。年少にして故山を去り、横濱市に至つて幾多の波瀾曲折を經たる後、現地に砂糖樽製造業を經營し、相當の業績を擧げたのであるが、大正十二年の大震災に遭遇するや、心機一轉、材木業に轉業し、內外各種材木並に建具材を取扱つて、復興の氣運に乘じて奮鬪努力し、遂に今日の確乎たる業礎を築き業界の刮目に價する業績の向上を齎したのであつたかくて、今や店勢順調の一路を辿つて、その大成、近きにあるを思はしむるものがある。氏は頗る長者の風あつて町民の景仰する所となり、現に隣組々長に推されて、銃後の國防に盡瘁しつゝあるの外、岡野小學校後援會理事である。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行農工銀行である。

小林博材木店

小林博

明治三十七年二月三日生
營業所 横濱市神奈川區入江町二ノ一九六
電話神奈川五八五番

氏は兵庫縣の出身で、宍粟郡城下村に生れた。十六青雲の志を抱いて家鄕を辭し、大阪に出でゝ旭木材株式會社に入り精勵勤勉、職に忠に、業に力め、上長の信頼を蒙り、同僚の模範となり、任を横濱支店に受けて、更に一層の奮勉を致した。かくて十三年餘に亘つた後、鍛錬の手腕を振ふべく獨自

の壇上を欲し、現地に相して、店舗を設け、內外材木各種を取扱つて自營開業し、以て獨立の第一歩を印したのであつた時に昭和八年六月。氏二十九歳の時である。爾來、幾何の年處を經ずと雖、已に業基を堅くし、業域を擴め、堅實と誠實を標傍して、逐年業績を擧げ、店員七名を置いて、店勢大に張るの現況である。氏篤實にして四圍の德望を擔ひ、現に町會役員に推されて、公共自治の爲盡しつゝある。因に氏の取引銀行は安田、横濱興信兩銀行である。

佐々木竹店

佐々木辰之

明治四十一年四月廿日生
營業所　横濱市神奈川區大口仲町三一

氏は秋田縣の人で、平鹿郡植田村沼尻に生れた。年少志を抱いて鄕閭を辭し、横濱市に出でゝ小池竹材店に入り、精勵刻苦、業に服して勤勉、職に盡して忠實、よく店員の模範として幾年かを過したが、悉く店主の信賴を蒙り、一切の事務に與つてその股肱となつて更に幾年。店主の歿後、該店の營業を繼承して、獨立自營、多年の念願を玆に果し得たのであつた。時に大正二年、爾來、春風秋雨二十有六年。不屈不撓の東北精神を十二分に發揮して、活腕慧才を縱横に振ひ、遂に基礎を堅め顧客を獲得し、荆棘を拓いて、店勢順調の大路を馳る現況を招いたのである。氏は尙ほ春秋に富む。しかも其の才腕あつて、當地方の發展著しきと相俟ち、その大成は期して望むべきであらう。

共榮製材所

北澤金定

營業所　横濱市神奈川區西平沼町一ノ一
明治廿一年五月一日生

氏は長野縣の出身で上水內郡鬼無里村に孤々の聲を揚げた人である。年少志を抱いて故山を去つてより、幾多の波瀾を克服したる後、製材業の有利なるを知つて、斯業を具に研鑽し、充分の確信を攝んで立つや大正十三年の創業に係る京濱製材所を繼承して經營したが、昭和十二年、こはを共榮製材所と改稱。主として當地材木商を得意とし、顧客本位を標語とし、店勢甚だ順調なる一路を辿つて今日に及んで居る。當地の發展と相俟ち、氏の老練の商腕は、やがて當店をして大成せしむべく、業界齊しく刮目して期待する所である。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

末廣材木部

北澤甲

營業所　横濱市神奈川區岡野町一八
明治二十九年生

氏は長野縣の出身で、松本市近郊に生れた人である。年少青雲の志を抱いて鄕閭を辭してより、波瀾曲折幾變轉、遂に昭和電話建物合資會社を組織し、月賦建築業を經營せる關係上、材木に關する諸知識を吸收し、兼ねて材木商の諸業務に通曉する所があつたが、昭和十三年、轉業を敢行し、現地に

店舗を設けて內外材木一般を取扱ひ、問屋筋を顧客として、營業を開始した。爾來、草創の時代に屬すると雖、既に業礎磐石の如く安らかに、逐日業績を擧げて、今日の店勢を招來した。現に四名の店員を置き、中山政太郎氏敏腕を振つて支配人の地位に就き、甚だ活潑な現況である。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

新川材木店

新川清司

明治卅四年十二月二十八日生
營業所　横濱市神奈川區菊名町一一五番
電話神奈川二四一七番

氏は横濱市出身で、中區大岡町に生れた人である。幼少より家業の材木商に携つて、よく嚴父の手足となり、家業に孜々として努めた結果、學ばずして業務に通じ、習はずして業勢に明に、弱冠既に一廉の斯業練達の人となつた、そこで、昭和九年、現地の發展著しく、建築稠密、材木の需要多くして斯業に好望なるを看取し、店舗を設けて內外各種材木を取扱ひ、自營開業した。爾來、年處を經ること幾何ならずと雖既に草創の難局を克服し、强固なる業礎を築き、廣汎なる業域を廣め着々業績を擧げて、今日に及んで居る。現に店員二名を置いて、店勢甚だ活潑である。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

泉屋材木店

泉屋材木店
下條信夫

明治四十一年九月一日生
營業所　横濱市神奈川區南綱島町八二三ノ一

當店は、氏の嚴父清歳氏が、東京市芝區四國町に於いて、大正十二年の震災を機にして創業せるものに係る。信夫氏は當家の長男として生れ、幼少より嚴父を助けて家業にいそしみ、その手足となつて家運の興隆に盡した、かくて業務に精通し業勢に明達し得た後、箕裘を襲いて二代となるや、昭和二年、現地の近來發展の異常にして、工場會社の增築新設激增し隨つて材木の需要甚しきに着目し、移轉を敢行したのであつた。爾來、新に草創に等しき難局に當面せるも、氏の奮闘的精神と老練の手腕は、よくこれを打開し、遂に、十餘年の今日、牢固たる地盤を築いて、業績を擧ぐるに成功したのであつた。因に、今回の北支事變勃發するや、氏は應召して勇躍出征の途に就き、留守を守りしは嚴父清藏氏である。

伊勢萬材木店

廣武雄

明治四十四年七月十九日生
營業所　横濱市神奈川區南幸町三ノ一〇六
電話神奈川一七四九番

當店は三重縣飯南郡川端村栗野の人廣萬吉氏が、明治四十二年に創業したもので、三十年來の老舗として、當地業界に著聞する。武雄氏は、この家に生れて、幼少より家業にいそしみ、嚴父の手足となつて家運の隆昌に盡し、一方、業務の習得、研鑽に傾倒した結果、年少にして、商才煥發、手腕潑

制を以て鳴つた後遺鉢を襲いで、家業を宰領するや、昭勵拮据業基の强化に、業域の擴張にこれ力め、層一層の業績を擧げて老舗の貫錄を充分に示し、店勢頗る順調の一路を辿つて今日に及ぶ。年齢なほ若くして、氏にこの活腕驍才あり、その大成は、具眼者を俟たずして明である。なほ、篤實なる氏の風格は、四隣の信頼を得て、現に警防團警報班に推されて、銃後の國防に盡瘁しつゝある。

持田製材所

持田四郎

明治二十三年生

營業所　横濱市神奈川區浅間町四ノ二九三

電話神奈川二三八八番

氏は當市當町の出身者で、年少より幾多の曲折を經た後、製材業の有望なるを知つて、辛苦して斯道の修練を積んだ。而して、斯業習得、自營の確信を掴んで、主として內地材の製材を經營すべく、現地に工場を設け獨立して多年の念願を果し得たのであつた。時に昭和七年である。爾來、拮据黽勉奮鬪これ力めた結果、年處を經ること多からずと雖、期年ならずして草創一般の難局を打開し、業礎を堅め、業域を廣くし、逐年業績を擧ぐるに成功し、現に從業員五名を置いて、斯店勢盛大を招來した。しかもなほ、堅實第一を標榜して、斯業に精進しつゝある氏の大成は、期して近き將來にあるであらう。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

㊦ 大咲屋材木店

鈴木源太郎

明治卅三年十二月十五日生

營業所　横濱市神奈川區鶴見町一ノ八

氏は神奈川縣出身で、當縣鎌倉郡大正村字深谷に生れた人である。十八志を立てゝ鎌倉町に出で、廣瀬材木店に入つて精勵黽勉、職に忠に、業に努め、しかも斯業の研鑽怠らずして、八星霜を閲した後、大正十五年、現地の發展日に顯著なるに鑑み、斯業に有利なるを看取して、一店を構へ內外各種材木、並に銘木或はベニア板等を取扱つて、自立開業し、以て宿望を果し得たのであつた。爾來、春風秋雨十五年。氏の不屈の精神と不撓の手腕は、よく一切の難關を突破し得て、現在の確固たる業礎を築き、當方面業界刮目の業績を擧げて今日に及んで居る。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

鈴吉材木店

鈴木喬司

明治三十七年八月一日生

營業所　横濱市神奈川區綿花町一ノ四

電話神奈川一一七

氏は、横濱市出身で、中區六川町に呱々の聲を擧げた。年少より家業を以て身を立てんと欲し、幾多の曲折を經て、材木商の有望なるを看取し、乃ち、斯業の研鑽習得に專念する

こと多年の後、業務大小となく練達し、業勢巨細となく通曉し得たので、昭和四年二月一日、現地の發展顯著にしてしかも永續性あるを選んで一店を開設し、內外各種材木販賣並に製材を兼ねて經營し、多年の念願を玆に果すと共に、獨立の第一歩を踏んだ。正に氏の人生五五の春である。爾來、活腕よく幕年ならずして草創の難局を突破し去りしのみならず、奮鬪に明け、奮鬪に暮れて年を閲する十星霜。顧客本位を標榜せる堅實無二の經營方針は、今や十二分の效を奏し、現に船舶會社、工場等大口納入の顧客を主として業績を擧ぐるに成功して、業礎磐石の如く牢固たるものがある。誠に、氏の躍進の潑剌たるは、業界の齊しく瞠目する所であつて、不撓不屈の精神を有し、圓滑老熟の活腕を有し、加ふるに春秋に富める氏の大成は、正に近き將來ありと謂ふべきである。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

神奈川區榮町三ノ五七　電話(4)一七五九番　新川武二

同　南幸町二ノ四三　電話(4)二一六六番　東亞企業株式會社

同　七島町一〇　渡邊營司

同　平沼町三ノ一四二　電話(4)一五七八番　狩野庄太郎

同　子安通二ノ二二五　電話(4)〇九九三ノ一七八番　加瀨忠次

同　岡野町二九　電話(4)二一六六番　德增軍二

同　大口仲町六三六　神谷駒雄

同　角橋町三六六　電話(4)三三二八番　吉野忠通

同　二ッ谷町九　電話(4)〇三四〇番　高橋春藏

同　中丸三五　電話(4)二二九四番　長東忠

同　岡野町一五　電話(4)〇七七二番　安間善太

同　北幸町二ノ五〇　岸永作

同　幸ケ谷二一　島崎平次郎

同　神奈川通二ノ五一　電話(4)二七九四番　平田敬一郎

同　北幸町三ノ一四四　電話(4)一九二二番　平沼製材所

同　榮町三ノ六一　電話(4)二〇〇三番
平田釧太郎

同　北幸町一ノ六　電話(4)二三九七番
關　七造

同　榮町一ノ六　電話(4)一八八四番
關　好愛

同　岡野町一八
末廣材木部

磯子區

小 津乃國屋材木店

堀江小三郎

明治三十八三月十一日生
營業所　横濱市磯子區金澤寺前町六四
電話金澤二六番
工場　同市同區同町六五

氏は、當區金澤町釜利谷に生れた人である。年少十五歳の折より、實兄なる津乃國屋材木店主に就いて、斯道の研鑽と習練に努むること十八年餘の長期に亘つた後、事務習熟、業務通曉、頗る獨立の自信を得たので、現地の發展顯著にして斯業に有利なるに着目し、各種木材、竹丸太、並に製材加工を取扱つて開業した。時に昭和十三年六月。爾來、日幾何も經ざるに拘らず、誠に期年ならずして、氏の老練圓熟の手腕は、已に草創の難關を突破し終り、基礎は堅く、顧客相當數に上り、逐次業績を擧げて、業界驚歎の的となりつゝある。

現に店員二名、職工一名を常置して、店務繁忙春秋に富む氏の前途、當地方の發展と相俟つて、正に洋々たるものがある。

中 杉田屋材木店

横田秋三郎

明治十九年九月十五日生
營業所　横濱市磯子區原町八一
電話本局二二五六番

氏は、當市の出身で、磯子區杉田町に生れた。即ち、同地の杉田屋材木店は氏の本家に當り、同店主時藏氏は氏の令兄である。幼少より斯業の環境裡に生育した氏は、好んで父兄の手足となつて家業に精勵したのであつたが、弱冠既に業務練達、業務通曉の域に達したのであつた。そこで、現地の斯業に有利なるを看取して店舗を開き、内外各種材木を取扱つて營業を開始したのは、明治四十五年の事である。爾來、星霜を閲する三十年に垂んとし、店員三名を置いて店勢頗る張り、當方面の老舗として、一流店として、令兄と共に業界の双璧をなてつゝあつて、即ち横濱材木商同業組合副組合長たること五期に及んで居る。業界のみならず四隣町内の衆望の蒐る所推されて、町會衛生組合會長、警防團分團長、隣組々長、横濱市方面委員、根岸小學校後援會副會長兼會計等々の地位に就いて、公共自治の爲、銃後國防の爲、盡瘁する所鮮くない。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。なほ、當店店員岡本七藏氏は、明治卅一年三月十四日當市磯子區氷取澤町に生れた人であるが、當店創業當時より、實に二十有八

年の長きに亘つて店務に與り、その精勤を以て、業界に著名である。

田 田野井材木店

田野井茂

明治四十四年八月二十一日生
營業所　横濱市磯子區杉田町二一八四

氏は、當横濱市の出身で、中區日野町に生れた人である。家業は材木商だつたので、幼少より父君の手足となつて家運の隆昌に努めたのであつたが、傍ら、斯業の研鑽習得を怠らなかつた爲、弱冠にして已に一廉の材木商たるの手腕と才能を有するに至つた。そこで、當地方の發展の緯者にして、しかも恒久性あるに着目し、一店を鼓に開いて内外各種材木、竹木類を取扱ひ、自營の途に就いたのであつた。時に昭和十二年五月。爾來、なほ草創の時期を脱せずと雖、敏腕慧才、よく基礎を強化し、業域を擴張し、逐次業績を擧ぐるに成功しつゝある。氏は年齢なほ若く、しかも才能に於いて手腕に於いて、秀拔斯の如く、加ふに環境は發展の一路を辿るが故に、氏の大成は、業界共眼者の齊しく期待する所である。

中 杉田屋材木店

横田時藏

明治十七年十一月十五日生
營業所　横濱市磯子區杉田町二一九七番

當店は、當地に三代連綿たる老舗として、當地方業界に著聞して居る。而して、氏は二代新藏氏の長男として生れ、箕裘を襲いで三代の當主となつた人である、當區原町の杉田屋店主にして横濱材木商同業組合副組合長たる秋三郎氏は、氏の令弟に當る。氏は頗る長者の風貌あつてしかも慧敏、既に磐石の如き基礎に立ち、顧客層を更に擴大して止まず、第一流店として老舗として、業界に重きをなすに至り、令弟と共に業界の双璧を以て讃はれつゝある。而して氏は、公共自治の爲盡瘁する所鮮少でない。杉田町納税組合は氏の努力に依つて組織されたと云つて過言でなく爲に氏は推されて創立以來の組合長であり杉田町青年團長、警防團第四分團長として各々六ケ年餘の長きに亘つてその責を果し昭和十二年横濱聯合青年團及び磯子區長の表彰を受くる等々、其の功勞一々枚擧するに遑はない。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

上 富岡製材所

上野義隆

明治三十五年十一月二十二日生
營業所　横濱市磯子區金澤町富岡二三四三

氏は當横濱市の出身である。年少より實業に志し、幾多の曲折を經る後、製材業を習得すべく、當區福富町なる福富製材所に勤め、具に辛酸を嘗めて、斯業の技術を研鑽し練習し遂に練達の手腕を有するに至つたので、昭和十一年、當地の發展著しきに着眼し、地松材其他各種材木販賣並に製材、賃挽等の店舗を設けて、自營開始した。時に昭和十一年。爾來經る所の年處多からずと雖、期年ならずして、草創一般の荊

棒を打開し了し、業礎を固め、顧客を獲得し、店勢順調の一路を辿つて、現在に及んだが、今次の事變勃發するや、勇躍應召して出征し、令弟昌義氏（明治三十八年二月五日生）が留守を守つて店務を主宰し、氏をして後顧の憂なからしめつゝあつた。

竹材店

山森喜市

明治三十七年二月五日生
營業所　横濱市磯子區原町二一八一一番
電話本局一八一一番

氏は、當横濱市の出身者である。幼少十歳の折より、當地に店舗を開ける田中竹材店に入り、薪水の勞を厭はずして斯業の習練に專念すること多年の後、業務練達、業勢通暢の上田中竹材店の經營一切を繼承し、竹丸太、庭園材料等を取扱つて、今日に及んで居る。氏は溫厚にしてしかも俊敏、加ふるに奮闘的精神の旺盛なるあつて、業礎の强化、業域の擴張等、着々その業績を擧ぐるに成功し、現在の店勢甚だ順調なるを招來したのである。氏はこの繁忙の間、原町青年團幹事軍人後援會幹事、警防團區團副長、根岸小學校後援會理事等々、銃後赤子の分を盡し、公共自治の爲に盡して遺憾なく、頗る四隣の德望を蒐めつゝある。

辰巳屋材木店

邊延太郎

慶應元年生
營業所　横濱市磯子區杉田町二二九一

氏が當地發展の將來性に着眼して店舗を設け、各種材木販賣並に製材の經營を開始したのは、今より五十餘年前の事に屬する。この世紀に半ばする長期間、氏は終始一貫、不撓不屈の精神を以て業界の一起一伏に處し、悉く難局を克服し去つて、今や當方面第一流の店舗、著名の老舗として業界に重きを爲して居る。而して、現在、店務の第一線に立つて一切を主宰する者は長男廣太郎氏（明治三十六年一月三十日生）であるが、夙鑽なる延太郎氏の指導下に、專心家道のより隆昌を目指して邁進活躍しつゝある。誠に、老練と氣鋭のこの名コンビが、當店をして層一層の大成に導く事は、業界齊しく信じて疑はない所である。なほ延太郎氏は杉田小學校後援會理事として、廣太郎氏は町會評議員として、父子共に公共自治の爲に盡瘁し、四隣景仰の的となつて居る。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

秋山木材店

秋山元吉

明治廿三年八年廿三日生
營業所　横濱市磯子區峯町七〇八

氏は、當地の出身者である。元來秋山家は、こゝに居を定めてより、氏に至つて三代を經て居る當地切つての舊家であるのみならず、先代秋山浦吉氏は、日清戰役に出征して拔群の功を樹て、しかも壯烈極まる戰死を遂げ、赤子の分を盡して範を衆庶に垂るゝ等の事があつて、名聲江湖に隱れなき光榮の家柄である。而して、氏が、この地に木材小賣業を開始

したのは、大正十二年の頃であるが、爾來十六年の星霜を閲し、氏の篤實なる責性を反映した堅實なる經營方針が、美事效を奏して、基礎堅く、顧客多く、業績逐年に擧がつて、當地方面に於ける老舗の域に達して居り、中區なる石井製材所を殆んど專屬工場として店勢大に張り當地業界の第一人者として、斯界に重きをなしつゝある。かく、氏は、舊家の出にして且つ業界の重鎭であるが故に、四隣の德望甚だ高き者があり、曾つて上笹下衞生組合長を二期に亘つて勤めた外、青年團副團長、磯子區家屋稅調査委員に推され、現に、上笹下衞生組合副組合長、磯子區警防團第四分團副團長、峯町內會會長、峯町出征軍人後援會長、防火部長、峯町更新會副會長等、公共自治組織に重要なる地歩を占め、社會公衆の爲に、銃後國防のために、盡瘁する所甚大である。家業繁劇の傍、この重要職責に任じて恪勤。その誠實眞に景仰に價する。以て、氏の德望を蒐むる所以の、決して過然でない事を知るべきであらう。

杉浦材木店

杉浦清之助

明治卅年二月十三日生
營業所　横濱市磯子區金澤町屋町三四〇
電話金澤一五番

氏は當横濱市の出身で、しかも當町釜利谷に生れた人である。年少十五の時、志を抱いて父母の膝下を離れ、横須賀市に至り、今井材木店について、拮据黽勉、職に盡して忠實、業に努めて精勵、店內衆人の模範たること九ケ年餘。乃ち、業務練達、業勢明通の域に達したので、大正十一年、現地の發展斯業に有利なるを看取して店舗を設け、內外各種材木販賣並に製材を取扱つて、營業を開始し、宿望を鼓に果したのであつた。時に氏二十四歳の十二月である。爾來、奮闘努力に一貫して二十年に垂んとし、店員其他四名を置いて、店勢賑盛、當方面の一流店として斯界に重きをなすに至つた。氏は、其の劇務の傍、銃後後援會會長、金澤小學校後援會評議員の地位に在つて、銃後の自治に盡しつゝあつて、四隣町內の甚だ德とする所となつて居る。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

磯子區西根岸町三七七　電話(2)二三二八

小島金太郎

鶴見區

田村材木店

田村又三郎

勳八等

明治十七年一月三日生
營業所　横濱市鶴見區生麥町一三二七

氏は東京市出身で、王子區に生れた人である。年少より實業を志し、材木業の有利なるを知つて、斯道の習業に、多年努むる所あつたが、幾多の曲折を經て、昭和七年、現地に店

舗を開ける荒井材木店を引繼ぎ、內外材木各種を取扱つて開業した。爾來、星霜七年を閱し、經る處の年處多しとせざれど、圓滑の手腕、老練の商才、よく一切の難局を打開して、逐次業績を擧げ、基礎堅く、顧客多く、店勢順調の一路を辿る現況を招來した。しかして、氏の唯一無二の股肱たる長男由明氏は、今後の事變に應召、勇躍征途に就き、氏は壯擧銃壯者を淺々意氣を以て、店勢に孜々たる有樣である。因に氏は日露戰役に功あつて勳八等を賜つた。

㊐ 丸井材木店

井上文作

明治二十六年生
營業所 横濱市鶴見區鶴見町一二〇六
電話鶴見四二一四番

文作氏は靜岡縣田方郡宇佐美村の人にして、當店の一切を主宰する井上定市氏の嚴父である。定市氏は、明治四十四年九月十日、東京府下西多摩郡五日市町に文作氏の長男として生れた。年少にして上京し、蒲田區六郷の丸半材木店に入り斯業習得の辛酸を嘗むること多年に亘つた後、昭和十三年、現地の斯業に有望なるを看取して、內外各種材木を取扱つて獨立したものである。爾來、日尙ほ淺くして、草創の局面を脫せずと雖も、既に基礎を强化し得て、顧客日に多く、店員二名を使用して、店勢甚だ活潑。されば、氏の手腕を以てして、當地方の發展に伴ひ、その業績を層一層增大することは容易であつて、しかも年齡春秋に富む氏の將來の大成は、業界の齊しく刮目して期待する所である。因に當店の取引銀行は横濱興信銀行である。

合資會社 早川材木店

早川想一郎

明治四十四年生
營業所 横濱市鶴見區潮田町九六一
電話鶴見二〇四三番

當社は、大正十三年の設立であつて、同族の出資に係り、早川想一郎氏が年少の身を以て、鶴見區潮田なる大久保商店主後見の下に、代表社員となつたのであるが、星霜十五年を經たる今日、想一郎氏の手腕漸く冴え、當地の工場方面に牢固たる地盤を開拓するに成功して業績全く堅く、且つ、今、全盛を誇る大久保商店と密接なる提携の下に、堅實なる營業方針を執つて、着々業績を擧げつゝある。氏は未だ而立に滿たず、甚だ春秋に富むが故に、氏の圓熟せる手腕に加ふるに大久保商店主の熱烈なる後援を以てする當店の前途の、大に囑望せらるゝ所以である。因に、氏の取引銀行は、安田銀行である。

㊏ 巴屋材木店

巴大歲

明治十八年五月生
營業所 横濱市鶴見區生麥町一〇二一
電話鶴見二三六八番

氏は、當生麥町に呱々の聲を擧げた人である。夙に建築請

負業に從事して、相當の業績を擧げつゝあつたが、斯業と密接なる關係を有する材木業の有利なるを知つて、多年該業の研鑽を怠らず、遂に經營の自信を得て、大正三年、現地に店舗を設け、內外材木各種を取扱つて、敢然材木商に轉業したのであつた。爾來、春風秋雨二十星霜、氏の奮鬪的手腕は、當地方面の發展と相俟ち、逐年其の業績を擧ぐるに成功し、遂に諸會社工場並に建築業者多數を顧客とし、店勢大に振つて今日に及んで居る。因に、氏の取引銀行は、第一銀行である。

合名會社 井上材木店

代表者 井上良歲

明治二十五年生
營業所 鶴見區鶴見町佃野四〇〇
電話鶴見二八四八番

氏は神奈縣都築郡田奈村の出身である。幼少より家業の材木商に携り、父君のよき協力者として、家運の隆盛を計つた傍ら、斯業の研鑽を怠らず、年少にして、已に手腕商才共に一廉の斯業者たるに至つた。而立に及んで、現地の發展の永久性あるに着目し店舗を構へて內外材木各種の取扱を開始した時恰も大正十二年。震災復興の氣運、京濱の天地に漲るに乘じ、圓熟の手腕と、積極進取の精神とを以て、業礎を堅くし顧客を獲得し、逐年業績を擧ぐるに成功したが、昭和二年、合名會社に改組して、更に陣容を新にして着々店勢を張り、今や店員十三名を使用して、當方面一流の店舗たるの實錄を示すに至つた。傍ら氏は貨物自動車運輸業を兼營する等多角的商才を縱橫に振つて居る。しかも氏は資性慧敏にして篤實爲に町會理事に推され、繁務を忘れて公共の爲盡瘁する所あつて、町內四隣大に氏を德として居る。因に取引銀行は日本晝夜銀行、鶴見信用組合である。

㊐ 大久保商店

大久保豐四郎

明治四十五年六月十一日生
營業所 横濱市鶴見區潮田町一一二四
電話鶴見三一〇五番

氏は、東京府下の出身で、西多摩郡五日市町に生れた人である。年少にして横濱市に至り、親戚に當る鶴見區潮田なる大久保製材所に入り、忠實業に服し、精勵職に努め、業務精通する所あつて、店主の信用を博し、弱冠にして店務を繼承し、事務一切を主宰する事となつた。時に昭和七年である。爾來七年の星霜を閱し、工場會社方面舊來の顧客層を更に擴張するに成功し、店員四名を使用して、商號を改めて材木問屋を兼營して、店勢隆々たる一路を辿つて今日に及んで居る。因に氏の取引銀行は、横濱興信、第一の兩銀行である。

㊐ 丸富製材所

尾木原定雄

明治四十一年六月八日生
營業所 横濱市鶴見區潮田一〇五九
電話鶴見四一五二番

氏は徳島縣の出身者である。年少實業を志して、父母の膝下を離れ、遠く東都に上つて、材木業者たらんと欲し、斯道修習の爲め、深川區木場の濱本材木店に就き、多年、習業の辛酸を嘗め、職を守つて忠實、業に力めて精勵、上は店主の信頼を贏得、下は同業の模範となる。而して店主、昭和三年現地に製材所を設くるや、氏は拔擢せられて玆に勤務すること五ケ年。遂にその一切を襲承して、昭和十年獨立自營、多年の念願を、美事に果したのであつた。爾來、年處幾何を經ずと雖、舊來熟知の地盤を守つて、基礎堅く、顧客多く、着々業績を擧げ得て、店務頗る順調である。氏は春秋に富む。前途の洋々、玆に贅する迄もない。

㊀ 大島屋材木店

奥野宣男

營業所　明治三十一年六月二十二日生
横濱市鶴見區榮町三ノ八〇六
電話鶴見二九八二番

氏は山口縣の出身で、商號に示すが如く大島郡和田村に呱々の聲を揚げた。夙に建築業に從事して、朝鮮、滿洲地方に雄飛すること多年、偶々大震災直後東京を中心として復興の氣運澎湃たるを看取し、横濱市に進出して鶴見區に本據を置き、建築業に得意の手腕を振つて、業績を擧げ得て顯著なるものがあつた。而して、斯業に密接なる關係を有する材木業の有利なるを知つて、その研鑽漸く成るや內外材各種を取扱つて營業開始、材木商に轉じたのであつた。爾來、年處を經ること十年に足らずと雖、建築業當時の同業者を顧客とするに成功せるのみならず、建築に明なるが故に一般顧客の用材に利便一方ならずその信頼を蒙つて注文殺到、門前市をなすの店勢を張るに至つた。因に氏の取引銀行は第一銀行である。

津田屋材木店

高畑忠民

營業所　明治廿六年十二月廿四日生
横濱市鶴見區潮田榮町二ノ一三六
電話鶴見三六四三番

氏は徳島縣人である。即ち、徳島市津田町に生れた。津田を以て商號とする所以である。弱冠、志を抱いて鄕關を辭してより、幾多の曲折を經て東京に出で、深川區三好町なる大西製材所に入り、精勵黽勉、忠實業に服するの傍、斯業の研鑽を忘らず、遂に通達するを得て、現地に內外各種木材を取扱つて、材木商を創業した。時に昭和五年。爾來十星霜、活腕よく一切の艱難を克服し去つて、店員四名を使役して、店勢頗る順調なる現況を招來した。なほ氏は當地方の發展に伴ひ住宅の建築日に多きを加ふる趨勢を看取し、合名會社高久組を組織し、土木建築請負業を開始し、これ亦、相當以上の業績を擧ぐるに成功し、その前途甚だ嘱望されて居る。定に氏の如きは多角的事業家と稱すべきであらう。因に氏の取引銀行は第一銀行である。

㊁ 金子材木店

金子國之助

營業所　明治四十年生
横濱市鶴見區下末吉町五七九

氏は神奈川縣小田原町の出身である。幼少十三父母の膝下を離れ、遠く東都に上つて深川區木場なる西村幸藏材木店に入り、具に辛酸を嘗めて斯業の習得に力むると共に、忠實精勵、同輩の模範たること十有七年。遂に、業務に練達し、業勢に通曉し、大に獨立の確信を得たので、地を現地に卜して店舗を設け、內外各種木材を取扱つて自營開業したのは、昭和十三年三月、氏而立の年である。爾來、年處を經ずして、未だ草創の時代に在りと雖、氣鋭の精神と練達の手腕は、着々難局を克服して、逐次業績を擧げつゝある。氏は年齒なほ春秋に富む。これを當地の發展異常なると相俟つて、その大成は、期して待つを得べしとは、業界具眼者の齊しく認むる所である。

㊂ 横溝材木店

横溝清吉

營業所　明治卅八年一月五日生
横濱市鶴見區鶴見町一九三四
電話鶴見二三七一番

氏は、當地の出身である。年少の頃より實業を志し、材木業の有利なるを選んで斯業習得を欲し、十七にして上京、本所區なる萬富材木店に入つて、薪水の勞を厭はず、刻苦精勵職に忠に、業に勵み三年餘にして、一廉の習業成就。乃ち、家に歸つて、內外材木各種販賣、並に製材業を開始したのであつた。時に大正十五年、氏弱冠の頃である。爾來、星霜十五年、氏の奮闘的精神に練達の商腕は、顧客本位の方針並に當地異常の發展と相俟ち、基礎を强化し、顧客を獲得するに成功して、遂年業績を擧げ、店勢頗る見る可き現況を招來したのであつた。因に氏の取引銀行は、横濱興信である。

㊃ 竹内材木店出張所

竹内匡雄

營業所　明治卅年九月廿五日生
横濱市鶴見區鶴見町仙野七〇〇
電話鶴見二八八四番

氏は長野縣人で、同縣南佐久郡野澤町に誕生した。幼少の頃より、家業の材木業に親しみ、父君の手足となつて、店務に運搬に、辛苦を惜しまず家運の隆昌に盡す所があつたが、同時に、少年にしてよく練達の手腕を有し、甚だ業勢を理解するの識能を養成し得たのであつた。而して、昭和六年、出張所を現地に設け、野澤町なる本店の製材を賣捌くべく事業を擴張するや、氏は勇躍この重責を擔つてこの出張所一切を主宰し、星霜八年の今日、業績甚だ見るべく、店勢順調の一路を辿つて居る。當地の發展に鑑み、氏の才腕に徵し、その將來の多望なる、正に洋々春海の如きものありと云つて過言ではない。因に氏る取引銀行は、八十二銀行である。

㊀ 谷村材木店

谷村才二郎

明治卅一年三月十一日生
營業所 横濱市鶴見區潮田町一〇七九

氏は中京名古屋市の出身で。西區東柳町に誕生した。年少家郷を辭して上京し、深川區木場なる武市材木店に入り、具に辛酸を嘗めて、多年、斯業の習得に專念せる甲斐あつて、業務に練達し、業勢に通曉し得たので、横濱に出で、鶴見声尾崎製材所に勤め、同所の主任として、活腕を縱横に振ひ、業績見るべき者あつて、業界の具眼者をしてその將來を期待せしめたのであつたが、不幸同所の閉鎖に遭逢するや、氏は鼓て志を決して獨立開業、獨自の境地に活腕を振ふべく立つた。時に昭和十二年五月。爾來、年處を經ずして、なほ草創の域を脱せずと雖已に一切の難局を打開し、店勢順調なる道程に就きつゝある。なほ氏の取引銀行は、安田である。

㊂ 鶴田材木店

鶴田養太郎

明治三十一年生
營業所 横濱市鶴見區鶴見町伺野六二一
電話鶴見三三〇九番

氏は秋田縣の出身で、平鹿郡横手町に生れた。家は代々農を業とし、横手近在の豪家として著聞する。嚴父は鶴田龜太郎氏。氏は其の次男である。而して、氏は幼少より家業に志ありて、機會を伺ふ中、大正十二年大震災あつて、直後復興氣運關東の天地に張り、材木の需要頓に激增するや、慧眼なる氏は奇貨居くべしとなし、現地に進出して內外木材を取扱ひ、營業を開始したのは、大正十三年である。而して、驚く可き事には、氏の斯業に何等の經驗をも有せざる事にして、しかも、着々業礎を固め業域を擴め、逐年業績を擧げて、今日の大を致した。その奇才寔に驚嘆に價する。氏は風才堂々たる偉丈夫にして、資性仁俠、町內四隣の信頼を蒐むるのみならず、又三期に亘り横濱木材商同業組合評議員として、業界に貢献する所甚大にして、一方の重鎭たる地歩を確保して居る

㊃ 中村材木店

中村元三

明治二十六年一月七日生
營業所 横濱市鶴見區市場町一七三四
電話鶴見二八六一番

氏は當區矢向町に生れた人である。年少より家業に志し、幾多苦心の後、大正十一年煉瓦製造業を營み、幾ねて材木商を業として、業績を擧げ來つたが、翌年九月の大震災に遭逢し、次いで未曾有の復興氣運に際會するや、慧眼なる氏は、材木の需要激增に着目し、材木商專業に轉じ、發奮勉勵、基礎の强化に、顧客の獲得に專念精進した結果、遂に今日の盛大を招來した。爾來、十幾年、積極進取の方針下に顧客本位を標傍して終始し、現に四名の店員を置いて、當地方の第一流店として店勢大に張るの狀況である。氏は慧敏にしてしか

も溫厚、爲めに推されて町會の役員として公共自給の爲め盡す所鮮少でなく、四隣敬慕の的となつて居る。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

㊄ 山田竹材店

山田鐵五郎

明治廿五年一月十六日生
營業所 横濱市見鶴區鶴見町一九一六
電話鶴見二五五〇番

氏は、當神奈川縣に出身であつて、同縣都築郡新田村に呱々の聲を擧げた人である。年少にして家業を志し、幾多の曲折を經たる後、材木商の有利多望なるを知つて、斯業を極めんと欲し、上京して深川區木場に赴き、實地に就いて研鑽に專念し、切磋琢磨二ケ年にして、慧才よく斯業の巨細に通じ業勢の全般に明なるを得た。かくて、大正八年、現地の工場地帶として發展顯著、且つ永久性あるに着眼し、店舗を設けて內外各種木材、竹材、丸太類を取扱つて、營業を開始、以て、多年の志望を遂ぐるに成功したと共に、氏の人生に獨立の第一歩を印したのであつた。時これ大正八年。氏二十七歳の折である。爾來、星霜を閱する二十年。一起一伏は世の常であるが、氏の慧敏なる才腕と、氏の不撓不屈の精神は、よく一切の難局を打開し得たるのみならず、堅實を以て方針とし、顧客本位を以て標語とし、誠實を以て終始一貫せる氏の經營方法は、美事效を奏して、當代第一流店舗の名を當地方業界に高からしむるに至つた。されば、業界に於ける氏の德望は當然の事に屬し、三期に亘つて前横濱木材商同業組合代議員であり、二期に亘つて前横濱竹材商同業組合副組合長であり、現に横濱竹材同業組合組合長として令名を謳はれつゝある。氏は、かゝる繁劇寸暇なき身なるに拘らず、この間、町役員たりしこと五期に亘つて、四隣町內の信頼、一に氏に歸するが如くである。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行、第一銀行である。

㊅ 松尾材木店

松尾平八

明治卅一年四月一日生
營業所 横濱市鶴見區潮田日ノ出町四九一
電話鶴見二二八〇番

氏は福島縣白河町の出身である年少志を抱いて横濱市に出で、鶴見區なる濱田材木店に入り、斯業の習得に幾年を經たる後、鶴見木材株式會社に入り、忠實業に服し、且つ一層の業務研鑽に力めた。かくて、昭和五年一月、現地の將來發展性あるに着目して店舗を持ち、內外各種材木を取扱つて獨立開業し、以て宿望を果した。爾來、梯風沐雨十星霜、氏の奮鬪的精神と、卓拔なる敏腕は、基礎を强め、顧客を吸收し着々業績を擧げて、今日の盛況を招いた。氏は溫厚にして篤實、頗る町內四隣の信頼を得て居り、店勢繁劇なるに拘らず潮田小學校後援會評議員其他の地位に推され公共事業に盡して献身的なものがあり、その德望益々加はる有樣である。因に横濱興信銀行、安田銀行等が氏の取引銀行である。

牛頭竹材店

牛頭　春吉

明治廿年一月廿八日生
營業所　横濱市横見區鶴見生麥町五四五五
電話鶴見二八四七番

氏は、當地の出身者である。夙に竹細工業に從事して、當地方の人士に親しまれ、業績甚だ擧ぐるを得たが、竹細並に木材業のより有望にして、當地方の工業地帶としての發展に伴ひ、竹木の需要激增の傾向に在るに鑑み、遂に、大正七年竹材商に轉じ、鋭意業礎の强化に力めて、顧客獲得に專念したる後、昭和三年の頃より木材商を兼業して、奮鬪益々努めた結果、その甲斐あつて現在の店勢盛大を招來したのであつた。氏は篤實なる資性に加ふるに、當地方の故老なるが故に公共事業に携るべく推され、二回に亙つて國勢調査委員たりしのみならず、町會役員、消防組小頭、生麥小學校保護者會理事等の外、先君仙太郎氏の努力によつて結成せる生麥原町納稅組合長として盡力する等、益々四隣町内の德望を蒐めつゝある。因に氏の取引銀行は安田銀行である。

和泉豐材木店

木島　錦平

明治廿九年十二月六日生
營業所　横濱市鶴見區潮田町一一二〇
電話鶴見二一五七番

氏は東京出身で、芝區二本榎町に生れた人である。家業の木材商に携つて、嚴父の手足となり、家運の隆昌を計つて精進する一方、斯業の研鑽を怠らざる事多年。遂に、練達の商才、大人を後に瞠若せしむる底の、颯爽たる年少材木業者たり得たのであつた。そこで、震災直後の復興氣運を捉え、且つ現地の工業地帶としての發展に永久性あるを看取して一店を設け內外木材を取扱つて開業した。時に大正十三年。爾來星霜十五年を閱し、基礎は强固に、顧客域は廣く、店員六名を置き、當方面一流店に伍するの盛況を招いで居る。因に、氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

中丸材木店支店

杉山　佐助

明治卅八年九月十日生
營業所　横濱市鶴見區潮田町ノ田町五二〇

氏は本縣人である。即ち神奈川縣都築郡二俣川村字半毛谷に呱々の聲を揭げた。幼少十三にして父母の膝下を離れ。横濱市に出でゝ中區新山下町なる中丸材木店に入り。其に辛酸を嘗めて斯道修業に志し、且つ精勵職に盡して衆の模範であつた。されば、昭和四年一月、横濱材木商同業組合は、その精勤を表彰し紀念品を贈つたのであつた。かくて、十三年の長日月を當店に送つた後、氏は、現地をトして店舗を設け、內外各種材木を取扱つて中丸材木店支店として營業を開始した。時に昭和六年六月である。爾來、星霜十年に足らずと雖既に草創の難局を突破し了し、着々業績を擧げて今日に及ぶ店勢甚だ順調である。なほ氏は、繁務の傍、公共の爲に盡す

を忘れず、町會役員、隣組々長等の地位にあつて、町內の信頼を得て居る、因に氏の取引銀行は、安田銀行である。

內藤材木店

內藤　文二

營業所　横濱市鶴見區潮田榮町七七
明治四十年八月二十五日生

氏は德島縣の出身で、同縣勝浦郡小松島町田野に生れた人である。年少にして、志を抱いて鄕關を辭し、深川區木場なる濱本材木店に入り、斯業の研鑽を怠らざると共に、忠實職責に盡して十餘年一日の如く、實に、店員の模範を以て稱せられた。かくの如くにして、切磋琢磨の功成つて、手腕に才能に、一廉の材木商たるの自信を有するに至つたので、現地をトして店舗を開き、內外木材一般を取扱つて、獨立自營、以て宿望を果したのであつた。時に昭和八年一月一日、爾來氏の敏腕慧才は、よく草創の域を脫して、現に二名の店員を使用し、店勢順調なる現況である。氏年齡尙ほ若く、しかも發展に次ぐに發展を以てするこの環境にあつて、その大成は期して俟つべき者があらう。

吉竹材木店

久保　竹八

明治四十年五月五日生
營業所　横濱市鶴見區潮田一一〇八
電話鶴見二七七四番

氏は東京府の出身で、西多摩郡吉野村に生れた。幼少より家業の材木業に携り、よく父君の手足となつて家運の隆昌を目指し、同時に斯業の研鑽に怠らず、自得する所あつて、年少已に一家の力量を有したが、更に蘊奧を極むべく上京し、當時深川區木場に材木商を營める家兄に就いて、修業に專念し、練磨砥礪の曉、現地に出でゝ內外材木各種を取扱ひ、開業した。時に昭和七年。爾來、八星霜を閱して、既に一切の難局を克服し終り、今や、强化せる基礎に立つて、多くの顧客の信頼を獲得し、業績顯著にして、店勢頗る順調。現に店員二名を置いて、積極的方針の下に、大成に邁進しつゝある因に氏の取引銀行は、第一銀行である。

松本竹店

松本　隆之助

營業所　横濱市鶴見區生麥本宮町七五四
明治四十二年十一月十三日生

氏は大阪市東區德井町に生れた。年少十四歲、父母の膝下を離れて横濱市に出で、武內竹材店に入つて、精勵職に忠に刻苦斯道の習得に志し、遂に營々十有五年を超え、手腕練達店員の模範となつた。されば昭和十三年六月、現地の工場地帶として發展著しく、會社に工場に、住宅に、材木の需要激增せる傾向に着眼し、獨立を志して玆に店舗を構へ、竹材丸太各種を取扱つて自營開業すべく、武內竹材店を辭するに當り、當地同業組合は、その精勤を表彰して記念品を贈つたのである。爾來、幾何の年處を經ずと雖、堅實の方針、よく草創の難局を克服しつゝあつて、その業績の顯著なるは業界の

齊しく瞠目する所である。

京 小坂材木店

小坂　利雄

明治四十二年八月生
營業所　横濱市鶴見區生麦町七七七

氏は徳島縣の人で、勝浦郡横瀬村に呱々の聲を擧げた、年少十四歳にして遠く父母の膝下を離れ、上京して深川區木場なる京秀材木店に入り、精勵職に忠に、勤勉業に力め、常に店員の模範として、櫛風沐雨十二星霜を閲した。かくて、業務大小となく精通し、業勢亘細となく通曉し得たので、昭和十年一月、現地の發展目覺しくしかも永久性あるを卜して店舗を設け、内外材木各種の販賣を開始した。爾來、四年を經た今日、なほ草創の境致を脱せずと雖、奮闘努力、よく一切の難局を打開し得て、店勢頗る順調なるを得た。氏はなほ春秋に富む。その手腕と才能を以てすれば、當地の發展と相俟ち、その活躍目覺しきものあるべしとは、業界具眼の士の齊しく期待する所である。因に氏の取引銀行は、安田である。

鶴見町一九四一　　電話鶴見三一〇三
鶴見町一四五八　　市田柴次郎
　　電話鶴見二〇五七
　　西村定治

同　町一九一五　　電話鶴見三八〇〇
同　町一五七七　　吉田藤七
　　電話鶴見二七一九
潮田町一〇四七　　谷正平
　　電話鶴見二四七七
鶴見町四二六　　鶴見製材所
　　電話鶴見二七二四
同　町一二二八　　中村茂
　　電話鶴見二三六二
潮田東仲町二二九三　　松並明義
鶴見町一〇八二　　荒井菊夫
　　電話鶴見二五七五
　　社寺工務所

保土ケ谷區

紅葉屋材木店

萩原　頼宣

明治三十四年一月一日生
營業所　横濱市保ケ土谷區天王町三八
電話神奈川四六二八番

氏は、當神奈川縣の出身で、中郡成瀬村字下粕屋に生れた

人である。幼少より家業の材木商に携り、厚木中學に入つて勉學の傍父君を輔佐して家運の興隆にいそしみ、且つ斯業の研鑽を怠らず、爲めに年少にして業務練達、業勢通暢を以て稱せらるゝに至つた、そこで、十八歳にして當地に進出し、内外各種材木を取扱つて一店を經營したのであつた。時に大正八年。而して、才腕よく草創の難關を突破し終つた時、大震災襲來、續いて復興の氣運京濱の天地に澎湃たるに遭逢し機に乘じて、活躍奮闘正に目覺しきものがあり、業基强固、業域廣汎、業績大に擧つた。爾來十七年を經たる今は、店員五名を置いて、當地の一流店としての店勢を張るに至つた。氏は資性篤實にして任俠。衆に推されて四期に亘り町會に理事として公共自活のため盡瘁する所あり、又、警防團防火班長として銃後國防の爲赤子の分を果しつゝある。

三 加藤材木店

加藤　元助

明治二十二年九月三十日生
營業所　横濱市保土ケ谷區上星川町八九九

氏は、當神奈川縣の出身で、高座郡大和村字下鶴間に生れた人である。年少幾多の曲折を經た後、材木商を志して、刻苦斯業の研鑽に精勵して習得に成功した。そこで、横濱市に出で、久保町に原木販賣の店舗を開いて、獨立の第一歩を踏み、多年の念願を果したのであつた、しかして、昭和六年。現地の發展に恒久性あつて材木の需要激增の趨勢にあるを看取し、果敢なる氏は鼓に轉業し、製材を兼營して星霜九年を閲せる今日、四名の從業員を使用して、業礎堅く、業域廣く店勢順調の大道を辿りつゝあるのであつて、その不屈の精神と卓拔なる商腕は、業界驚異の的となつて居る。氏はこの奮闘の傍、警防團救護班員として、川島小學校後援會員として銃後のため、自治の爲、盡瘁しつゝあつて、四隣の信頼を蒐めて居る。

吉 吉原材木店

吉原　源太郎

明治二十三年十一月十五日生
營業所　横濱市保土ケ谷區保土ケ谷驛前
電話神奈川一九一八番

當店は、先代仁三郎氏が、明治四十一年現地に創業した店舗で、星霜三十年餘を閲する老舗である。氏は仁三郎氏の長男で、當店創業以前、神奈川縣鎌倉郡豐田村字下倉田に生れた。而して、氏十八歳の折、父君が現地に進出して斯業を開始したのであるが、氏は素より父君の手足となつて家業の發展を輔くると共に、斯業の習得に專念して弱冠已に練達の才腕を謳はるゝに至つた。父君を繼ぐに及び、更に奮闘努力、願客本位の標語の下に、業礎を堅くし、業域を廣め、盛に業績を擧げて、遂に今日の店勢殷賑を招來したのであつた。氏は篤實温厚、四隣町内の德望を蒐め、推されて警防團員、町會幹事、保土ケ谷小學校後援會評議員等の地位に就き、公共自治の爲めに盡瘁し、銃後國民の責務を果しつゝある。因に氏の取引銀行は横濱興信銀行である。

〈一〉 田中材木店

田中　重成

明治四十一年一月三十日生
營業所　横濱市保土ヶ谷區宮田町一二三二
電話神奈川一六八六番

當店は先代一八氏が、大正十三年。帝都近傍復興の氣運に乘じて創業したものである。氏は、一八氏の長男として生れ神奈川中學を出で、更に横濱高商を卒業せる秀才である。幼少より斯業の環境裡にあつて、業務練達の手腕を養成し得たのであつたが、遺鉢を繼ぐに及んで、活躍縱横、既に强固なる業礎を更に强化し、既に廣汎なる業域を更に擴張し、層一層の業績を擧げて、今や店勢頗る順調の進展をなしつゝある氏は學識高邁しかも謙讓の美を備へ、四隣景慕の的となつてゐる。現に推されて、町會評議員、警防團副司令、峯小學校後援會幹事等の地位にあつて、公共自治の爲、銃後の爲、盡瘁する所鮮少でなく、益々衆望を寛につゝある。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

田中製材所

田中　又五郎

明治二十年五月六日生
營業所　横濱市保土ヶ谷區和田町一六九

氏は九州大分縣の出身で、同縣南海郡西中浦村字吹浦に生れた人である。年少實業を欲して志を立て、鄕關を去つて遠く横濱市に出で、多年、具に辛酸を嘗めつゝも、不撓不屈の精神に終始して、遂に製材業を習得した。そこで、昭和二年現地の發展恒久性を有し、材木の需要激增斯業に有望なるを看取し、店舗を設けて製材一般に從事し、多年の念願を果すと共に、獨立の第一歩を踏み出したのであつた。爾來、春風秋雨十有三年。氏の奮鬪的精神と、練達の才腕は、期年ならずして草創一般の難局を打開し了せるのみならず、日に業礎を强化し、月に業域を擴張し、逐年業績を擧ぐるに成功し、現在店勢頗る順調なる一路を辿りつゝあるのである。

岩福井竹材店

福井　平治

營業所　明治二十三年二月二十八日生
横濱市保土ヶ谷區岩間町一〇〇二

氏は神奈川縣の出身で、中郡秦野町南秦野平澤に生れた人である。年少にして横濱市に出で、轉變曲折幾度かの後、當保土ヶ谷區に福井屋食堂を開設して、町内四隣に親しまれたものであるが、氏は其の傍、材木商の有利なるを知つて、斯業の研鑽を怠らず、遂に、昭和四年。現地に旗竿竹材丸太製竹販賣の店舗を開始轉業して、その宿望を達し得たのであつた。かくて氏は老練熟達の商才を縱横に振つて、基礎の强化を圖り、顧客を、横須賀並に川崎方面に獲得して大量納入に成功し、着々店勢を張りて業界稀に見るの殷盛なる商況を招來し、今や當地方一流の店舗である。氏は責性慧敏にして温潤頗る人の信頼を蒙る。現に警防團組長の地位にあつて、銃後赤子の分を守り益々德望を蒐めつゝある。

〈林〉 小山製材所

小林　豐次

明治三十九年十二月十四日生
營業所　横濱市保土ヶ谷區天王町一二五

氏は靜岡縣人である。即ち、榛原郡金谷町一四七に呱々の聲を揚げた。年少より實業に志して、製材業の有利なるを知り幾多の曲折波瀾を經て、斯業を研鑽習得し、昭和十年。現地の發展顯著にして、會社工場の增築新築夥しく、材木の需要激增の傾向あるを看取し、玆に店舗を設けて製材に從事し、多年の念願を果して、獨立の第一歩を氏の人生に印したのであつた。爾來、年處を經ること幾何もないが、已に草創一般の難局を打開し了し、主として市内材木店を顧客として、逐次業績を擧ぐるに成功し、現に從業員二名を置き、店勢順調を稱しつゝある。氏はなほ春秋に富む。その奮鬪的精神は、當方面の發展と相俟つて、その大成は期待さるゝ所である。

〈中〉 齋藤製材所

齋藤　彌七

明治二十七年三月六日生
營業所　横濱市保土ヶ谷區上星川町四八二

氏は當市當區なる天王町に生れた人である。年少にして、製材業を習得し、現地に店舗を開いて斯業を開始したのは、昭和六年五月の事である。爾來三年の間、奮鬪努力、草創の難關を突破し得たのであるが、現地の發展顯著にして、しかも永久性を有し、斯業により有利なるを看取するや、果敢を

なる氏は、折角の基礎を有するに拘らず、斷乎轉居して、新なる草創の難局に當面した。時に昭和八年である。而して、氏の不撓不屈の精神と圓熟老練の手腕は、些の遲滯なく一切の荊棘を拓き終つて、店勢をして擡々たる大道を驅るの順調に導いたのであつて、其の成功の誠に速なる、斯界の悉く瞠目する所である。氏はこの繁忙の中に在つて、或は警防團防火班部員として、或は川島小學校後援會員として、公共自治のために靈し且つ銃後の赤子たるの本分を十二分に守つて、四隣の信頼を贏得て居る。

篠崎材木店

篠崎喜三郎

明治卅九年十一月十日生
營業所　横濱市保土ヶ谷區和田町一三六

氏は、當神奈川縣の出身で、都築郡二俣川村字二俣川に生れた人である。年少十四歳の折、志を抱いて上京し、深川區木場の仲昇材木店に入つて、斯業の習練に孜々たること十年に餘つた後、刻苦精勵共の效を奏し、練達の手腕、明晳の商才、堂々一家の風格を有するに至つたので、店舗を現地に設け、材木の販賣並に製材を取扱つて獨立自營、以て、多年の念願を果したのであつた。爾來、十年に垂んとする星霜を閲せる氏の奮鬪は、一切の難局を打開し終つて、基礎を築いて强固に、業域を擴げて廣汎に、逐次業績を擧げて、今日の順調なる店勢を招來したのであつた。因に、氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

川崎市

井久材木店

井上久吉

明治二十九年生

營業所　川崎市南幸町二ノ一四二四

電話川崎三一七三番

氏は、年少より材木商を以て身を立てんと欲し、具に辛酸を嘗めて斯業の研鑽に專念したる後、精通の自信を得たので當地の工業地帶として發展著しく、會社工場の新設增築日に月に激增し、材木の需要甚だしくして、材木業に有利多望なるを看取し、こゝに店舗を設けて內外各種材木を取扱ひ、獨立自營、以て宿望を達したのは、昭和元年の事であつた。爾來、星霜十五年に垂んとして、氏の奮鬪的精神と圓熟せる手腕は、よく今日の業基を築いて、逐年業績を向上せしめ、店勢頗る領調なる現況である。氏は溫厚にして慧敏。よく四隣町內の德望を集め、町會長數期に亘つて、現に其の地位にあるのみならず、川崎市材木商組合に幹事として、業界の一方に雄視しつゝある。

井茂材木店

井上茂市

明治三十二年一月二十七日生

營業所　川崎市旭町二ノ四〇一

電話川崎三〇九四番

氏は、東京府下の出身である現地の工業地帶として、工業の建築並に增設甚だ頻りにして、木材の需要頗る顯著なるに鑑み、多年習練の手腕を振ふべく木材商を經營したのは、昭和二年十一月三日、氏二十九歲の折である。爾來、梯風沐雨十年を越ゆる星霜を閱し、精勵よく草創一般の荊棘を開拓して、顧客を所期の如く會社工業方面に多數獲得して、業礎を富嶽の安きに置き、活氣ある經營狀況の下に、店勢順調の一路を辿つて今日に及んで居る。寔に、氏の手腕を以てすれば當地の發展益々激甚を加へつゝある現況と相俟つて、前途の洋々たるは、衆目の睹る所である。なほ氏は在鄕軍人であり且つ、川崎市材木商組合に幹事として、業界に重きをなしつゝある。

井富材木店

井上富治

明治二十五年生

營業所　川崎市大島町二五六〇

電話川崎三三九二番

氏は東京府の出身で、西多摩郡五日市に生れた人である。一年少にして上京し、深川區木場なる小金屋材木店に奉公し、具に斯業習得の辛酸を嘗むること多年。業務に練達し、業界に通曉し、その手腕を振ふべく獨立の機會を窺ふうち、大震

災直後の復興氣運澎湃たるに乘じ、當地方の工場地帶として發展顯著なるに着目して、店舗を設け、內外材木を取扱つて自立自營、以て、宿望を果したのであつた。時に大正十三年爾來、孜々として家業に精勵すること十有五年に餘り、基礎堅く業績上り、現に店員二名を置き、店勢順調の一路を辿る現在、川崎市材木商組合に會計を司つて、業界に重きをなすの一方、四隣に推されて衞生組合長である。因に氏の取引銀行は、安田銀行である。

岩崎材木店

岩崎好雄

明治四十年生

營業所　川崎市大島町追分二七九一

氏は、茨城縣の出身で、同縣鹿兒島郡夏海村に生れた人である。幼少十二歲、遠く父母の膝下を離れて上京し、深川區三好町の吉岡製材所に入り、斯業の習得に具に辛酸を嘗めて十七年。遂に斯業に練達し、業界に通曉し得たので、昭和十一年、現地を相して一店內構へ、內外各種木材を取扱つて、獨立自營の一歩を、氏の人生に印したのであつた。爾來、星霜を閱する幾許ならずと雖、已に草創の荊棘を拓いて、基礎を固くし、顧客を廣くし、逐次業績を擧げ得て今日に及んで居る。氏はなほ春秋に富む。この活腕と奮鬪的精神とを以てすれば、當地方の工業地帶としての發展著しきと相俟つて、その大成、期して待つを得べきであらう。

橋爪製材所

橋爪高芳

明治二十九年生

營業所　川崎市稻田町字九二六

電話登戸一〇四番

氏は山梨縣の出身者である。年少より實業に志し、製材業の有利なるに着目して、幾多の曲折を經、横濱市神奈川區六角橋に斯業を開業し、逐年業績を擧ぐるに成功したのであつたが、昭和六年、現地の工業地帶として發展著しく、會社、工場等の新築增設激增の狀勢に着目し、移轉を敢行したのであつた。爾來、新分野を開拓して十年に足らずと雖も、老練よく、所期の工場、會社等多數の顧客を獲得し、業礎を確實ならしめ、業績を着々顯著ならしめ、堅實なる營業方針の下に、店員二名を置き店勢順調なる一路を辿つて、今日に及んで居る。因に、義弟氏は、調布に、中村製材所を經營しつゝある。

星澤材木店

星澤義政

明治四十年二月十九日生

營業所　川崎市大師昭和町一ノ一

氏は石川縣の出身で、同縣の小松町に生れた人である。年少十五六の折、志を抱いて鄕關を辭し、東都に出で、深川區木場なる岡鈴材木店に投じ、薪水の勞を厭はず、夙夜業務に

精勵すること十六年の永きに餘つた。かくて、業務大小となく練達し、業勢巨細となく精通したので、昭和十二年、現地の發展に着目して店舗を設け、內外各種材木を取扱つて獨立自營、以て多年の念願を果し得たのであつた。氏、時に三十歳の春三月である。爾來年處を經ずして、事業草創の域を脫しないが、氣鋭にしてしかも堅實を持する氏の經營方針は、着々としてその效を奏しつゝあつて、その前途の甚だ洋々たるを期待せしむる者がある、

加瀨賣場

加瀨賣場　德增政勝

明治三十八年生
營業所　川崎市大島三五
電話川崎二六三一番

氏は横濱市神奈川區の出身である。令兄に倣ひ材木業を志し年少より横濱市神奈川區子安通なる加瀨材木店に入り、職に業に、日夜怠勤懈らざる事多年。遂に店主無二の股肱となり、店員無双の模範となる。昭和九年、加瀨賣場として、現地に各種材木を取扱つて開業して以來、多年鍛錬の手腕を縱横に振ひ、當方面近來異常の發展に乘じ、會社、工場のみにても顧客多數を獲得して、期年ならずして草創の難局を打開するに成功し、業礎を磐石の如くならしめた。しかもたほ積極的方針に終始し、店員三名を驅使して、店勢の擴大に力めつゝある。しかして、氏は現に川崎市材木商組合に幹事として、業界に重きをなしつゝある。因に、氏の取引銀行は、第百銀行である。

乙訓材木店

乙訓材木店　乙訓孝多

明治三十五年十一月二十六日生
營業所　川崎市南河原一五八
電話川崎三〇四四番

氏は、東京府出身で、府下西多摩郡小宮村に生れた。年少十五にして、父母の膝下を離れ、川崎市に出で、鈴庄材木店に入り、具に斯業終練の辛酸を嘗むること八年餘に亘り、誠實業に服して店主の眷顧を蒙り、精勵職に奉じて同輩の摸範となつた。かくて、業務に精しく業勢に明となつたので、現地を選んで店舗を設け內外材木各種を取扱つて、獨立自營したのである。時に大正十四年。氏二十三歳の五月である。爾來、星霜十六年に乘んとして、氏の氣鋭進取の方針と積極俊敏の手腕は、よく今日の業礎を築き業域を廣め、逐年業績を上げて店勢大に張る現況を招いたのである。しかして氏は現に川崎市材木商組合幹事として、業界の一方に重きをなしつゝある。

田中商店

田中商店　田中秀吉

明治三十九年生
營業所　川崎市南幸町三ノ一六一六

氏は靜岡縣濱松市の出身である。高等小學校を優秀な、成

績で卒業した後、實業を以て身を立てんと欲し、材木商の有利なるを知つて、斯業習得の爲に、遠く鄕關を辭し、上京して深川區木場なる田中屋木材店に入り、夙夜勤勉、職に忠に業に努めて十有三年の星霜を閱したのであつた。かくて、業務練達、業務明通するや、現地の發展に着目して店舗を設け內外各種木材を取扱つて、經營を開始し以て、初一念を貫徹したのであつた。爾來、日尙ほ淺きに拘らず、凡に草創の難局を打開し得て、坦々たる大道を順調なる店勢を辿らしむる現況である。氏の手腕と加ふるに春秋に富む點は、現地の工場地帶として發展顯著なると相俟ち、氏の前途を頗る明朗ならしめつゝある。

矢崎支店

矢崎支店　勳八等　米長安雄

大正二年生
營業所　川崎市旭町一ノ一一
電話川崎二一九五番

氏は山梨縣人で、南亘摩郡增穗村に生れた。年少十五の頃父母の膝下を離れて上京し、京橋區月島西河岸通矢崎材木店に入つて、斯業の習修研鑽に從ふこと十年に餘り、勤勉にして店主の信賴を蒙り誠實にして同輩の畏敬する所になつた。かくて、業務に精通して、活腕大に鳴る時、偶々、店勢を擴張して現地に支店を設くるや、店は拔擢せられて、經營の一切を司る事となつた。時に昭和十三年六月一日、氏二十五歳である。もとより草創に際し、未だ其の緖に就かないが、氏の敏腕は、着々、難局を善處しつゝあつて、その前途は、當地の工場地帶として發展著しきものあるに鑑み、正に洋々と稱せられて居る。因に取引銀行は、第一銀行、金原銀行である、

根本製材所

根本製材所　根本音八

明治二十三年生
營業所　川崎市見榮町七七
電話川崎三七〇六番

氏は、當地の出身者で、年少より製函業に携り、斯業に顯る精達する所あつて、夙に製函業を獨立開業し、大に業績を擧げたのであるが、昭和六年、製材業を兼營して、更に奮鬪努力、精鋭業に倦まざる結果、現に從業員十八名を擁し、市內外の一流工場多數を顧客として獲得し、商況甚だ殷賑にして店勢大に張り、以て今日に及んで居る。當地の發展日に月に顯著なるに鑑み、氏の如き堅固なる業礎に立つて、多年練磨の商腕を以てすれば、その大成の、期して俟つべきあるは業界具眼者の齊しく認むる所である。

栗原材木店

栗原材木店　栗原喜十郎

明治三十八年一月二十六日生
營業所　川崎市渡田新町二ノ五九九

氏は神奈川縣の出身で、卽ち同縣郡築郡岡村に呱々の聲を

揭げた人である。小學校を卒業するや、横濱市に出でゝ、同市の一色材木店に入り、斯業の研鑽に專念すること、實に十八年の永きに亘り、悉く店主の信頼を蒙つた。されば、神奈川商工協會及び横濱材木商同業組合は、氏の精勤を賞して表彰する所があつた。かくて、業務練達の域に達したので、昭和十二年十一月、現地を選んで店舗を設け、內外各種木材を取扱つて獨立自營したのである。時に氏而立を超ること二歲。爾來幾何の年處を經て居ないが、已に草創當初の一般的な難局を打開して、店勢甚だ順調なる一路を辿つて今日に及ぶ。しかも、氏は川崎市材木商組合幹事として、業界に重きをなして居つて、其の前途、頗る期待せられつゝある。

㊅ 美那斗屋材木店

鷹野企乃男（菊雄）

大正九年九月十八日生

營業所　川崎市本月四六〇

氏は東京市の出身で、世田ヶ谷區玉川奥澤一ノ三一一なる港屋材木店が、その生家である。幼少より家業に携つて、斯業に練達する所があつたが、小學校を出て、後、攻玉舍商業學校に學び、拔群の成績を以て同校を卒業した。偶々、港屋店主事業の擴張を行ひ、當地の工場地帶として發展著しく、材木商の有利多望なるに着目し、一店を設けて美那斗屋材木店を新設するや、弱冠に足らざる氏は、勇躍その經營の任に當つた。時に昭和十三年七月である。爾來日尙淺くして、業礎、業績共に着々見る可きものがあり、少壯潑剌たる氣鋭進取の營業振りは、業界の新進として、甚だ目覺しきものがあつて。誠に氏の前途洋々と云はざるを得ない。因に、氏の取引銀行は、日本興業銀行である。

㊄ 藤清材木店

藤清枝

明治四十三年二月二十一日生

營業所　川崎市久坪五〇

氏は茨城縣出身で、同縣鹿島郡村中新田に生れた人である小學校を卒業するや十三にして父母の膝下を離れ、上京して蒲田區なる土屋材木店に入り、夙夜懈らずして、斯業の研鑽に努むること十有六年に餘り、忠實精勵、店員の模範となつた。されば、大東京木材商業組合蒲田支部は、氏を表彰して銀盃一組を贈つたのであつた。かくて、氏は拔擢せられて、同店實場に主任となるや、よく圓熟の才腕を振つて、同實場をして、京濱間有數の店舗たらしむるに成功したのである。而して、主家の後援の下に、現地に一店を設けて、獨立自營の第一歩を印したのは、實に昭和十四年三月二十八日の事であつて、草創日尙ほ淺きに拘らず、その活氣ある商況は、業界の具眼者をして刮目せしむるものがあつて、氏の前途こそ嘱望に價するものがあらう。

㊇ 藤井材木店

藤井武志

明治四十一年十二月十二日生

營業所　川崎市東蒲田一ノ一四二八

氏は東北青森縣の出身である。即ち、同縣上北郡三澤村に呱々の聲を擧げた。年少十五、青雲の志を抱いて鄕關を辭し上京して、深川區なる相羽鞴造材木店に入つて、夙夜懈らず忠實業に服し、勤勉職に努むること十有三年に餘つた。かくて、業務に精通し、業界に通曉した後、昭和十一年、當地の工業地帶としての發展著しく新業に有利なるを知つて、選んで一店舗を設け、內外材木各種を取扱つて、獨立經營、以てその志す所の一端を實現したのであつた。時に氏二十九歲の春四月。爾來、草創の城を未だ全く去らずと雖、已に基礎磐石の如きを得て、業績日に月に擧がり、店舗順調の一路を辿り得るに成功し、且つ、川崎市材木商組合に幹事として、業界の一方に覇を稱しつゝある現況である。因に、氏の取引銀行は、第百銀行である。

㊎ 寺門製材所

寺門幾平

明治二十三年四月二十八日生

營業所　川崎市淺田町一ノ八〇
電話川崎二九八六番（工場）
二九四〇番（自宅）

氏は茨城縣の出身者である。年少にして材木商を志し、幾多の曲折を經たる後、大正十三年五月、大震災直後の復興氣運醞釀たるに乘じ、材木の需要激增に應じて、斯業經營に着手し、爾來、着々として業績を擧ぐるに成功して、今日に及んだ。まことに、今日あるを得た櫛風沐雨の十幾年の氏の奮闘こそ、目覺しき限りであつて、今日の店勢頗る順調の一路を辿るの、決して偶然ではない。なほ氏は資性篤實にして溫厚、頗る衆望を得て居り、現に茨城縣人會副會長であるの外に、神奈川縣外材製材工業組合理事、川崎市材木商組合會計等の地位にあつて、業界に重きをなして居る。因に、氏の實弟芳郎氏は、當店の支配人として、氏を輔佐しつゝある。

㊂ 秋山材木店

秋山通治

明治四十一年十月十一日生

營業所　川崎市上丸子六四八
電話中原一四三番

氏は神奈川縣の出身で、足柄下郡大窪村に呱々の聲を擧げた。年少十六、青雲の志を抱いて鄕關を辭し、小田原町に出でゝ、竹廣材木店に仕へ、日夜怠らずして斯業の習得研鑽に專念する事九年に餘つた。かくて、商才と商腕を養ひ得て玆に獨立を企て、現地の發展顯著なるに着目して店舗を開き、內外材木各種並に製材一般を取扱つて、自立自營、以て、初一念に徹したのであつた。時に昭和八年。氏二十五歲の八月である。爾來、年處を經ること多からずと雖、氏の進取的精神と積極的手腕は、一切の難局を克服して、業績を擧ぐるに成功し、現に從業員二名を置いて、店舗、當地方一流を稱する現況である。因に、氏の取引銀行は、川崎信用組合である。

荒井材木店

荒井時之助

明治四十一年一月卅日生
營業所　川崎市大師東門前町三ノ一〇

氏は東京市の出身で、木所區松倉町に生れた人である。小學校を卒業するや、實業を志し深川區木場なる熊野屋材木店に入り、斯業の習得に努めた。乃ち夙夜怠らず、研鑽に鍛錬に星霜を閲する正に十二年。遂に、業務に精通し業勢に明達する所あつて、玆は獨立を欲し、現地の工場地帶として斯業の有利なるに着目し、店舗を設けて内外各種材木を取扱ひ、昭和十年十二月、自立經營、以て多年の念願を果し得たのであつた。爾來、年處を經ること幾何ならずと雖、已に業礎を强化し、業域を擴張し、逐年業績を擧げて今日に及んで居るしかも氏はなほ春秋に富む。且つこの敏腕あり。加ふるに當地工場地帶の發展顯著なると相俟つて、氏の前途は正に坦々たる大道を驅るに駟馬を以てするが如きものがあらう。

佐川材木店

合資會社　佐川平吉

明治十一年四月三日生
營業所　川崎市新川通一七
電話川崎二五四八番

氏は當川崎市の出身である。弱冠にして當市大川通なる老舗餘庄材木店に入り、恪勤精勵、業に務に一日も忽にせざること、實に前後二十八年。夙に主家の樞機に參與し、その店運の隆昌を致し、辭してなほ現に同店の不動産其他を管理して居る。以て、主家の氏に對する信頼の深きを知る可きである。しかして、大正十五年五月五日以來、氏は現地に内外材木を取扱つて獨立して、已に星霜十五年を閲し、當方面の第一流を以て稱せらるゝ店勢を張つて今日に及んだ。なほ、昭和十三年川崎市材木商組合に當つて、氏は率先して盡力する所多大なる者があり、爲に業望を負ふて、同組合副會長として、業界の一方に覇を唱へつゝある。なほ、重厚の風格よく四隣の推す所となり、現に町會長、鄉社稲毛神社氏子大總代警防團分團長、新川通衛生組合長等の地位に就いて、公共自治に盡すこと甚大。因に氏の長男圭司氏は東京市深川區木場に材木商を營み、同地前金材木店は、氏の姻戚に當る。

紀伊國屋材木店

東國次郎

明治四十一年八月十七日生
營業所　川崎市東渡田四ノ一六四六
電話川崎三九五八番

氏は三重縣の人で、北牟婁郡長島町に生れた。嚴父は東辰藏氏。氏は其の二男である。幼時より家業の材木業に携り、嚴父を輔佐するの傍、斯業の習修研鑽を怠らなかつた結果、年少已に卓拔の手腕を鍛錬し得たのであつたが、更に昭和四年、この地に至つて池田町なる丸大材木店に入り、練磨五年の後、はじめて、現地に内外材木一般を取扱つて獨立開業したのであつた。時に昭和九年、氏二十六歳の折である。爾來

星霜五年、經る所の年處多からずと雖も、少壯潑剌たる營業の方針に終始して、着々效果を收め、己に草創の難關を突破して、坦々たる大道に就き、店員四名を置いて、店勢頗る順調である。氏は資性重厚にして四隣の德望を蒐め、町納税組合副會長、隣組群長等に推されて居るのみならず、川崎市材木商組合幹事として、業界に重きをなしつゝある。因に、氏の取引銀行は、第百銀行である。

木所製材所

木所辰五郎

明治十六年五月二十七日生
營業所　川崎市下作延四九五
製材所　同　同　四四二

氏は當地の出身である。年少より實業に志し、當地の工業地帶として會社、工場の新築增設著しく、材木の需要日に月に激增する傾向に鑑み、製材商の有利多望なるを知り、幾曲折の後明治四十四年、工場並に店舗を構へて、獨立して斯業を開始したのであつた。爾來、春風秋雨、星霜を閲する三十に垂んとして、業界一方の老舗として、繁盛なる店勢を示し店員三名を使用して、屋一屋、業礎の强化。業域の擴張を目指し、積極的方針に終始して、矍鑠壯者を凌ぐ意氣を示して居る。なほ氏は、神奈川縣木材業組合聯合會稲毛支部に會計を司つて、業界の衆望を蒐めて居る。

丸仙材木店

來住野仙之助

明治四十一年生
營業所　川崎市大島町二一六
電話川崎二五九八番

氏は東京府の出身である。西多摩郡五日市町に生れた人。年少十二歳にして父母の膝下を離れ、上京して深川區富岡町の合名會社内山材木店に奉公して、薪水の勞を厭はず、業務に精勵し、具に斯業習得の辛酸を嘗めた後、業務に精通し業界に明達して、昭和十一年、現地の發展に着目して一店を構へ、内外材木各種一般を取扱つて、獨立自營、以て多年の念願を果したのであつた。時に氏二十八歳。爾來、年處を經ること幾何ならざるも已に、活腕よく、市役所其他官廳一流會社、工場方面に顧客層を獲得し、大に業績を擧げ、店勢大に順調なる歩武を進めて今日に及んで居る。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

丸金材木店

來住野金藏

明治三十四年生
營業所　川崎市旭町二ノ二一八
電話川崎二七九六番

氏は東京府下の出身で、西多摩郡增子村に生れた。年少にして實業を志し、特に材木商の有利多望なるに着眼して、斯業習得を念とし、東京市に出でゝ蒲田區六鄉橋際丸半材木店に入り、具に習練の辛酸を嘗むること多年にして、業に精しく務に明かな商才商腕な鍛錬し得たので、玆に宿望を果すべく、現地を選んで内外各種材木を取扱ひ、獨立開業したので

ある。時に昭和九年、氏三十三歳の折である。爾來、幾何の年月をも經て居ないが、已に草創一般の難關を突破するに成功し現に二名の店員を置いて、店勢順調なる一路を辿りつゝあるのである。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

北島材木店

北島藤吉

明治四十一年一月十一日生
營業所　川崎市大師町北東

當店の本店は、東京市蒲田區矢口町七二五の北島材木店であるが、氏は、其の地に生れ、其の店に育ち、夙に家業に携つて、學ばずして斯業に通じ、習はずして斯界に明かに、年少已に一廉の材木商たるの商腕と商才を具備するに至つた。乃ち、活手腕を縱横に振ふべく、昭和八年現地に一店を設けて、獨立したのである。時に氏、二十五才、人生五五の春。爾來、氏の少壯氣鋭を經營方針に反映せしめて、積極進取に終始し、草創の難關を突破して、駟馬坦々たる大道を行くが如き店勢を招來し、その前途の洋々、正に刮目して俟つべきものである。なほ氏は而立にして、已に川崎市材木商組合に幹事として、業界に重きをなしつゝある。

小林勇商店

小林勇

明治四十四年三月卅日生
營業所　川崎市戸手町一ノ二九

氏は東京府西多摩郡檜原村小林象吉氏の三男として明治四十四年三月生れ夙に材木商を志し昭和四年蒲田區東蒲田谷合嘉一郎商店に入り、業務に從事すること實に十二年の永に亘り、其間得意先並に主家より絶大なる信用を博し、主家に貢獻するや多大なるものあり、昭和十五年五月愈ての宿望が實現し、愈々現地に獨力營業を開始さるに至つた、創草日尚ほ淺きに拘はらず著々業績擧がり、今殷振産業の中心點とも稱すべき、川崎市の建築業者へ多大の信用を博し、其の發展振り、實に目覺しきものがあり、氏の前途實に洋々たるものあるのは要するに氏の技倆、手腕の優れたるは勿論なるもその反面に得意先本位の堅實な營業振りが大なる原因を爲し居るので今後氏の動靜は業界各方面重視の的となつてゐる。因に氏は大東京材木商業組合より勤續並に模範店員として表彰及び記念品の贈呈を受けてゐる。

齋藤材木店

齋藤勘藏

明治三十二年生
營業所　川崎市渡田二ノ四

氏は東京府の出身で、府下西多摩郡三田村に生れた人である。年少十二才の折、家郷を辭して川崎市に出で、當市の鈴庄材木店に入つて、斯業の習得に研鑽に拮据勉勵、實に前後二十二年の永きに亘つた。爲に、同店の樞機に參劃して、店主無二の股肱となり、同輩第一の模範となる。かくて、業務徹に入り細を穿つて精通し、業界大となく小となく掌を指すが如くなつたので、獨自の手腕を振ふべく別天地を開拓せんと欲し、昭和八年、現地を卜して一店を設け、内外材木各種販賣を取扱つて獨立したのであつた。爾來星霜幾何ならずと雖、老練の手腕よく草創の荆棘を拓いて、今や坦々たる大道を驅るが如き店勢を贏得るに成功し、川崎市材木商組合に幹事として、業界に重きをなしつゝある。

志澤材木店

志澤良助

明治二十三年生
營業所　川崎市元木町一
電話川崎二九一一番

氏は當地の出身者である。年少にして實業を志し、材木業の有利を知つて、其の道に身を立てんと欲し、業務習得の爲當地の鈴庄材木店に入り、拮据勉勵、職に忠に、業に努めた結果、業務に頗る精通し業務に甚だ明かとなつたので、多年の宿望を果すべく、現地に一店を設け、内外各種材木を取扱つて獨立したのであつた。時に大正十五年。氏二十六才の折である。爾來、十有五年の奮闘は、よく一起一伏の業界變轉に堪へて、遂年業績を擧ぐるに成功し、店勢順調の一路を辿つて、今日に及んで居り、現に、川崎市材木商組合に幹事として、當業界一方の重鎮としての地歩を確立しつゝある。

平野木工所

平野勝司

明治二十九年生
營業所　川崎市久根崎二二九
電話川崎二六九七番

氏は仙臺市の出身者である。年少幾多の曲折を經た後、製材並に材木業の有利多望なるを知つて、鋭意斯道の修業研究に努めた結果、遂に業務練達、業務通曉して、獨立自營の念願に萌した。偶々大震災直後、帝都復興の氣運動くや、俊敏なる氏は、この機を握んで立ち、現地に製材一般を取扱つて自己の店舗を經營し、以て、宿望を果したのであつた。時に大正十三年、氏二十八歳の折である。爾來、星霜を閲する十七年の氏の奮闘は、よく業基を堅め業域を廣め、逐年業績をあげて、今日の盛大を致し、常傭十數名を置いて當方面一流の店勢を張るに至つたのである。しかも、當方面の工場地帶として發展著しきに伴ひ、業勢益々順調を稱しつゝある。因に氏の取引銀行は、横濱興信銀行である。

庄司製材所

庄司定七

明治廿二年三月十四日生
營業所　川崎市生田一一七三
電話登戸三七番

氏は、神奈川縣人で、舊橘樹郡橘村に生れた。當川崎市上小田中なる庄司材木店主は、氏の實兄に當る。年少より實兄の迹を踏んで材木商たらんと志し、山元に出入して斯業を根底より研鑽する事多年。大震災直後復興氣運横溢せるに際し現地の工場地帶として發展顯著なるに着目して、機即ち至るもなし、店舗を玆に開いて、内地材各種の製材業を開始した

時に大正十四年。爾來、氏の驅命の奮闘は、よく草創の難關を突破して、遂年業績を擧ぐるに成功し、業礎堅く、業域廣く、星霜十六年を閲して、店舗甚だ順調なる現況である。氏の老練を以て、當方面の發展に乘じつゝあるを以て、其の前途の洋々たるは、玆に敷々するを要しない。

合 庄司製材所

庄司石五郎

明治十二年一月十日生
營業所　川崎市上小田中一五七三
電話中原三五番
支店　同　同　本目
電話中原一三八番

氏は神奈川縣出身で、舊橘樹郡橘村に生れた人で、同市生田なる庄司製材所主は、氏の實弟である。弱冠、已に材木商を經營し、据拮精勵、夙に第一流店としての榮譽を獲得したのであつたが、大正二年、現地に移轉し、前後四十餘年に及ぶ老舗として、其の名、業界に轟甚する。取扱ふ所は、內地材各種專門の製材で、從業員十餘名、襷鏸たる氏の指導下に長男義藏氏（明治四十四年七月二十五日生）全般の采配を振り、店勢發剌、誠に當地方の一流店、業界の老舗として殷盛を極めて居る。因に氏は斯界の德望を集めて、永年に亘り稲毛材木商同業組合長であつた。なほ、氏の取引銀行は、川崎信用組合である。

合資會社 鈴庄材木店

代表社員　**鈴木庄三郎**

明治卅二年九月二十一日生
營業所　川崎市古川通二〇
電話川崎二〇一八、三〇六四番
二〇一三番（自宅）

當店は、先々代鈴木庄三郎氏の創業に係り、資産三百萬を稱する京濱第一流の老舗として、其の名、天下に轟甚する。氏はこの環境に生育して、夙に斯業に通曉する所があつたが嚴乎たる家風に從つて、父母の膝下を離れ、東京市深川區木場の小金屋材木店に入り、薪水の勞を厭はずして、斯業の蘊奥を極むべく具に辛酸を嘗むること多年業成るに及んで、乃ち家業に就いた。後、箕裘を襲ぐに及んで、保二を改めて庄三郎を襲名し、三代の當主として敏腕を縱橫に振ふことゝなつた。かくして、老舗貫祿を保つて、店勢益々殷盛。現に川崎材木商組合長として、業界衆望の蒐る所、分野の重鎭である。

鈴成材木店

鈴木成一

明治卅一年生
營業所　川崎市大島蔬菜通
電話川崎二〇六三番

氏は、栃木縣の出身である。年少志を抱いて鄕關を辭し、上京して磐城セメント株式會社に勤務すること多年。而立に

及んで、材木商の有利なるを知つて、敢然轉業し、現地を選んで店舗を設け、內外材木各種を取扱つて問屋を開始したのであつた。時は昭和三年春二月、爾來、轉業草創二重の難局に、奮闘よくこれを打開し得て、基礎を强化し、顧客層を開拓し、遂年業績を擧ぐるに成功し、星霜十五年を閲して、店員四名を使用し、店勢頗る順調の一路を辿るに至つた。氏は資性篤實頗る他の信頼を蒙り、町會副會長に推されて、公共自治の爲、盡す所甚大であつた。しかして、今次日支事變勃發するや、應召して勇躍出征の途に就き、第一線に立つて邦家の爲、身命を賭しつゝあり。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

㋕ 鹿島屋材木店

鈴木歡一

明治十年六月十五日生
營業所　川崎市溝ノ口町二三
電話溝ノ口三四番

當店は、先代福次郎氏の創業に係り、當地方業界の老舗として著名である。氏は福次郎氏の男で、斯業の雰圍氣中に生育し、幼少より父君の手足となり、家業興隆に專念する事多年。學ばずして明に、年少已に練達を以て稱せられた。後、箕裘を襲いでより、精勵黽勉、磐石の基礎に立つて、顧客の獲得に、業績の向上に、層一層の奮闘努力を致し、著しく、業界に與望あつて現に神奈川縣木材業組合聯合會稲毛支部長の地位に就き、斯界の一方に雄視しつゝある。

㊫ 高津製材所

鈴木源七

明治廿二年三月生
營業所　川崎市溝ノ口五二八

氏は靜岡縣の出身で、同縣小笠郡原谷村本鄕に呱々の聲を揚げた人である。年少より實業に志し、製材業の有利多望なるに着目し、幾多の曲折を經て、斯道に練達通曉したる後、機會を得て横濱市內に製材業を獨立經營するに成功し、甚だ業績を擧げ得ること多年。昭和五年、現地の工業地帶とし、發展著しく、材木の需要頓に激增しつゝある傾向に着目して移轉を斷行してより、玆に星霜を閲する十年を垂れ、業礎全く堅く、業域日に廣く、遂年業績を擧げ得て著しく、三名の從業員を置いて、店勢甚だ順調の一路を辿りつゝある。氏は資性篤實にして、頗る町內四隣の信頼を蒙り、現に、推されて警防團に役員として銃後の自治に盡瘁しつゝある。

義 阿部材木店

阿部義男

明治四十四年十二月四日生
營業所　神奈川縣川崎市木目町七四五

氏は栃木縣河內郡羽黑村字中里の出身にして夙に材木商を志して上京、淺草區日本堤の加藤材木店に入り銳意斯業に從事すること實に拾有四年の長きに亘り店主を援けて業務の發展に貢獻する處甚大なるものあり、現に昭和十一年一月廿三

日東京材木商同業組合より勤續者模範店員として表彰記念品贈呈の光榮に浴せられたのである。斯くして昭和十四月十二月多年の成願たりし獨力開店の準備全く整ふや現地に阿部材木店を創立し、爾來多年練磨せる敏腕を揮ひ得意の獲得に眞劍な努力を振ひ其の堅實な營業振りは各關係方面より絶大なる信用を博し開業幾何ならざる今日早くも堅牢なる地盤が着々確立され營業も漸次發展の緒に就き其の前途に多大の期待がかけられてゐる。しかして同店の取扱品は一般内外材木にして川崎西部材木商組合である。

同　七八　　藤田金作　　神地一七二六　　長谷川峯吉
池田町一一四　　電話川崎三一五六　　新作　　電話中原三三　　小川森之助
同　一一四　　大竹菊松　　上丸子　　川崎市南町二〇　　宮田伊三郎
旭町一ノ一一　　所信次　　鹿島田　　見染七四　　杉山勤
大島町一ノ二七七九　　矢崎謙次　　都築郡中川村山田　　同　四　　電話川崎三一二九　　秋山春吉
元木一　　森澤一夫　　大棚　　松本政一
電話川崎二九一一　　志澤良助　　電話中原一四三　　内田仙之助
生田村生田四五八　　電話登戸三八　　秋山道治　　田口仲三　　漆原金作　　吉野丑五郎　　宮田伊三郎

埼玉縣

㊀ 大和屋材木店

岡田淺吉

明治二十三年生
營業所　埼玉縣浦和市常盤町
電話浦和二一六八番

氏は埼玉縣出身で、與野町に生れた人である。年少から材木業に興味を持ち、長ずるに及んで斯業を以て身を立てんと志し、川越市に出でゝ萬佐材木店に入店し、孜々として業に服し、勤勉忠實、同僚に模範としての幾年を過した後、同市を選んで店舗を構へ、以て獨立自營の念願を果したのだつた時に大正三年、氏二十四歳。爾來、構風沐雨星霜を閲して二十有五年。時に起伏あり、勢に消長ありと雖、氏の奮闘的精神と練達の手腕は、よく一切の難關を突破し、艱險を克服して、今や坦々たる成功の大道を邁進するに至つて、店員五名を使用し、店勢大に張る。なほ忙繁を割いて氏は現に町會相談役として公共自治の爲に盡して居る。因に氏の取引銀行は八十五銀行、武州銀行等である。

㊀ 小川材木店

小川平義

明治四十二年十月二十六日生
營業所　埼玉縣浦和市高砂町四ノ一九
電話浦和二三一八番

當店は先代以來、相當の老舗として、當方面業界に知られて居る。當主經營を繼承してこの方、既に牢固として廣汎な業礎の上に立つて、氣鋭の手腕を振ひ、積極進取の方針を堅持して、精勵努勉、内外材木のみ、鈔木を取扱ひ、特に會社工場方面大に納入の顧客獲得に成功し、逐年業績を擧げて今日に及んで居る。然して氏の年齢漸く而立。その春秋に富むが故に、その大成は將來に期して俟つべく、その活躍、業界具眼者の齊しく刮目する所である。因に氏の取引銀行は、八十五銀行武州銀行である。

㊀ 桝屋材木店

田口春松

明治三十九年生
營業所　埼玉縣浦和市常盤町四五五七
電話浦和二一二八番

當店は明治十三年頃、先代豐吉氏の創業に係り、六十餘年の老舗として當方面の業界に著聞して居る。氏は第二代として當店を繼承して以來、慧敏の頭腦と、潑剌たる手腕を以て牢固として動かすべからざる業礎の上に立ち、活躍縱横、業績日に月に顯著を致して今日に及んで居る。爲めに、その大成は業界の齊しく刮目するところであつたが、今次支那事變勃發するや、應召、勇躍、祖國の爲めに銃を執つて征途に就いたのである。留守を守つて古參の店員氏が中心となり、氏をして後顧の憂なからしむべく、店務を司つて、精勵奮闘誠に涙ぐましいものがある。

佐久間材木店

佐久間有造

明治四十一年三月十日生
營業所　埼玉縣浦和市岸町六ノ九

當店は先代の創業で、當主は第二代である。氏は斯業の景圍氣中に生育して、業務に習熟する所があつたが、更に大成を期し、東京市深川區大和町の丸中木材店に入つて、斯業の研鑽に努むること幾年。更に兵役に野戰重砲兵に就いて奉公を完了した後、現地に家業を繼承した。時に昭和十三年五月氏正に而立の歳である。爾來、氏の活躍はよく業礎の既に堅きを利用して、業績の顯著を致し、更に店勢更に盛大を招いで、今日に及んで居る。氏なほ奉秋に富む。しかも精勵かくの如く、手腕かくの如くなるが故に、前途の洋々、將來の大成、期して俟つべきは謂ふまでもない。因に氏の取引銀行は八十五銀行浦和支店である。

岡田材木店

岡田兵左衛門

營業所　埼玉縣川口市元郷町一ノ一八一三

氏は當地の出身である。半生幾多の曲折を經た後、大正十五年の頃より製材業を營んで居たが、爾に材木商を志して上京、深川區木場平野町京梅木材店に入つて、斯道習業中であつた長男が、業務に精通し、業勢に通じ得て歸來し、氏を援くるに及んで、製材に兼ね內外木材業を營む事となつたのである。爾來、父子一體、家業の繁榮に精進し、業基をより牢固たらしめ、業域をより廣汎に拓き、業績をより顯著ならしめて、店勢大に張るの現況である。父君の老練なる指導と、長男氏の練達せる手腕は相俟つて、當店の更に更に輝しい前途を物語つて餘りある。因に、氏の取引銀行は武州銀行である。

岡田材木店

營業所　埼玉縣川口市榮町三
電話川口二九七四番

當店は先代岡田喜左衛門氏が、大正九年に現地に開業したもので、爾來二十年に近き相當の老舗として、當地方業界に著聞して居る。されば、强固なる基礎の上に立つて、確實なる顧客層を守り、堅實無比の營業方針を執つて、順調なる一路を辿つて今日に及んで居る。而して、先代の逝き後、店務の一切を與る人は石川氏であつて、氏は先代以來の當店員であり曾つて川口木材營業組合より、その勤續を賞せられ模範店員として表彰された人である。因に當店の取引銀行は武州銀行である。

富寛材木店

小林寛

明治二十七年一月五日生
營業所　埼玉縣川口市本町三ノ一三二
電話川口二五七八番

氏は栃木縣の出身で、同縣下都賀郡栃木町平井に呱々の聲を擧げた人。嚴父は小林富次郎氏で、氏は其の三男に生れた小學校を優秀の成績で卒業するや、實業に志し、材木業を選んで、斯業習得の爲に上京して深川區木場の材木問屋大竹商店に入り、薪水の勞を厭はずして斯業の研鑽に努むること多年。遂に業務に練達し、業勢に通曉し得たので、大正十二年五月、現地に店舗を構へて獨立經營、以て宿望を果したのであつた。時に氏二十九歳。しかも草創四ケ月にして大震災に遭逢せるも、よく帝都復興の氣運を握んで、一擧今日の業礎を築き、當地一流の店勢を張つて業界に雄視するに至つた。現に川口木材營業組合長たること十餘年、斯界に居然として重きをなしつゝある。因に氏の取引銀行は昭和銀行川口支店である。

森田材木店

森田孫平

明治三十八年生
營業所　埼玉縣川口市元郷一九四九

氏は、埼玉縣人である。年少十二歳にして上京し、千住大橋詰の池喜材木店に入つて、材木商たるべく斯業習得を志し薪水の勞を厭はず、辛酸を甘しとなして、刻苦精勵の十有七年。その辭するに當つて東京千住材木商組合は、その精勵を表彰する所があつた。かくて斯業に練達し斯業に通曉したので、昭和九年、現地の有望を卜して店舗を設け、獨立自營以て多年の念願を果し得たのであつた。爾來、堅實なる經營方針の下に草創の艱難を克服し、着々基礎を固くし、顧客を多くし、業績を擧げて今日に及んで居る。氏の手腕を以てすれば、その前途の洋々は、期し得て確實と稱するを得るであらう。

小西材木店

小西又次郎

明治三十年生
營業所　埼玉縣川口市榮町二ノ八一
電話川口二七七九番

氏は埼玉縣出身である。岩槻町なる生家は、材木商を業としたので、氏は幼少の折より斯業に親昵して生育した。爲に擧ぱずして斯道の機微に通じ、習はずして斯業の蘊奥を極め業務の練達を稱せらるゝ事多年の後、大正十四年、現地の將來有望なるに着目して、內外木材を取扱つて店舗を獨立自營した。兼ねてアーチッスベニア板特約店として活躍する等、爾來氏の手腕を縱橫に振つて星霜を閲する玆に十年を超え、基礎全く堅きを得て、成績亦顯著。現に店員四名を使用し、店勢大に張る。因に大宮町なる小西材木店主は氏の叔父君に當る。

上澤材木店

上澤進一

明治卅六年生
營業所　埼玉縣川口市飯塚一ノ八五三

氏は栃木縣出身である。年少十五にして鹿沼町なる菊地材

木店に入り、材木商たるべく業務習得を志し、夙夜懈らず、責務を盡して、具に習業の辛酸を嘗めた結果、業務の巨細に通じ、業界の機微を明にし得たので、昭和四年、現地の將來有望なるを相し店舗を設けて内外材木を取扱ひ、獨立自營、以て年來の念願を果したのであつた。時に氏二十六歳。爾來氏は堅實なる營業方針に終始一貫して、よく草創一般の困難を克服し、業績を日に月に顯著ならしめて今日に及んで居る現に店員二名を使用し、店務甚だ繁忙。しかして氏の資性溫厚にして篤實、四隣の信望を贏得て、現に町會會計を司り公共自治の爲に盡す所多大である。

田木屋支店

中村利吉

明治廿三年生
營業所　埼玉縣川口市仲町二
電話川口二一七八番

氏は當地田木屋本店主の實弟に當る。幼時より家業の材木業に携り、父兄を輔佐して家運の隆昌に粉骨すると共に、斯業の研鑽に習得に日夜碎身して懈らず、爲に年少にして斯業練達の手腕を有するに至り、店務を司つて頗る圓熟を稱せられた。されば獨自の手腕を振ふべき自由の天地を開拓すべく夢寐其の機を伺つて而立を超ゆる四歳。大正十二年、震災復興の氣運勃たるに乘じ、遂に立つて此の地に一店を設け、田木屋支店を標榜して内外材木取扱つて分家自營したのであつた。爾來、星霜十六年、敏腕よく一切の難局を打開して今日の盛大を致し、店員三名を置いて店勢大に張るの現況である。氏は亦四隣に德望あつて現に町會役員に推され町内自治の爲孜々として倦まず、益々其の信頼する所となつて居る。因に氏の取引銀行は武州銀行である。

山中材木店

山中覺之助

明治三十一年九月一日生
營業所　埼玉縣大宮市土手宿三七二

氏は栃木縣の出身である。同縣鹽谷郡藤根村に生れた。家業は製材業なので、幼少より斯界の雰圍氣中に生育し、父君を扶けて家業にいそしむの傍、業務を習得し、夙に練達の手腕を謳はれた。昭和八年、現地に進出して、内外材木、建具類床柱、天井板等を取扱つて、營業を開始した。爾來、星霜幾年、堅實を旨とせる經營方針は、顧客心理に對する深き理解を示せる態度と相俟つて、創業一般の難關を見事に克服し逐年業績の顯著を加へて、以て今日に及んで居る。氏のこの手腕を以てすれば、當方面の發展に伴ひ前途の洋々たるは、贅言を要しない。

小西材木店

小西幸三郎

明治廿九年生
營業所　埼玉縣大宮市町吉鋪三八八四
電話大宮五〇三番

氏は埼玉縣の出身である。父君が已に材木商であつたので

氏は斯業の雰圍氣中に生育し求めずして知り、學ばずして通じ、年少既に練達の手腕を以つて、父君を援け、家業の隆盛を計つたものである。かくて大正十一年、現地に内外材木店を開業すると共に、アーテックス、ベニア板特約店として、業界にデヴューした。爾來、氏の奮鬪目覺しきものがあり、幸年ならずして業礎の强固を致し、逐年其の業績を顯著ならしめ、星霜十五年に餘る今日、店員四名を置き、當地屈指の店舗として業界一流の名を縱にするに至つた。氏は資性溫厚頗る四隣の景仰に價し、現に町會長の地位にあつて、地方自治のため碎身の誠を致しつゝある。

大野材木店

大野大助

明治十一年十二月十八日生
營業所　埼玉縣大宮市
電話大宮六一番

氏は當地の出身で、大野松之助氏の長男である。少壯、幾多の波瀾曲折を經て、材木商の有望なるに着目し、氏而立を越ゆる三歳、明治四十三年、當地に内外材木を取扱つて、斯業を開始した。爾來、堅實を主義として、誠心以て顧客の信用を贏得、見事創業一般の難關を突破して業礎の堅固を確保し、着々業績を擧げて今日に及び、三十餘年に垂んとする老舗として且つ當方面一流店として、業界に謳はるゝに至つたなほ、氏は篤實にして且つ慧敏、頗る衆の推す所となり、大宮町助役として、鞏鑠、地方自治の爲に盡瘁したること鮮少でない。因に氏の取引銀行は三十六銀行武州銀行である。

六宮製材所

西尾武雄

明治四十四年三月廿二日生
營業所　埼玉縣大宮市

當製材所は大正三年、東京市本所區緊川町に於いて開業したものであるが、經營九年の後、かの大震災に遭遇して、大正十二年、當地に移轉し、現在に及んで居る。當主武雄氏は昭和七年より、海軍水兵として三年の奉公を完了した後、現業に就いて、その健腕を揮ひつゝある。創業以來二十五年、當地に移つて已に十五年以上の星霜を閲し、老舗の貫録充分なものがあり、組織を合資會社に改め、當地方第一流店として、業界の一方に雄視して居る。氏の年齒而立に達せず、甚だ春秋に富む。その健腕の眞價を發揮するは、むしろ將來にありと云ふべく、如之、牢固として磐石の如き地盤に立つ以上、前途は正に洋々と云ふべきであらう。なほ東京市深川區内の西尾製材所は氏の親戚に當る。

吉野材木店

吉野延治

明治廿五年生
營業所　埼玉北足立郡與野町上落合

當店は西川材木商組合の創立者として業界に著名なる吉野與三郎氏が、入間郡氣富村に創めたる、明治十年來、六十幾

年の老舗である。當主延治氏は、斯業の環境裡に生育して、父君の業務を助くるの一方、斯業の研鑽を怠らざる事多年。遂に、老練圓熟の手腕を以て業界に鳴るに至つた。笑裳を纏さに及び、玆に見る所あつて、昭和九年、現地に移轉開業し子息二名の協力の下に、一家を擧げて業務に傾倒した結果。日尙ほ淺きに拘らず、當地工場會社、建築業者等、大口の顧客を獲得し、業績を擧げ、業礎を築き、業界の一方に覇を稱して、先考の名を更に揭ぐるの店勢を張つて今日に及んで居る。なほ氏の取引銀行は八十五銀行である。

高野材木店

高野新太郎

明治廿七年生
營業所　埼玉縣北足立郡鳩ヶ谷町字里

氏は當地の出身である。夙に家業の織機にいそしんで、父君を援くる所があつたが、幾多の曲折を經て、材木業の有利に着目し、辛酸を嘗めて斯業の研鑽に努めて、これを習得するに成功し、大正十一年現地に現業を創めたのである。取扱ふ所、銘木、ベニヤ板、其他一般木材、並に製材を兼營した時に氏二十八歳。爾來、十年餘の星霜を閲して、氏の奮鬪は遂に今日の業礎を築くに成功したのであつた。現に二人の子息と共に、協力一致、家業の盛大に孜々として、業績を擧ぐるに專念して居る。その一家總動員的精勵はその大成を近き將來に期して謬つなしと謂ふべきであらう。

戸張材木店

戸張武治

明治四十五年生
營業所　埼玉縣北足立郡蕨町省線蕨町驛前
電話蕨二二九番

氏は埼玉縣人で、同縣北足立郡大久保村に生れた。本來學を好み、小學校經て中學校に進んだが、中途にして學を廢し上京し業て深川區木場の森脇材木店に入つた。蓋し、氏自ら實るを以て身を立てんと欲し、速に實務に就くの捷徑たのを知つたからである。かくて試練幾年、業務練達、業界て機微を咀心するを得たので、同店を辭し、現地に來つて、一店を設け自已の運命を打開すべく、材木商を獨立開業したのであつた。時に昭和十一年、氏二十四歳。爾來、少壯の鋭氣と、練達の活腕を以て業礎を築き、官廳、會社、工場等大量納入の顧客獲得に成功し、草創日尙ほ淺きに拘らず、盛大の店勢を張つて今日に及んで居る。なほ氏は現に在鄕軍人會分會の一班長として、銃後の守りに盡しつゝある。因に氏の取引銀行は武蔵銀行である。

千葉縣

吉岡材木店

吉岡拾五郎

明治三十八年生
營業所　千葉縣東葛飾郡松戸市花島三五六

氏は千葉縣松戸町の出身にして明治卅八年に生れ幼少の頃より材木商を志し、同町内某材木店に入り斯業を習得、昭和五年獨立され現在の地に吉岡材木店を創業されだ。爾來極めて堅實なる營業を續け漸次業績を擧げ今日の大をなし、相當多數の得意先を確保して居る、現在店員一名を使用し内外各種材木及び建具等を販賣して居る、尙ほ氏は松戸木材同業組合幹事の要職にある外青年團支團長として、また鄕軍分會班長として活躍されて居る。因みに氏の取引銀行は第百銀行である。

川口屋本店

林義之助

明治三十年生
營業所　千葉縣東葛飾郡松戸町川岸

川口屋材木店は氏をもつて三代の店主とする老舗にしてその地方に於ける有名店である。氏は幼少の頃より嚴父を援けて家業を修練され、父なき後、業務一切を繼承し今日に至つた。同店は舊來より廣範圍に亘る販路を有し、極めて殷盛なる營業をつゞけて居る。營業種目は内外木材を取扱つて居る因みに氏の取引銀行は第百銀行である。尙ほ氏は松戸木材同業組合副組長として斯業のため盡力され各方面の信望を集めて居る。

吉田材木店

吉田宗次郎

明治十四年生
營業所　千葉縣東葛飾郡松戸町二一一二

吉田材木店は先代の創業に係るもので、氏は二代店主として業績の向上を圖り著名な材木店として販路を益々開拓して居る。氏は幼少にして材木商を志し、父なき後年少にして家業一切を繼承し勤勉努力、父業の興隆に努めた結果、現在では斯界各方面よりの信望厚く得意先も相當多數を有し業績大いに擧げて居る。營業種目は内外各種木材を取扱ひ、また取引銀行は第百銀行である。氏は當年六十歳の高齢であるが、なほ壯健として業界のため獻身的努力を傾注されて居る。

石川材木店

石川倉吉

明治十三年生
營業所　千葉縣東葛飾郡松戸町三丁目

氏は父業を繼ぎ最初薪炭商を營むで居たが、大正十二年材木の販賣を開始した。當店は氏をもつて二代目の店主とする老舗にして同地方に於ける一流店として著名である。營業種

目は内外材木を取扱ひ杉丸太、米松、背板等を主として販賣して居る販賣先は主として一般消費者にして小口乍ら極めて殷盛商内振りである。現在店員一名を使用して居る。氏は當年六十二歳の高齢であるが、壯者を凌ぐ元氣をもつて營業をつゞけて居り、その將來は實に洋々たるものがある。

㊇ 川宇材木店

内藤木遣

營業所　明治二十三年生
千葉縣東葛飾郡松戸町川岸

氏は明治二十三年の生れにして當年五十一歳年少の頃より家業の材木商を修業され嚴父を補佐して業務の隆盛に努められた。當店は先代の創業に係る老舗にして、その地方の名家である。氏が貳代目店主として家業を繼承して後も家業は增々榮えて今日に至つて居る。氏はよく業務に精通し得意先も有力なるもの多數を有し極めて堅實なる營業をつゞけつゝある。營業種目は一般内外木材でその外石材を取扱つて居る。

Ⓚ 駿河屋

鈴木秋太郎

營業所　明治十六年八月廿五日生
千葉縣市川市市川一六二
電話市川一一七番

氏は靜岡縣磐田郡掛塚町の出身にして生家が材木商なりし關係上、十四歳の時上京して深川木場駿茂商店に入り刻苦勉勵十五ケ年の長きに亘る間斯業に從事一般業務に精通、主家の信頼厚かりしが、大正十二年七月新發展地として有望視されてゐる現地に獨力、駿河屋材木店を創立、爾來關東大震災復興等に不眠不休の努力を拂ひ業界各關係方面より多大の信用を博し、逐年營業の發展を見遂に今日の如き成功を贏ち得た奮鬪家である。更に氏は業界稀に見る人格者で業界並に一般市民の信望厚く、現に千葉縣木材商組合市川支部長に推されて業界の爲め日夜活動し、其の功績不尠、又た隣組、防空群長等に推されて銃後の御奉公に全力を傾靈しつゝあり、尙ほ氏は日露戰役に出征軍功に依り勳八等を賜はりし名譽の在郷軍人である。

㊀ 内田材木店

内田雄治

營業所　明治二十一年生
千葉縣市川市根本三一五五〇
電話市川一三〇番

氏は千葉縣の出身にして生家は農を業とせるも氏は夙に材木商を志して上京、江戸川區小岩町明賀屋材木店に入り八ケ年餘斯業に從事一般業務に精通し、主家の信頼厚かりしも多年の宿望たる獨立開業の準備全く整ひ、大正五年現地に内田材木店を創立し、爾來鋭意斯業の發展に努力、建築業者間に其の堅實なる商内振りが認められ、信用の加はるに連れ堅牢な地盤も獲得され營業は年を逐ふて發展し、遂に今日の如き大を爲すに至つたのである。氏は本業の多忙なるに拘はらず

社會公共的事業に幾多關與し、現に隣組防空群長等に推され日夜銃後の御奉公に不斷の努力を拂ふ等業界稀に見る活動家である。因に同店の取扱品は一般建築材で凡ての取引は現金主義を實行し、銀行を一切利用せぬと云ふ堅實振りである。

飯田材木店

飯田恒次郎

營業所　明治二十八年二月生
千葉縣市川市五丁目五四一
電話市川三六五番

氏は茨城縣稻敷郡龍ケ崎町の出身にして生家が材木商なりし關係上、普通教育修了後家庭に在りて鋭意斯業に從事嚴父を援けて家業の發展に貢獻する處甚大なるものあり、大正十四年關東大震災復興を目指して新發展地たる現地に進出飯田材木店を創立し、爾來事業の發展に不眠不休の努力を拂ひ、殊に氏が堅實な取引振りは一般建築業者間に多大の信用を博し、逐次堅牢なる地盤を確立すると共に營業は盛況に趣き今日の如き成功を贏ち得るに至つた。然して氏の生家は德川時代より連綿地方の名望家として知られ現在郷里の材木店は氏の實兄が經營されてゐる老舗で斯界稀に見る名家である。尙同店の取扱品は一般建築材にして取引銀行は千葉合同銀行である。

寺島材木店

寺島具一

營業所　明治二十九年生
千葉縣市川市市川一六九三
電話市川四三一番

氏は岐阜縣出身にして生家は農を業とせるも氏は材木商を志して十四歳の時上京、深川木場某材木問屋に入り永年に亘り斯業に勉勵、一般業務に精通主家の信頼厚かりしが、大正二年獨立本所區内に寺島材木店を創立爾來鋭意事業の擴張と其の發展に眞劍的努力を拂ひ、業界各方面より多大の信用を博し、業績頗る擧りしも氏は現地の將來有望なる點に着眼し大正十三年決然移轉を敢行し、一層敏腕を揮はれし結果遂に今日の如き大を爲すに至つたのである。而して同店では一般材木の販賣を兼ね製材業をも營み盛況を極め其の仕入先は主として原産地である。因に同店では凡ての取引は現金取引なるため銀行を利用せぬと云ふ堅實さである。

㊁ 中村材木店

中村泰助

營業所　明治三十二年生
千葉縣市川市平田
電話市川七六番

氏は千葉縣船橋市の出身にして生家が農業を營まれし關係上、普通教育修了後家庭に在りて農業に從事中、當店の創立者（日清戰役直後創立せられた老舗）中村百助氏の懇望に依り當主泰助氏二十四歳の時同家の養子となられ、斯業に從事中、昭和十三年養父百助氏は六十八歳を以て逝去せられたので、氏は家督を相續し一般業務を繼承益々營業の發展に邁進

せられてゐる。同店は二代目の老舗で業界各方面に信用厚く現在市川市に於ける同業者中第一の資產家にして、其の堅實な商内振りは世間周知の事實である尙當主は幾多社會公共的事業に關與し、現に警防團員其他の要職に推されて日夜活動を續けられてゐる。因に同店取扱品は一般木材で取引銀行は千葉合同銀行である。

吉孝材木店

吉野孝四郎

營業所　千葉縣市川市八幡一三五三
明治三十四年生

氏は東京市城東區の出身幼にして材木商を志し、十六歳の時深川區大和町某材木店に入り、永年に亘り鋭意斯業に從事主家の爲め貢献せる功績甚大、現に主家勤務中東京材木商同業組合より勤續模範店員として表彰記念品贈呈の光榮に浴されたのである。斯くして昭和五年現地に獨力吉孝材木店を創立、爾來事業の發展とその擴張に鋭意努力、氏の堅實なる營業振りは各關係方面より多大の信用を博し堅牢なる地盤獲得と共に逐年營業は盛況に趣き、殊に同地方は近年急激なる發展振りで建築界も滿々盛況を來し、從つて其の利潤も多く現に同氏は其の店舗並に住宅を新築する等其の發展振り著しく尙前途に多大の期待がかけられ眞に洋々たるものある。而して同店の主なる取扱品は一般業柄材等で仕入先は原產地及び深川木場である。

本澤材木店

本澤金次

營業所　千葉縣市川市荒野九八
明治三十七年三月生

氏は千葉縣君津郡馬來田村出身にして生家は農業を營みあるも、氏は材木商を志して二十三歳の時上京、氏の親戚に當る深川和倉町の斯界の巨頭丸宇本店主の經營さる三番賣場に於て鋭意斯業に勉勵、一般業務に精通昭和九年二月現地に獨力本澤材本店を創立、爾來事業の擴張と其の發展、全力を傾盡し、其の堅實なる營業振りは業界各關係方面より多大の信用を博し堅牢なる地盤も獲得されて營業は年を逐ふて盛況を呈し、殊に同地方は近年急激なる發展を來しつゝあるので氏の前途に多大の期待がかけられ、同市第一流の材木店となるのも遠くはあるまいと見られる。眞に洋々たるものがある。取引銀行は第一銀行である

金子忠藏材木店

金子忠藏

營業所　千葉縣船橋市五日町
明治二十八年六月生

氏は千葉縣船橋市の出身にして父業は陶器漆器商であつた幼少の頃金子材木店に入り斯業に志し、修業を積み主家のため大ひに盡力されたが金子家の懇望に因り養子として當家に入籍した、主家は材木商として三代に亘る老舗にして氏は先代忠藏氏が昭和八年病歿されるや家督を相續し業務一切を繼

承、幼名正吉を忠藏と襲名し今日に至つた、從業員二名を使用し建築材一般を取扱ひ仕入先は深川、本所兩木場市場からである。

金子材木店

金子爲造

營業所　千葉縣船橋市五日市
電話一七八番
明治十二年生

氏は千葉縣船橋市の出身竹内家の二男として生れた。二十六歳の時、金子家の懇望により同家の養子となり材木商として成功を期し大ひに業務に精進された、當店は先代鐵五郎氏の創業にかゝる老舗であり、氏は明治四十五年養父病歿の後を繼ぎ業務一切を掌り今日に及んで居る、現在從業員四名を使用し建築材製材一般を取扱つて居る、因みに氏の取引銀行は第百銀行船橋支店である。

野口商店出張所

野口庄一郎

營業所　千葉縣船橋市宮本町
電話一七五番

當出張所は本店を深川區平野町一ノ一八番地に有し、松丸太問屋として斯界の重鎭として知られて居る、本店從業員は五十餘名の大勢を算し出張所も八名の從業員を使用して居る店主野口氏は常に深川にあつて業務を掌られて居るので、出張所の業務一切は主任青島勝兵氏が擔當され業績向上に精進されて居る。取扱ひ品目は一般建築材製材一般である。因みに深川本店の電話本所二〇九二番、四一二一番二五八番である。

內外材木一般
㋟ 神宮材木店
神宮啓治
東京市王子區堀船町一ノ七二九
電話王子二九二三番

材木一般
石井材木店
石井兼吉
東京市王子區赤羽二丁目四一二
電話赤羽二〇六七目

內外材木各種
製材一般
卜 龜井材木店
龜井富八
東京市淀野川區淀野川町六八二

建築材一般
株式會社 丸喜商店
社長 町田吉三郎
東京市板橋區志村小豆澤六六八
電話赤羽二九〇九番

奉祝皇紀二千六百年記念

昭和八年十二月五日初版發行
昭和十五年十月廿二日印刷
昭和十五年十月廿八日五版發行

不許複製

定價貳拾圓也

著作兼發行及印刷人 東京市小石川區江戸川町二十八番地 平山陽三

印刷所 東京市小石川區江戸川町二十八番地 平山印刷所

發行所 東京市小石川區江戸川町二十八番地 帝國產業興信所
振替東京七三八六一番
電話小石川(二〇六九番(營業用)
(五五二九番(編輯用)

奉祝皇紀二千六百年記念

材木問屋

松材専門

加藤寅藏商店

東京市深川區豐住町二丁目一番地

電話深川(64)〇一五四番

合資會社

宮下木材東京店

代表社員　山田繁太郎

東京市深川區木場町三丁目十七番地

電話深川(64)〇九三番
(一一八六三番)

402
E 23

終